

1995年度

外国語学部シラバス

獨協大学

利用上の注意

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者（新カリキュラム）用と、1993年度以前入学者用（旧カリキュラム）とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 本文の科目名は、新カリキュラム対象の科目ではそのまま科目名が、旧カリキュラム対象の科目では科目名の後に（旧）の表示が記されています。
合併でおこなわれる授業では、新旧の科目名が併記されています。

- ④ 「文化人類学」は新カリキュラムにも旧カリキュラムにも開設されている科目ですが、同じ名称でも異なる科目です。

新カリキュラムの「文化人類学」は旧カリキュラムの「人類学」と合併して開設しており、旧カリキュラムの「文化人類学」は新カリキュラムの「社会科学特殊講義A（文化人類学特殊講義）5」と合併しています。

履修登録や、試験の際には十分に気をつけて下さい。

目 次

1994年度以降入学者対象（新カリキュラム）

保健体育部門

保健体育講義	1	-----	(半期完結)	久松 一 恵	-----	1
"	2	-----	(半期完結)	青柳 多恵子	-----	3
"	2	-----	(半期完結)	梶野 克 之	-----	5
"	2	-----	(半期完結)	松原 裕	-----	7
体育						
" (アウトドアトレーニング(前期)・アウトドアレクリエーション山岳型(集中授業))		--		和田 智	-----	9
" (インラインスケート)		-----		加藤 雅 子	-----	11
" (インラインスケート)		-----		和田 智	-----	13
" (インラインスケート(後期)・アウトドアレクリエーション海浜型(集中授業))		--		和田 智	-----	15
" (インラインスケート(後期)・スケート(集中授業))		-----		和田 智	-----	17
" (硬式テニス(土曜2限目))		-----		小俣 充	-----	19
" (硬式テニス(土曜1限目))		-----		小俣 充	-----	21
" (硬式テニス)		-----		田中 茂 宏	-----	23
" (硬式テニス)		-----		土井 浩 信	-----	25
" (硬式テニス)		-----		中沢 克 江	-----	27
" (硬式テニス)		-----		松原 裕	-----	29
" (硬式テニス)		-----		和気 秀 文	-----	31
" (硬式テニス(後期)・スキー(集中授業))		-----		松原 裕	-----	33
" (ゴルフ)		-----		野口 昭 彦	-----	35
" (ゴルフ)		-----		山中 邦 夫	-----	37
" (ゴルフ)		-----		吉田 卓 司	-----	39
" (サッカー)		-----		田代 力 也	-----	41
" (サッカー)		-----		田中 茂 宏	-----	43
" (サッカー)		-----		福井 真 司	-----	45
" (サッカー)		-----		松本 光 弘	-----	47
" (サッカー)		-----		松原 裕	-----	49
" (スキートレーニング(後期)・スキー(集中授業))		-----		松原 裕	-----	51
" (スキー検定トレーニング(後期)・スキー検定(集中授業))		-----		松原 裕	-----	53
" (ソーシャルダンス)		-----		青柳 多恵子	-----	55

体育

"(ソフトボール)	池 垣 功 一	57
"(ソフトボール)	太 田 朝 博	59
"(ソフトボール)	小 川 又八朗	61
"(ソフトボール)	萩 野 元 祐	63
"(ソフトボール)	田 代 力 也	65
"(ソフトボール)	檜 山 康	67
"(ソフトボール・スキー(集中授業))	田 代 力 也	69
"(卓球)	天 野 和 彦	71
"(卓球)	奥 野 忠 枝	73
"(卓球)	中 川 昭	75
"(卓球)	本 田 稔 祐	77
"(軟式野球)	太 田 朝 博	79
"(軟式野球)	萩 野 元 祐	81
"(バスケットボール)	小 川 又八朗	83
"(バスケットボール)	勝 瀬 武	85
"(バスケットボール)	檜 山 康	87
"(バドミントン)	梶 野 克 之	89
"(バドミントンⅡ)	梶 野 克 之	91
"(バレーボール)	小 俣 充	93
"(バレーボール)	中 沢 克 江	95
"(フリースポーツ)	土 井 浩 信	97
"(フリースポーツ)	檜 山 康	99
"(フリスビー(前期)・ウインドサーフィンを(集中授業))	和 田 智	101
"(ラグビー)	天 野 和 彦	103
"(ラグビー)	中 川 昭	105

人文科学部門

哲学	高 尾 由 子	107
"	谷 口 郁 夫	109
"	安 本 行 雄	111
心理学	杉 山 憲 司	113
"	三 本 茂	115
倫理学	市 川 達 人	117
国語学	桂 千佳子	119
"	小 島 幸 枝	121
国語表現	新 里 博 樹	123
"	北 村 進	125

国語表現		小島幸枝	127
"		福沢健	129
"		宮澤康造	131
日本文学		飯島一彦	133
"		中村文	135
"		福沢健	137
外国文学		北澤滋久	139
"		松山恒見	141
"		宮澤康造	143
"		山路朝彦	145
歴史学(日本史)		新井孝重	147
"(日本史)		齊藤博	149
"(東洋史)		熊谷哲也	151
"(東洋史)		西嶋定生	153
"(西洋史)		高橋正男	155
"(西洋史)		古川堅治	157
人文科学特殊講義A			
"(現代社会と学問)	1	川村肇	159
"(中東の歴史)	2	高橋正男	161
"(キリスト教史I)	3	中島文夫	163
"(西洋倫理思想史)	4	中島文夫	165
"(日本近代史)	5	中村粲	167
"(東洋思想史)	6	西嶋定生	169
"(古典古代の遺産)	7	古川堅治	171
"(日本思想史)	8	前野裕	173
"(比較文学・比較文化)	9	松田穰	175
"(西洋哲学史)	10	安本行雄	177
"(哲学思想史)	11	安本行雄	179

社会科学部門

政治学		志摩園子	181
経済学		安藤登	183
"		岡田博	185
日本国憲法		内藤光博	187
社会学		有吉広介	189
国際関係論		阿部純一	191
文化人類学		井上兼行	193

社会科学特殊講義A

“(商法概論)	1	-----	明田川	昌幸	-----	195
“(東アジア国際関係分析)	2	-----	阿部	純一	-----	197
“(教育法)	3	-----	市川	須美子	-----	199
“(近代市民社会像の形成と批判)	4	-----	市川	達人	-----	201
“(文化人類学特殊講義)	5	-----	井上	兼行	-----	203
“(広告論)	6	-----	梶山	皓	-----	205
“(日本経済論)	7	-----	木村	健二	-----	207
“(マスコミュニケーション論)	8	-----	佐々木	輝美	-----	209
“(社会思想史)	9	-----	谷口	郁夫	-----	211
“(経営学概論)	10	-----	富田	忠義	-----	213
“(歴史的に見たパレスチナ問題)	11	-----	奈良本	英佑	-----	215
“(経済理論の基礎—マクロ理論を中心として)	12	-----	西村	允克	-----	217
“(国際法)	13	-----	廣部	和也	-----	219
“(政治学原論)	14	-----	深澤	民司	-----	221
“(国際貿易と国際収支調整)	15	-----	益山	光央	-----	223
“(民法概論)	16	-----	松嶋	由紀子	-----	225
“(集団と文化の社会心理学)	17	-----	三本	茂	-----	227
“(ジャーナリズム)	18	-----	森永	京一	-----	229
“(世論調査)	19	-----	森永	京一	-----	231
“(貿易実務)	20	-----	山崎	静光	-----	233
“(会計総論)	21	-----	湯田	雅夫	-----	235
“(現代国際社会の統合と分裂)	22	-----	若林	広	-----	237

自然科学部門

数学	-----	福井	尚生	-----	239	
物理学	-----	東	孝博	-----	241	
地学	-----	福井	尚生	-----	243	
生物学 A	-----	加藤	僖重	-----	245	
“ B	-----	加藤	僖重	-----	247	
自然科学概論	-----	福井	尚生	-----	249	
自然科学特殊講義A						
“(東洋の健康論)	1	-----	青柳	多恵子	-----	251
“(トレーニング論)	2	-----	梶野	克之	-----	253
“(植物と人間)	3	-----	加藤	僖重	-----	255
“(化学)	4	-----	杉浦	三千夫	-----	257
“(宇宙論)	5	-----	福井	尚生	-----	259
“(体力トレーニング論)	6	-----	松原	裕	-----	261

情報科学部門

コンピュータ概論	-----	東孝博	-----	263
"	-----	金子憲一	-----	265
"	-----	高柳敏子	-----	267
"	-----	前田功雄	-----	267
情報論	-----	前田功雄	-----	269
言語学	-----	新里博樹	-----	271
"	-----	城田俊	-----	273
情報科学特殊講義A				
"(コンピュータ・プログラミング論) 1	-----	高柳敏子	-----	275
" " " 2	-----	(前期) 富沢儀一	-----	☆
		(後期) 立田ルミ		
"(コンピュータサイエンスと自然言語処理) 2	-----	工藤育男	-----	277
言語学特殊講義A				
"(音の構造) 1	-----	伊豆山敦子	-----	279
"(意味論) 2	-----	宗宮好和	-----	281
"(統語論) 3	-----	J. Whitman	-----	283

☆経済学部シラバスの経営学科(新カリ)「プログラミング論」参照
同シラバスは教務課窓口で配布

比較文化部門

比較文化論	-----	町田喜義	-----	285
地域文化研究				
"(現代英米社会研究) 1	-----	有吉広介	-----	287
"(熱帯雨林の生態と開発問題) 2	-----	犬井正	-----	289
"(ラテンアメリカ歴史文化論) 3	-----	清水透	-----	291
"(ヨーロッパ近代とイスラーム世界) 4	-----	奈良本英佑	-----	293
"(戦後冷戦史の展開) 5	-----	深谷満雄	-----	295
"(中東(ネパール・インド・チベット)の社会と文化) 6	-----	三本茂	-----	297
比較文化論特殊講義A				
"(日本の民族芸能) 1	-----	飯島一彦	-----	299
"(カリブ海の民族と文化) 2	-----	井上兼行	-----	301
"(日本古代文学) 3	-----	北村進	-----	303
"(東西文化比較) 4	-----	近衛秀健	-----	305
"(南から見る南北アメリカ関係) 5	-----	佐藤勘治	-----	307

比較文化論特殊講義A

“(能楽における中世武士の諸像)	6	-----	瀬尾 菊次	-----	309
“(ユダヤ教の歴史)	7	-----	高橋 正男	-----	311
“(比較教育)	8	-----	鳥谷部 志乃恵	-----	313
“(パロディーが作りだす日本文学の伝統)	9	-----	中村 文	-----	315
“(現代スペインの社会と文化)	10	-----	野々山 ミチコ	-----	317
“(古代ギリシャ社会における日常生活)	11	-----	古川 堅治	-----	319
“(アラブ文化・芸術)	12	-----	本田 孝一	-----	321

日本語教育部門

日本語学概論	-----	金田一 秀穂	-----	*
日本語教育概論	-----	井口 厚夫	-----	323
日本語教授法Ⅰ	-----	井口 厚夫	-----	325
“	-----	中西 家栄子	-----	327
日本語教授法Ⅱ	-----	中西 家栄子	-----	329
日本語文法論	-----	城田 俊	-----	331
日本語音声学	-----	城田 俊	-----	333
対照言語学	-----	中西 家栄子	-----	335
日本語史	-----	小島 幸枝	-----	337
日本語特殊講義A (日本語ケーススタディ)	-----	井口 厚夫	-----	339

*最初の授業で指示する。

第三外国語部門

ドイツ語Ⅰ	-----	山路 朝彦	-----	341
ドイツ語Ⅱ	-----	大串 紀代子	-----	342
フランス語Ⅰ	-----	松橋 麻利	-----	343
フランス語Ⅱ	-----	田中 成和	-----	344
スペイン語Ⅰ (総)	-----	各担当教員	-----	345
“ (L)	-----	各担当教員	-----	346
ロシア語Ⅰ	-----	井上 幸義	-----	347
ロシア語Ⅱ	-----	井上 幸義	-----	348
中国語Ⅰ	-----	秦 敏	-----	349
“	-----	張 継濱	-----	350
中国語Ⅱ	-----	秦 敏	-----	351
朝鮮語Ⅰ	-----	井上 和枝	-----	352
朝鮮語Ⅱ	-----	朴 聖雨	-----	353
アラビア語Ⅰ	-----	本田 孝一	-----	354

アラビア語Ⅱ	-----	本 田 孝 一	-----	3 5 5
古典ギリシア語	-----	古 川 堅 治	-----	3 5 6
ラテン語	-----	松 田 治	-----	3 5 7

総合部門

総合講座A	-----	清 水 透	-----	3 5 8
総合講座B-1	-----	(前期完結) 青 柳 多恵子	-----	3 5 9
総合講座B-2	-----	(後期完結) 青 柳 多恵子	-----	3 6 1

共通演習部門

共通演習	-----	青 柳 多恵子	-----	3 6 3
"	-----	有 吉 広 介	-----	3 6 4
"	-----	飯 島 一 彦	-----	3 6 5
"	-----	井 口 厚 夫	-----	3 6 6
"	-----	加 藤 僖 重	-----	3 6 7
"	-----	小 島 幸 枝	-----	3 6 8
"	-----	佐 藤 勘 治	-----	3 6 9
"	-----	清 水 透	-----	3 7 0
"	-----	城 田 俊	-----	3 7 1
"	-----	高 橋 正 男	-----	3 7 2
"	-----	鳥谷部 志乃恵	-----	3 7 3
"	-----	中 西 家栄子	-----	3 7 4
"	-----	古 川 堅 治	-----	3 7 5
"	-----	松 原 裕	-----	3 7 6
"	-----	三 本 茂	-----	3 7 7

目 次

1993年度以前入学者対象（旧カリキュラム）

一般教育科目

人文科学系列

哲学	高尾由子	107
〃	谷口郁夫	109
〃	安本行雄	111
倫理学	市川達人	117
日本語学	桂千佳子	119
〃	小島幸枝	121
国語	新里博樹	123
〃	北村進	125
〃	小島幸枝	127
〃	福沢健	129
〃	宮澤康造	131
日本文学	飯島一彦	133
〃	中村文	135
〃	福沢健	137
外国文学	北澤滋久	139
〃	松山恒見	141
〃	宮澤康造	143
〃	山路朝彦	145
日本史	新井孝重	147
〃	齊藤博	149
東洋史	熊谷哲也	151
〃	西嶋定生	153
西洋史	高橋正男	155
〃	古川堅治	157
一般言語学	新里博樹	271
〃	城田俊	273
一般音声学	伊豆山敦子	279

社会科学系列

経済学	安藤登	183
〃	岡田博	185
政治学	柴田平三郎	379
〃	志摩園子	181
〃	星野昭吉	381
法学	内藤光博	187
社会学	有吉広介	189
社会思想史	市川達人	201
〃	谷口郁夫	211
人文地理学	犬井正	289

自然科学系列

心理学	杉山憲司	113
〃	三本茂	115
数学Ⅱ	遠藤信	383
数学概論	福井尚生	239
物理学	東孝博	241
化学	杉浦三千夫	257
地学	福井尚生	243
生物学 A	加藤僖重	245
〃 B	加藤僖重	247
人類学	井上兼行	193
自然科学概論	遠藤信	385
〃	福井尚生	249
コンピュータ概論	東孝博	263
〃	金子憲一	265
〃	高柳敏子	267
〃	前田功雄	267

総合系列

総合科目B-1	(前期完結)	青柳多恵子	359
〃 2	(後期完結)	青柳多恵子	361

— 保健体育科目 —

保健体育部門

保健体育講義	1 (半期完結)	久松一恵	1
"	2 (半期完結)	青柳多恵子	3
"	2 (半期完結)	梶野克之	5
"	2 (半期完結)	松原裕	7
体育Ⅰ, Ⅱ					
" (アウトドアトレーニング(前期)・アウトドアレクリエーション山岳型(集中授業))		和田智	9
" (インラインスケート)		加藤雅子	11
" (インラインスケート)		和田智	13
" (インラインスケート(後期)・アウトドアレクリエーション海浜型(集中授業))		和田智	15
" (インラインスケート(後期)・スケート(集中授業))		和田智	17
" (硬式テニス(土曜2限目))		小俣充	19
" (硬式テニス(土曜1限目))		小俣充	21
" (硬式テニス)		田中茂宏	23
" (硬式テニス)		土井浩信	25
" (硬式テニス)		中沢克江	27
" (硬式テニス)		松原裕	29
" (硬式テニス)		和気秀文	31
" (硬式テニス(後期)・スキー(集中授業))		松原裕	33
" (ゴルフ)		野口昭彦	35
" (ゴルフ)		山中邦夫	37
" (ゴルフ)		吉田卓司	39
" (サッカー)		田代力也	41
" (サッカー)		田中茂宏	43
" (サッカー)		福井真司	45
" (サッカー)		松本光弘	47
" (サッカー)		松原裕	49
" (スキートレーニング(後期)・スキー(集中授業))		松原裕	51
" (スキー検定トレーニング(後期)・スキー検定(集中授業))		松原裕	53
" (ソーシャルダンス)		青柳多恵子	55
" (ソフトボール)		池垣功一	57
" (ソフトボール)		太田朝博	59
" (ソフトボール)		小川又八朗	61
" (ソフトボール)		萩野元祐	63

体育 I, II

“(ソフトボール)	田代力也	65
“(ソフトボール)	檜山康	67
“(ソフトボール・スキー(集中授業))	田代力也	69
“(卓球)	天野和彦	71
“(卓球)	奥野忠枝	73
“(卓球)	中川昭	75
“(卓球)	本田稔祐	77
“(軟式野球)	太田朝博	79
“(軟式野球)	萩野元祐	81
“(バスケットボール)	小川又八朗	83
“(バスケットボール)	勝瀬武	85
“(バスケットボール)	檜山康	87
“(バドミントン)	梶野克之	89
“(バドミントンII)	梶野克之	91
“(バレーボール)	小俣充	93
“(バレーボール)	中沢克江	95
“(フリースポーツ)	土井浩信	97
“(フリースポーツ)	檜山康	99
“(フリスビー(前期)・ウインドサーフィオン(集中授業))	和田智	101
“(ラグビー)	天野和彦	103
“(ラグビー)	中川昭	105

— 共通自由科目 —

文化・思想部門

西洋哲学史	安本行雄	177
西洋倫理思想史	中島文夫	165
キリスト教思潮	中島文夫	163
東洋思想史	西嶋定生	169
日本思想史	前野裕	173
マスコミュニケーション論	佐々木輝美	209
“	森永京一	229
社会心理学	三本茂	227
比較文学	松田穰	175
文化人類学	井上兼行	203
比較文化論	町田喜義	285
情報論	前田功雄	269

コンピュータ・プログラミング論	高柳 敏子	275
"	(前期) 富沢 儀一	☆
		(後期) 立田 ルミ		
西洋文化特殊講義A-1	近衛 秀健	305
"	2	高橋 正男
"	3	古川 堅治
日本文化特殊講義A-1	飯島 一彦	299
"	2	北村 進
"	3	瀬尾 菊次
"	4	中村 粂
"	5	中村 文
比較文化論特殊講義A-1	清水 透	291
"	2	奈良本 英佑
情報論特殊講義A	工藤 育男	277
マスコミュニケーション論特殊講義A	梶山 皓	205

☆経済学部シラバスの経営学科(新カリ)「プログラミング論」参照
同シラバスは教務課窓口で配布

社会・国際関係部門

時事問題研究	阿部 純一	191
世論調査	森永 京一	231
文献調査法	小田 光宏	387
経済原論	西村 允克	217
日本経済論	木村 健二	207
経営学	富田 忠義	213
簿記・会計	湯田 雅夫	235
貿易実務	山崎 静光	233
民法概論	松嶋 由紀子	225
商法概論	明田川 昌幸	195
教育法	市川 須美子	199
政治学原論	深澤 民司	221
国際関係論 1	(前期) 有賀 貞	389
		(後期) 竹田 いさみ	391
"	2	(前期) 竹田 いさみ
		(後期) 有賀 貞
国際法	廣部 和也	219
国際経済論	益山 光央	223
国際政治史	深谷 満雄	295
時事問題研究特殊講義A-1	阿部 純一	197

時事問題研究特殊講義A—2	佐藤 勘 治	307
" 3	奈良本 英 佑	215
国際関係論特殊講義A	若 林 広	237

言語部門

日本語表現法	松 縄 啓 子	*
日本語教授法	井 口 厚 夫	325
"	中 西 家栄子	327
日本語学概論	金田一 秀 穂	*
日本語文法論	城 田 俊	331
日本語音声学	城 田 俊	333
日本語教育概論	井 口 厚 夫	323
日本語史	小 島 幸 枝	337
対照言語学	中 西 家栄子	335
言語学特殊講義A—1	宗 宮 好 和	281
" 2	J. Whitman	283
日本語学特殊講義A—1	井 口 厚 夫	339
" 2	中 西 家栄子	329
古典ギリシア語	古 川 堅 治	356
ラテン語	松 田 治	357
ドイツ語Ⅰ	山 路 朝 彦	341
ドイツ語Ⅱ	大 串 紀代子	342
フランス語Ⅰ	松 橋 麻 利	343
フランス語Ⅱ	田 中 茂 和	344
スペイン語Ⅰ (総)	各 担 当 教 員	345
スペイン語Ⅰ (L)	各 担 当 教 員	346
スペイン語Ⅱ (総)	各 担 当 教 員	393
スペイン語Ⅱ (L)	高 松 朋 子	394
スペイン語Ⅱ (読)	佐 藤 勘 治	395
スペイン語Ⅲ (総)	北 岸 団	396
スペイン語Ⅲ (L)	霞 洋 子	397
スペイン語Ⅲ (読)	高 松 朋 子	398
ロシア語Ⅰ	井 上 幸 義	347
ロシア語Ⅱ	井 上 幸 義	348
中国語Ⅰ	秦 敏	349
"	張 継 賓	350

*最初の授業で指示する

中国語Ⅱ	秦	敏	351
朝鮮語Ⅰ	井上	和枝	352
朝鮮語Ⅱ	朴	聖雨	353
アラビア語Ⅰ	本田	孝一	354
アラビア語Ⅱ	本田	孝一	355
総合講座A	清水	透	358

科目名	保健体育講義1 保健体育講義1(旧)	担当者名	久松一恵
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>健康が作られたり、壊されたりする所は家庭、学校、職場、地域、そして地球規模での社会においてである。しかも、生まれてから死ぬまで同一の地域・環境の中で暮す人は少なく、余儀なく、あるいは進んで移動したり、時に外国生活をする機会が増加している。それぞれの文化あるいは文明の中に潜在する健康危険を意識し、必要なサービスを利用しながら、心身を調整し、また生活環境に対処する实际的知識を問うこと。</p>		
講義概要	<p>本講義では生活者個人として心得ておくべき健康管理上の問題を、生活環境と心の問題に分けて取り上げる。</p> <p>前者では、いかなる時代、いかなる所でも、とくに開発途上国では重要な、病原微生物による健康障害と、食品の生産・製造・加工技術の高度化及び食品流通の国際化によって危惧されることになった化学物質の安全性、外国へ旅行をする場合の留意点について講義し、後者では主として精神不健康・精神障害の予防の視点で、基本的考え方を述べる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	課題に応じてプリントを配布し、参考文献を紹介する。	
評価方法	<p>学期末の定期試験による。</p> <p>授業への出席状況も考慮する。</p> <p>受講者が少人数の場合にはレポート提出を課すこともある。</p>		
受講者に対する要望など	講義予定は、多少、前後することがある。		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学について
2	健康づくりの実践的課題
3	健康、不健康、疾病、障害、リハビリテーション、及び死について
4	生活環境と健康 (1)食物・飲料水に起因する疾病の予防 (食中毒)
5	(2)食品・嗜好品の安全性 (食品添加物、残留農薬)
6	(3)海外旅行と健康 ①予防接種。②感染症の問題
7	③飛行機旅行。④自然環境。⑤病害動物。⑥携行医薬品等
8	心の健康、その考え方
9	心の不健康(1)
10	心の不健康(2)
11	精神障害の予防
12	まとめ
備考	

科目名	保健体育講義 2 保健体育講義 2 (旧)	担当者名	青柳 多恵子
-----	--------------------------	------	--------

講義の目標	<p>近年、健康革命が起こり、人々はタバコ・酒・諸々の薬の人体に及ぼす悪影響について真剣に考え、禁煙に踏切り、よりよい食事や運動に心掛けて病気にならないようにと思い始めた。しかし、現代生活の便利な日常生活が身体に及ぼす影響を考える時、何を成すべきかについてはまだ混乱があるといえる。現実の我々が営んでいる“文化的”なライフスタイルの多くを失わずに、より長く、より健康で、生産的な人生を豊かに生きるための、問題解決を目標とする。</p>		
講義概要	<p>現代の文明の発達が人間の生活環境や、健康にとって極めて危険な状態にある事と、真の健康の意味を正しく把握し、生涯を通して個々の事態に応じた運動処方の基本をしる。真の健康について検証し、その上に立って個人に合った運動プログラムについて作成していく。個々の体力を検証したうえで、栄養の問題・年齢に応じた運動の問題・日常生活の問題点や環境の作り出すストレスと疾病の関わりを考えながら、安全かつ健康な生活のための運動処方を作成する現代のトータルフィットネスに必要な項目を一つずつ検証する。</p>		
使用教材	テキスト	プリント使用	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の体力テストハンドブック ・体力科学からみた健康問題 加藤 橋夫著 ・日本人の健康観 NHK ・健康・体力づくり ネット・ローレンス著 ・スポーマンの食卓 五明 みさ子著 	
評価方法	テストと出席状況による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	機械文明の身体に及ぼす功罪について
2	運動不足と健康・疾病との関係
3	体力とは
4	栄養面から見た現代人の健康
5	身体運動から見た現代人の健康
6	疾病から見た現代人の健康
7	スポーツとその運動強度
8	運動処方について [その必要性と在り方]
9	年齢・性差・環境と健康
10	心拍数・エネルギー代謝率・スポーツからみる運動強度
11	個人に合う運動処方と健康維持について
12	まとめ レポート
備考	

科目名	保健体育講義2 保健体育講義2(旧)	担当者名	梶野克之
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探求し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。		
講義概要	体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。はじめに現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。つづいて体育をめぐる心理学的な側面について、個人・集団にわたって解説する。さらに体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し、理解を深める。さらに現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させる各種のトレーニングについて、一般的な原則を考えるとともに、その具体的な方法についても考える。		
使用教材	テキスト	使用しない。プリント配布	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桑野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版 ・ 大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院 	
評価方法	評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて：現代社会の特質に伴う体力の必要性や、スポーツに対する考え方の社会的背景とその変化などについて解説する。
2	前回に引き続き、生活の中のスポーツについてその現状と問題点を探り、これからの生活の質をめぐっての理解を深めるとともに、今後の課題について考える。
3	体育の心理について：体育の心理的側面について、発達の意義、発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などをとらえて理解する。
4	前回に引き続き、体育における運動学習について考える。学習の意義を考え、運動技能の能率化を理解し、練習とその効果について理解する。
5	前回に引き続き、体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について理解するとともに、集団の機能について理解する。
6	運動の生理について：身体活動の生理学的な側面について、運動と呼吸について、呼吸数や換気量を理解したうえで、酸素摂取量やエネルギー代謝などから考え、運動と循環について理解する。
7	前回に引き続き、運動と筋力について、筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。運動を制御する神経系についての理解を深める。
8	前回に引き続き、運動と筋力について、疲労の概念を理解するとともに、疲労の要因についての諸説を理解する。
9	体力とトレーニング：体力の概念について理解する。学生の体格・体力について理解するとともに、体力診断についてその方法を理解するとともに意義について考える。
10	前回に引き続き、体力づくりのトレーニングについて、その定義について考え、理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則についての理解を深める。
11	前回に引き続き、体力づくりの具体的な方法として、筋力にかかわる、ウエイト、トレーニングと、全身持久力にかかわる、サーキット・トレーニングについての理解を深める。
12	前回に引き続き、インターバル・トレーニングやその他のトレーニングについて考える。定期試験の範囲を発表するとともに、出題の傾向について発表する。
備考	

科目名	保健体育講義2 保健体育講義2 (旧)	担当者名	松原 裕
-----	------------------------	------	------

講義の目標	一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することを目標とする。社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを考えて欲しい。		
講義概要	<p>大学における保健体育の目的は、一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することです。受講者は、まず自分自身の健康を積極的に保持増進させ、学生生活ばかりでなく社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを真剣に考えてほしいのです。</p> <p>運動についてはいろいろなカリキュラムが組まれていますがその種目には限りがあります。生涯体育に向かって、得意な運動種目についての技能を習得することはもちろんですが、「見て楽しむスポーツ」についても、できるだけ多くの運動について理解しておくことは大切なことですし、幅広い教養人の素養としても価値あることでしょう。</p>		
使用教材	テキスト	『運動文化と体育』 多和健雄編著 共栄出版	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL 2」 ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通して保健体育の一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	健康と運動・健康と疲労
3	健康と栄養・健康と疾病予防
4	酒・タバコ・クスリ
5	腰痛と姿勢の基礎
6	女性とスポーツ・余暇とスポーツ
7	オリンピック競技・ワールドカップ競技
8	スポーツとフェアプレー・スポーツと紳士の行為
9	運動技能と大脳生理学
10	古代・中世・近世の体育
11	近代・現代の体育
12	日本の体育
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （アウトドアトレーニング(前期)・アウトドアレクリエーション山岳型(集中授業)）	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 kmに及ぶ。 ・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。 ・集中授業では、日頃から歩きなれていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日を乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。 ・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成7年9月4日（月）～8日（木）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事 その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術 その1
8	野外技術 その2
9	野外技術 その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事 その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (インラインスケート)	担当者名	加藤雅子
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>インラインスケートに乗る感覚を覚える。</p> <p>フォアとバックのスケータリングや、ターン等、乗る位置を確認して使い分けて滑ることを学ぶ。</p> <p>一人で滑るだけでなく、二人で滑るときのポジションや、滑り方を学ぶ。</p>	
講義概要	<p>スケータリング、クロス、ステップ、ターンなど、基本的な滑り方や足の置き方、動作を学ぶ。</p> <p>パイロンを使ったスラロームや、ローラーホッケーを体験する。</p> <p>ビデオで、スケータリング等をチェックし、客観的に運動を観察することを学ぶ。</p> <p>雨天時には、3棟1階の体育掲示板で集合場所を指示する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	出席状況、授業態度、レポート、技術の向上を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	<p>交通機関及び体調等やむを得ない理由以外の遅刻は認めない。</p> <p>動きやすい服装で受講すること。</p> <p>ソックスは必ず着用すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション イメージビデオの視聴
2	安全のための諸注意 靴の選び方、履き方 転び方、立ち方、歩行、ヒールストップ
3	フォア歩行 ヒールストップ フォア・スケーティング
4	パイロンを使った歩行、ひょうたん、片ひょうたん
5	パイロンを使った両足カーブ、片足カーブ T字ストップ
6	バック歩行 バックひょうたん
7	バックスケーティング
8	バックからフォアへチェンジ (踏み替え)
9	フォアからバックへチェンジ (踏み替え)
10	ターン スパイラル
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	フォアクロスの導入
3	フォアクロス
4	バッククロスの導入
5	バッククロス
6	パワーストップ ダンスのポジション学習
7	ダンス
8	プログラム作成
9	プログラム
10	これまでの復習
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (インラインスケート)	担当者名	和田 智
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	インラインスケート基本技術の習得		
講義概要	<p>インラインスケート初心者でも受講可能。 スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献		
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、テストの結果(20%)で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストッピング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス その1
5	フォアクロス その2
6	フォアクロス その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (インラインスケート(後期)・アウトドアレクリエーション海浜型(集中授業))	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	<p>前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。</p> <p>集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンドайビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>		
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、スキンドайビングは未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・集中授業の必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として30000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成7年7月25(火)～29日(土) 4泊5日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村庭場(むしろば)海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストップング
3	歩行からフィアストロック・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(ⅱ) (インラインスケート(後期)・スケート(集中授業))	担当者名	和田 智
-----	--	------	------

講義の目標	<p>後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。</p> <p>アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。</p> <p>カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、アイススケートの未経験者でも受講可能。 ・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。 ・集中授業の必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として40000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 <p>集中授業は、期間：平成7年12月18(月)～22日(金)4泊5日 場所：長野県軽井沢スケートセンター(塩壺温泉ホテル)の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意 ストッピング
3	歩行からフィアストロック フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク バックストロックの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん その1
9	バック片ひょうたん その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (硬式テニス(土曜2時限目))	担当者名	小 俣 充
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと(基礎)の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎(ボレー)と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者(中級以上:フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる)のみ受講可。		

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ボレーの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （硬式テニス（土曜1時限目））	担当者名	小 俣 充
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取り組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。		
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストローク）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2 テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3 スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂	
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価		
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。		

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1. 身体の構えと加重
2. 身体の軸と身体の動き
3. フットワーク
4. グリップ
5. ストロークの原型
6. ラケットのセット
7. ラケットの動き
8. 打点
9. 目線 (バックとフォアの見分け)

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (硬式テニス)	担当者名	田中茂宏
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	技術的には、フォア、バックの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学んでもらう。	
講義概要	<p>ストロークの練習、ボレー、サービスの練習を中心に行い、授業の後半では、ゲームの結果を記録する。</p> <p>能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。</p> <p>グループ対抗のゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。</p> <p>雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。</p> <p>着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。</p> <p>見学者は着替えた後に出席すること。</p> <p>授業はテニスコートで実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	クレーテニスコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること(他のシューズは認めない) 出欠状況は各自で覚えておくこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。 ストロークを中心に練習し、ラリーが続けられる様にする。
3	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
4	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
5	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
6	ストローク、ボレーを中心に練習する。
7	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
8	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
9	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
10	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
11	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
12	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
2	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
3	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
4	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
5	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
6	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
7	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
8	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
9	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
10	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
11	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
12	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （硬式テニス）	担当者名	土井浩信
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。		
講義概要	テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。		
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。	
	参考文献	なし。	
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。		
受講者に対する要望など	テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。フォアハンドの基本ストロークの学習。用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアハンド(手なげトスのボール)。ショートラリー。バックハンド(手なげトスのボール)
4	サーブ練習の導入。球出し練習。 テニス経験者、ゲーム指導(ローテーション方式)。
5	サービスとサービスレシーブ練習。 連続グラウンドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム(ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー)の導入。円滑なゲーム運営について役割確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。 サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム(乱取り形式でのゲーム運営)。 課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム(乱取り形式) 課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム(乱取り形式) 課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム 課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム 課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム 課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (硬式テニス)	担当者名	中 沢 克 江
-----	---------------------------	------	---------

講義の目標	テニスのゲームができるように基本的技術を習得し、体を動かし、楽しむ。ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。	
講義概要	<p>基本的技術の習得</p> <p>ルール、マナーの理解</p> <p>ゲームを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームはダブルスを行う。 ・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。 ・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、レベル別を決める。 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講のこと。</p> <p>クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。 応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。 応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。 ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。 応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス 第7週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。3棟の体育掲示板を見ること。

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (硬式テニス)	担当者名	松原 裕
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを 通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術のレベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを 目標とする。一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本技術では、ストロークよりもサーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。 ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用で きない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用 用 教 材	テキスト	『テニス教本』 社団法人日本プロテニス協会編	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「突然変わり出す覚え方」 サーブの新打法とネットダッシュ 宮村 宏 ・VTR「突然変わり出す覚え方」 ネットプレーの新技术 宮村宏 	
評価 方 法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の 対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対す る 要 望 な ど	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業 内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④ ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方① ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方② ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④ ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （硬式テニス）	担当者名	和気秀文
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。		
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	授業への貢献度によって決定する。		
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウェアを持参すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグラウンドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグラウンドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグラウンドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グラウンドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	"
6	"
7	"
8	"
9	"
10	"
11	"
12	サーブと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (硬式テニス(後期)・スキー(集中授業))	担当者名	松原 裕
-----	---	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という健学の理念に基づき、硬式テニスとアルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルは原則としてテニス・スキーとも経験者とする。硬式テニスはダブルスのゲームを目標とし、一面6人×6面=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>スキーはアルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標としスキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p> <p>学内の授業でコートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」 	
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付） ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ゴルフ)	担当者名	野口昭彦
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会においては、健康増進、健康維持、またはストレス解消等さまざまな目的に応じて、身体活動を行う社会へと変化してきた。それは現代の生活環境の変化や悪化等により、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウェルネス(WELLNESS)運動として生涯必要とされている現状である。</p> <p>このことを考慮し、学生時代にゴルフを媒介としての運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。</p>	
講義概要	<p>ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年齢やその人の体力、技能に応じプレーが可能のため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人への思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にすスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。</p>	
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『はじめてのゴルフ』 谷口信弘、新星出版社 ・『ゴルフスウィング、レッスン』 伊能一郎、新星出版社 ・『ゴルフ基本』 学研 ・『ゴルフ上達の科学』 田中誠一、プレジデント社 ・『ティーチング・ゴルフ』 市村操一、ベースボールマガジン社 ・『ザ・アスレチックスウィング』 デビット・レッドベター、ゴルフダイジェスト社
評価方法	出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。	
受講者に対する要望など	<p>降雨や降雨後グラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。</p> <p>年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合わせる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアンの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用した練習。
11	ミドルアイアンの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアンの練習＝ダウブローを中心とした打ち込み。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアンの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアン＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウェイウッド＝ドライバと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実践的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （ゴルフ）	担当者名	山中邦夫
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。	
講義概要	ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングができるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	
評価方法	授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代（10,000円）を払込むこと。ゴルフグラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要 (VTRと講義)
3	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
4	スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習)
5	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
6	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
7	スイング (各種のクラブを用いて) の基本練習 ターゲットバードゴルフも行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
2	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
3	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
4	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
5	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
6	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
7	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
8	(学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習 パットニングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
10	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
11	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
12	実技テスト：ショートアイアン (約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) ：ロングアイアンまたはドライバー (まっすぐ安定したボールが打てれば合格)
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ゴルフ)	担当者名	吉田卓司
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	<p>ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。</p>	
講義概要	<p>ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直囑ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスイングをチェック指導の予定である。</p>	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	ナシ
評価方法	<p>出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること(汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術の TV ビデオ鑑賞
4	ショートアイアン (8, 9, PW, SW) のスウィング (グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する)
5	(学内でプラスチック・ボールを使用して実習)
6	(各人の個別指導) (正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法)
7	
8	ゴルフ練習場にて実習 ショートアイアン ミドルアイアン 基本的なスウィングと打球
9	(反復練習)
10	(個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック)
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット (3, 5, 7, 9, PW, SW) 練習 (個別指導とフォームのチェック)
3	1 番ウッド (ドライバー) 3 番ウッド (スプーン) の打法と練習
4	(ロングアイアン3, 4) ショット練習
5	
6	TV ビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト (アイアン、及びウッド) 及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (サッカー)	担当者名	田代力也
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。	
講義概要	<p>さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。</p> <p>グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ, Ⅱ (旧) (サッカー)	担当者名	田中茂宏
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>ゲーム形式中心の内容を通してゲームの進め方・ルールを学ぶ。 更にグループ別の練習を取り入れて基礎的な技能の向上を養う。 各グループの力が均等になる様に分けてリーグ戦を行う。 ゲームでは、主審、ラインズマンを各自、一度は経験してもらう。 準備体操各種を各自で行える様にする。</p>	
講義概要	<p>基本的にゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に各自または、各チームでキック等の練習を取り入れる。 ビデオ等で審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。 出欠呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。 雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。 着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。 見学者は着替えた後に出席すること。 授業はサッカー場で実施する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>出欠状況は各自で覚えておくこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。キック・トラップ等の練習を行い、ゲームでしめくくる。
3	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
4	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
5	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
6	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
7	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
8	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
9	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
10	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
11	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
12	チームの成績を発表する。オールコートでゲームを実施する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
2	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
3	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
4	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
5	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
6	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
7	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
8	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
9	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
10	チーム成績発表する。オールコートでゲームを行う。
11	オールコートでゲームを行う。
12	オールコートでゲームを行う。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （サッカー）	担当者名	福井真司
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	サッカーの楽しさを理解し基礎的技術を身につけて、生涯を通じてサッカーを親しめるようになる。また、ルール、審判法、作戦、健康、安全に対する態度などを習得する。	
講義概要	各週の授業は、主要テーマ以外に簡易ゲームも行う。	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	ナシ
評価方法	出席、態度、技術等から評価する。技術評価として簡単なテストを行う。	
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施場所：サッカー場（雨天などによる実施場所の変更連絡は、3棟体育掲示板で指示する） ・授業の進行状況により、変更の場合もある。 ・1週目の授業には筆記用具を準備すること。 	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (学習上の注意、服装、用具等について) サッカーとケガ、準備体操について
2	ボールに慣れる (ボールリフティング、ボールタッチ)
3	サッカーに必要な基本的な走力を身につける
4	パスとシュート (キック、ヘディング)
5	ドリブルとフェイント
6	1対1の攻防 (マーク、タックル練習)
7	トラッピングからシュート
8	2対1 (パスとドリブルからシュートまで)
9	浮いたボールの処理、せり合い
10	パス連続ゲーム
11	ミニゲーム、簡単なルールと審判法
12	ミニゲーム
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習
2	前期の復習
3	壁パス、スルーパス、センタリングからシュート (ゴールキープ)
4	フリーキック、コーナーキック、スローインからの攻防
5	ゴールを使用する守備と攻撃 (システムの決定)
6	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
7	正規のゲーム (練習ゲーム、ルールと審判法)
8	正規のゲーム (リーグ戦)
9	正規のゲーム (リーグ戦)
10	正規のゲーム (リーグ戦)
11	正規のゲーム (リーグ戦)
12	正規のゲーム (リーグ戦)
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (サッカー)	担当者名	松本光弘
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合わせて目標とする。内容的には高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。		
講義概要	サッカーの技術と戦術と各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時も体育館で実技を行うか、教室にて講義等を行う。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能程度を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツが用意できればさらに良い。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走 簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム 評価
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ, Ⅱ (旧) (サッカー)	担当者名	松原 裕
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じて人間形成の場である」という建学の理念に基づき、サッカーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。	
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、4-4-3の試合ができるようになることを目標とする。一チーム12人×3チーム=36名を定員とし、40名以上は抽選となる。</p> <p>基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。</p> <p>グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。</p>	
使用教材	テキスト	VTR「サッカー・コーチング・バイブル」 田嶋幸三 監修
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL1」 ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL2」
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。	
受講者に対する要望など	出来るだけサッカーシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング① ○ボール遊びと幼児のトレーニング
3	基本トレーニング② ○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1vs1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	1-4-4-3スタイルのゲーム
11	1-4-4-3スタイルのゲーム
12	テスト ○審判法 ○ルール ○プレイヤーのマナー
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦①
4	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦②
5	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦③
6	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦④
7	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑤
8	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑥
9	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑦
10	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑧
11	1-4-4-3スタイルでのリーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (スキートレーニング(後期)・スキー(集中授業))	担当者名	松原 裕
-----	---	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。		
講義概要	<p>選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラースキー・ローラブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・スキー・テキスト』 板垣和男/佐々木明男著	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」 	
評価方法	毎時間の出席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布 ○スキー指導法 ○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用 ○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (スキー検定トレーニング(後期)・スキー検定(集中授業))	担当者名	松原 裕
-----	---	------	------

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー検定を通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。	
講義概要	<p>選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度以上を目安とする。</p> <p>SAJ 基礎スキー検定の基本を理解し、身に付けることを目標とし、学内の授業では、ローラースキー・ローラブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。</p> <p>スキー実習は12月下旬長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。</p>	
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「基礎スキー検定」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」
評価方法	毎時間の出席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。	
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 *第2週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローラーブレード① ○サイズ合せ ○基本滑走
2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング ○基本滑走
3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げブルーク・伸しブルーク ○ストックワーク
4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	総合練習
11	スキー実習のオリエンテーション
12	スキー実習の反省
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （ソーシャルダンス）	担当者名	青柳多恵子
-----	------------------------------	------	-------

講義の目標	日本人は日常の生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。国際的な挨拶の型である“握手”と同様、今ではコミュニケーションの大きな分野としての“踊る”意味を考えると合わせて、組んで踊るための基本的な動き方と音楽との関連を踊りながら知ることをめざしたものです。	
講義概要	ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽によって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しめる人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。	
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編（配布）
	参考文献	
評価方法	出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。	
受講者に対する要望など	ダンスは男女同数しか受け付けません。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明 ブルース・マンボのリズムについて
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
5	ワルツ (チェンジステップ・ナチュラルターン) ブルース・マンボ
6	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
7	ルンバ (スクエア) ブルース (クォーターターン)
8	VTR タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ (リンク・) ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影 総まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 ステップの解説
2	前期の VTR の解説 ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
4	ワルツ (スピントーン・フィスク) キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR ジャイブ・
8	VTR ワルツ
9	VTR ルンバ
10	VTR ブルース
11	VTR 総まとめ
12	VTR 映写 解説
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ソフトボール)	担当者名	池 垣 功 一
-----	----------------------------	------	---------

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。		
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点(態度・努力・服装等)を加味して行なう。		
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合 I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ソフトボール)	担当者名	太田朝博
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。		
講義概要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能 捕球——送球 遠投 ・ ゲーム結果(集団、個人技能)等を総合的に見て評価する。 欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人的技能 基本技能 キャッチング
2	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、 フリーバッティング
3	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける
4	ピッチング
5	集団的技能 連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
6	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
7	ダブルプレー バントの処理と各野手の動き
8	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
9	ルールの解説とスコアのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
10	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ	
1	個人技能 } の反復練習 集団技能 } ゲーム ・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなる ようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。	
2	キャッチボール トス、フリーバッティング ピッチング	・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など)を集計し成績を出し、技能を 競い合う。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （ソフトボール）	担当者名	小川 又八朗
-----	----------------------------	------	--------

講義の目標	ソフトボールの特性や技術構造を理解し、それらを構成する基礎的な体力や技術、戦術などの習得を中心にして、ゲーム展開の方法を高める。	
講義概要	<p>ソフトボールは野球に似た球技が、1932年から統一される努力がなされ、今日「ソフトボール」という1つの球技になったものである。</p> <p>「投げる」「捕える」「打つ」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせて行われる球技であり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」手軽に行える球技で老若男女がその技術水準に応じて、競技的にも、レクリエーション的にも行える球技でスポーツマンらしいプレーが出来るようにする。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席点呼を毎回実施し、出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など	<p>授業実施場所、野球場 AB。</p> <p>雨天の場合教室に於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)、登録の確認と授業内容の説明 個人の資料作成等。
2	ソフトボールの歴史や特性をはじめとしてゲーム構造や基本ルールなどを講義する、球の握り方やキャッチボールなど防御の個人技能を実習する。
3	バッティングやセーフティーバントなど攻撃の個人技能を実習する、ヒットエンドランなどの集団技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	投手のピッチングを中心にした防御技能を実習する、ゴロや飛球に対するフィールディングを中心にした防御の個人技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防実習する。
7	上記と同じ。
8	併殺や長打のカットオフとリレーなどの攻防の集団技能を実習する、球審や塁審の個人技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
9	上記と同じ。
10	4チームによるリーグ戦 ①。
11	リーグ戦 ②。
12	リーグ戦 ③、前期まとめテスト。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
2	上記と同じ。
3	盗塁阻止やランダウンなど攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	得点圏に走者を置いた攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
7	上記と同じ。
8	上記と同じ。
9	4チームによるリーグ戦 ①。
10	リーグ戦 ②。
11	リーグ戦 ③。
12	ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする、ルールやセオリー、審判法など知的理解度をテストする。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （ソフトボール）	担当者名	萩野元祐
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。 バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球 (ゴロ、フライ) 練習。 独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。 独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。 独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
11	前期の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能 (守備)、ベースカバーを練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能 (守備)、リレープレイを練習。リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ソフトボール)	担当者名	田代力也
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>打つ、走る、投げる、捕える等の基本的運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。</p>		
講義概要	<p>打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ソフトボール)	担当者名	檜山 康
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>①ソフトボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>	
講義概要	<p>①やさしいルールで、ストレートヒッティングを中心にした攻め方とそれに対応した守り方によるゲームを楽しむ。</p> <p>②ヒットエンドランやスクイズを使った作戦的な攻め方とそれに対応した守り方を工夫してゲームを楽しむ。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によっては簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>雨天時は、室内において他種目、または教室にて講義を行う。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	簡略化したルールで試しのゲームを行う。安全上の注意も行う。
3	ボールに慣れる。 キャッチボールとトスバッティング
4	守備の練習① ゴロの捕球とスローイング、フライの捕球とスローイング
5	守備の練習② 内野守備と外野守備における連系プレー
6	守備の練習③ バントとその守備。盗塁とその守備。
7	攻撃の練習。 フリーバッティング、バッティングの基礎。
8	攻撃 練習。 ヒットエンドランの攻撃方法について
9	チーム別の練習ゲーム ルール、審判法について学ぶ
10	チーム別のリーグ戦①
11	チーム別のリーグ戦②
12	チーム別のリーグ戦③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム編成を変え、試しのゲームを行う。
2	守備の練習① ポジション別の具体的な役割を知る。実践に応じた動き。
3	守備の練習② 2週目の課題について様々な状況を設定して更に学ぶ。
4	攻撃の練習① ベースランニングの方法、実践に応じたランニング、スライディング。
5	攻撃の練習② 4週目の課題について、バッティングと組み合わせて学ぶ
6	チーム別のリーグ戦① 毎回のゲームの反省を生かしてチーム別に練習ができるようにする。
7	チーム別のリーグ戦②
8	チーム別のリーグ戦③
9	チーム別のリーグ戦④
10	チーム別のリーグ戦⑤
11	チーム別のトーナメント戦①
12	チーム別のトーナメント戦②
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ソフトボール・スキー(集中授業))	担当者名	田代力也
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール 打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。 ・スキー 生涯スポーツとしてのスキーを認識する。 理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。 	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール 打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。 ・スキー 体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのトレーニングを行なう。 	
使用教材	テキスト	ベーシックスキーテキスト
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第1週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （卓球）	担当者名	天野和彦
-----	------------------------	------	------

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。		
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (卓球)	担当者名	奥野忠枝
-----	------------------------	------	------

講義の目標	卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成
2	競技場と用具について(準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習 ミニ試合
5	バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合
6	サービスについて ボールの回転とラケットの動きを練習 シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記と同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ シングルス試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習 基本の動き シングルス試合
2	カットについて学ぶ シングルス試合
3	マナーについて 悪いマナー 良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルのトーナメント試合
10	シングルス ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (卓球)	担当者名	中川 昭
-----	------------------------	------	------

講義の目標	卓球の技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。		
講義概要	毎時間、基本となる技術練習を行い、ゲーム(シングルス・ダブルス)を行う。また、体力の向上を狙いとしたトレーニングを毎時間、授業の初めに行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。		
受講者に対する要望など	必ず、運動ができる服装に着がえて授業に出てくること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
3	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
4	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
5	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
8	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
9	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
10	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
11	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
12	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
2	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
3	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
4	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
5	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、班対抗のゲーム
8	体力トレーニング、班対抗のゲーム
9	体力トレーニング、班対抗のゲーム
10	体力トレーニング、班対抗のゲーム
11	体力トレーニング、班対抗のゲーム
12	体力トレーニング、班対抗のゲーム
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (卓球)	担当者名	本田稔祐
-----	------------------------	------	------

講義の目標	卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し、技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。		
講義概要	卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること。審判ができるようにルールについても勉強していく。ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	特になし	
評価方法	評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が7回以上の者は、評価はFとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。		
受講者に対する要望など	欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの。Gパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法 簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成。 ルールについて説明。
4	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
5	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
6	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
7	シングルのゲーム（リーグ戦） 初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
12	全員を抽選により、トーナメント試合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	トーナメント試合
2	トーナメント試合
3	トーナメント試合
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム
9	シングルス及び、ダブルスゲーム
10	シングルス及び、ダブルスゲーム
11	シングルス及び、ダブルスゲーム
12	技能テスト
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （軟式野球）	担当者名	太田朝博
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	<p>野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技術を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントソフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。</p>	
講義概要	<p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。</p> <p>雨天等で実技が出来ない時はルールの解説、スコアのつけ方、ビデオなどを見て学習。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能——捕球——送球 遠球 ・ ゲーム結果——（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 <p>欠席時数7回以上の者に対しては、評価の対象としない。</p>	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能 基本技能 キャッチング
3	スローイング 1対1での正確な技能の習得 バッティング ノックとトスバッティング、フリーバッティング、バント
4	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかりと身につける ピッチング
5	
6	集団的技能 連携プレー 攻撃=バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備=フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)
11	簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	個人技能 } の反復練習 集団技能 }
2	キャッチング } ゲーム 個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくなりな トス、フリーバッティング } らうにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	ソフト打撃 } スコアをつけ個人の打撃成績 (打率・盗塁・打点など) ピッチング } を集計し技能を競い合う。
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （軟式野球）	担当者名	萩野元祐
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	<p>基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。</p>		
講義概要	<p>初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	<p>出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。</p> <p>交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション (体育館)。 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。 バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。 ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。 4チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
8	守備における送球、補球(ゴロ、フライ)練習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
9	前回の復習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
10	集団技能(守備)、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
11	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、(A対D、B対C)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習。 練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能(守備)、バックアップを練習。 チームによるリーグ戦。(A対B、C対D)
4	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
5	集団技能(守備)、リレープレイを練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
6	前回の復習。 リーグ戦2巡目、(A対B、C対D)
7	集団技能を復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
8	スクイズプレイの練習。 リーグ戦、(A対D、B対C)
9	ダブルプレイの練習。 リーグ戦3巡目、(A対B、C対D)
10	前回の復習。 リーグ戦、(A対C、B対D)
11	リーグ戦、(A対D、B対C)
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(Ⅱ) (バスケットボール)	担当者名	小川 又八朗
-----	------------------------------	------	--------

講義の目標	バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。		
講義概要	個人技能に習熟し、自分の能力が集団の中でよく発揮できるようにするためにはいつも集中して練習ができるように習慣づける。スピードあるいろいろな動きの中でも、相手との攻防でタイミングを合わせ、からだやボールをコントロールができるようにする。チームがよくまとまり、個人の特徴を生かした作戦が考えられ、それぞれの役割を果たすことができるようにする。技術や練習法を学び、ルールを理解し、授業などでも審判の判定を公正にでき、プレーヤーとしてもすなおに判定に従う態度がとれるようにする。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	出席点呼を毎回実施し出席点を中心に評価し授業態度(服装)技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない、交通機関及び体調等なむを得ない事由以外の遅刻は認めない。		
受講者に対する要望など	授業実施場所、体育館 ABコート。 体育館シューズを用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）、登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成等。
2	授業に関するオリエンテーション、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）。
3	個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）、個人技能（パス、ドリブルシュート、リバウディング）。
4	個人技能（パス、ドリブルシュート、リバウディング）、1対1の攻防、ハーフコート於てゲーム。
5	上記と同じ。
6	2対2の攻防、ハーフコート於てゲーム、3対3の攻防、ハーフコート於てゲーム。
7	対人防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
8	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) ゲーム、地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) ゲーム。
9	リーグ戦形式によるゲーム。
10	リーグ戦形式によるゲーム。
11	リーグ戦形式によるゲーム。
12	リーグ戦形式によるゲーム、ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、チーム再編成、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス）。
2	個人技能、（ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）。
3	速攻攻撃法、(1) ゲーム、速攻攻撃法、(2) ゲーム。
4	上記と同じ。
5	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
6	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
7	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(3) リーグ戦形式によるゲーム。
8	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(4)。
9	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1) リーグ戦形式によるゲーム。
10	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2) リーグ戦形式によるゲーム。
11	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(3)。
12	リーグ戦形式によるゲーム、まとめのテスト。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (バスケットボール)	担当者名	勝 瀬 武
-----	------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p>	
講義概要	<p>バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。</p> <p>個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法	<p>出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
3	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
4	セットオフフェンス（ハーフコートにおける 3対2）
5	セットディフェンス（ハーフコートにおける 5対5）
6	オールコートにおける試合（班分けをする）
7	オールコートにおける試合（班分けをする）
8	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
9	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
10	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
11	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
12	リーグ戦開始（前期）（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
2	後期リーグ戦前の予備試合（後期リーグのためにチームの再編成）
3	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
4	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
5	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
6	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
7	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
8	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
9	後期リーグ戦開始（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (バスケットボール)	担当者名	檜山 康
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	<p>①バスケットボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。</p> <p>②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。</p>	
講義概要	<p>①やさしいルールで、速攻や、守備のあいているスペースをつく攻撃と、マンツーマン防御によるゲームを楽しむ。</p> <p>②工夫したルールで、ギブアンドゴープレイやスクリーンプレイなどを用いた攻撃と、互いに協力し合うマンツーマン防御やゾーン防御でゲームを楽しむ。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>室内シューズを必ず着用のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	1年間の授業内容の説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。
4	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。チームは固定せず、編成を変えながらゲームを行う。
5	ショットの方法について① レイアップショットとランニングショット。ショットの方法に注意してゲームを行う。
6	ショットの方法について② ジャンプショットとターンショットなど。ショットの方法に注意してゲームを行う。
7	ディフェンスの方法について① マンツーマン・ディフェンスについて。
8	ディフェンスの方法について② ゾーン・ディフェンスについて。
9	ディフェンスの方法について③ マンツーマンとゾーンを使い分ける。
10	リーグ戦① (チーム固定) 班別、チーム別練習
11	リーグ戦② 班別、チーム別練習
12	リーグ戦③ 班別、チーム別練習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム分け。試しのゲーム
2	オフェンスの方法① カットインプレイ
3	オフェンスの方法② スクリーンプレイ (インサイド、アウトサイド)
4	オフェンスの方法③ 3人で行うスクリーンプレイ
5	オフェンスの方法④ ハイポストからの攻撃
6	3対2の攻防 今までのオフェンスの方法を組み合わせる。
7	練習ゲーム① スクリーンプレイ、ゾーンディフェンス、3点シュート制などを取り入れて、力が同じ程度のチームにくり返し挑戦する。
8	練習ゲーム②
9	リーグ戦①
10	リーグ戦②
11	リーグ戦③
12	リーグ戦④
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(Ⅱ) (バドミントン)	担当者名	梶野克之
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても十分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。	
講義概要	バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習したプレーが生かせるようにするとともに、課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、ゲームの進行にも関心を持ち、授業が円滑に進行するように努力する。	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『やさしいバドミントンレッスン』、相沢マチ子、1983、ベースボールマガジン社 ・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳、渡辺雅弘、1985、大修館書店
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	
受講者に対する要望など	毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために出席して、努力してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリアーに近づける。
3	前回は練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリアーに発展させる。ハイクリアーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリアー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行すが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリアーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリアーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの中で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリアーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリアーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリアーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリアーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （バドミントンⅡ）	担当者名	梶野克之
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの各種のプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンをより深く理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせることを目標としたい。	
講義概要	バドミントンに関するルールや技術についてより深い理解をする。各種のストロークの正確性をより向上させる。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ゲームの中でのプレーについて反省し課題の克服を目指す。より高いレベルのゲームを求めて練習に取り組む。審判を進んで実施するとともに、全体の進行状況にも関心をもち、ゲーム・授業が円滑に進行するように心掛ける。	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳渡辺雅弘、1985、大修館書店 ・『ウィニングバドミントン [シングルス]』 ・『ウィニングバドミントン [ダブルス]』、阿部一佳他訳、Jake Downey、1990、大修館書店
評価方法	評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	
受講者に対する要望など	より効果的な授業とするために、毎回の出席を原則とする。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーに近づける。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行いが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスのカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッティングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合わせを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの内で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ、Ⅱ(旧) (バレーボール)	担当者名	小 俣 充
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識(存在意識)を育む。		
講義概要	ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を体験する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	1 スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 2 スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 3 人と人との間 木村 敏、弘文堂	
評価方法	出席回数をベースにし、どれほど自ら努力したか他の努力を促したかにより評価。		
受講者に対する要望など	バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者(運動部)の受講を多少優遇することがある。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。 : 固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1
8	リーグ戦その2
9	リーグ戦その3
10	リーグ戦その4
11	リーグ戦その5
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その1 (固定およびローテーション)
8	リーグ戦その2 (上に同じ)
9	リーグ戦その3 (上に同じ)
10	リーグ戦その4 (上に同じ)
11	リーグ戦その5 (上に同じ)
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （バレーボール）	担当者名	中 沢 克 江
-----	----------------------------	------	---------

講義の目標	<p>バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。</p> <p>チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。</p>	
講義概要	<p>基本的技術の習得。</p> <p>ルールの理解。</p> <p>ゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。 ・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。 	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。</p> <p>受講態度の中には、服装も対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>体育実技に適した服装で受講すること。</p> <p>体育館専用シューズを用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス・アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス アンダーハンドパス トス 簡易ゲーム
4	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等 簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは毎週変更する。 ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	基本技術：パス トス レシーブ サーブ スパイク 基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き ・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。 ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦 ・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。 ゲーム
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (フリースポーツ)	担当者名	土井浩信
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	様々なレクリエーションスポーツ、軽スポーツ、ニュースポーツに挑戦し、自分にとっての生涯スポーツの目的を考える。スポーツの楽しさについても掘り下げて考えていきたい。	
講義概要	<p>屋外で出来る軽スポーツやニュースポーツの方法について実践的な学習をする。若者的な運動負荷の高い種目からハンディーキャップスポーツ、シルバースポーツ種目まで、各々の特性に応じた楽しみ方を学ぶことになる。</p> <p>これまでに体験したことのないスポーツ種目が多いから、その方法や技術についての学習が中心にならざるを得ないが、出来るなら、自分達でレクリエーションゲームやニュースポーツの創作に挑戦したい。</p>	
使用教材	テキスト	なし。指導VTR等の視聴覚教材を使用する場合もある。
	参考文献	なし。
評価方法	授業への出席度とレポートによる評価。	
受講者に対する要望など	かなりハードな種目にも挑戦するので、それなりの服装に留意すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成
2	フライングディスク（フリスビー）。基本練習（スローイング、キャッチング）。コントロール投の練習。
3	フライングディスク（フリスビー） アルテミット（※フリスビーゲーム）のルール、競技方法の説明。グループ分け。
4	フライングディスク（フリスビー） アルテミット、チーム対抗ゲーム
5	フライングディスク（フリスビー） アルテミット、チーム対抗ゲーム。ガッツ（※フリスビーゲーム）説明。
6	一輪車 一輪車の扱い方。一輪車乗りこえ練習。一輪車乗車姿勢、半回転前進とリカバリー連続動作の練習。
7	一輪車 一輪車の補助の仕方。三人一組のグループ分け。補助者付き前進練習。経験者には別途指示。
8	一輪車 一輪車の有効な失敗体験。補助なし前進5 mに挑戦。経験者は補助なし乗車練習。
9	一輪車 補助なし10 mに挑戦。補助者付き連続乗車400 m。
10	一輪車 補助なし全員10 m 前進乗車達成。
11	一輪車 補助なし乗車（乗り方）の基本練習。横乗り乗車、ケリ上げ乗車への挑戦。
12	前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ベタンク ベタンクのルール、競技方法の学習。チーム分け練習。
2	ベタンク チーム対抗ゲーム。安全指導。
3	ベタンク チーム対抗ゲーム。
4	ゲートボール ゲートボールのルール、競技方法の学習。打球の基本練習。
5	ゲートボール コートの作り方、競技の運営方法。作戦のたて方。
6	ゲートボール チーム対抗ゲーム
7	ターゲットバードゴルフ 基本のスウィング練習。安全の為にルールとマナー。
8	ターゲットバードゴルフ 基本練習。コース作りの方法。簡単なゲーム。
9	ターゲットバードゴルフ コース作りとゲーム。
10	フットバッグ VTR 指導。フットバッグ的な世界のスポーツについて。
11	フットバッグ 連続リフティング5回以上に挑戦。グループリフティング。
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (フリースポーツ)	担当者名	檜山 康
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	様々なスポーツ活動を通して、スポーツの楽しさを知り、スポーツ文化に触れることを目標とする。	
講義概要	主に球技を主体とした種目を中心に授業を行っていく。具体的には、バスケットボール、ハンドボール、サロンフットボール、バレーボールを考えている。それぞれの種目を5～6回の授業で交代していき、半期で2種目行えるように考えている。種目は異なるが、球技共通の特性について解説していくつもりである。内容的にはゲーム中心で行うが、ゲームの中から特性について学べればと思っている。楽しめる授業にしたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。	
受講者に対する要望など	室内で行う時は、必ず室内シューズ着用のこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	バスケットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法とショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
4	ショットの方法について レイアップショットとランニングショット ショットの方法に注意してゲームを行う。
5	リーグ戦① (チーム固定)
6	リーグ戦②
7	リーグ戦③
8	ハンドボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム
9	パスとショットの方法。 速攻を生かしたゲームを行う。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルールを確認していく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	サロンフットボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
2	基本戦術の説明 パスアンドゴー、まわりを見る、ボールに寄るなど
3	チーム戦術の説明。 トライアングル、コーチングなど
4	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
5	リーグ戦②
6	リーグ戦③
7	バレーボール ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
8	パスの方法とレシーブの方法 アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、レシーブを確実にし、ラリーの続くゲームを行う。
9	スパイクの方法 トスをオープンにあげて、スパイクを行う。簡単なオープンからの攻撃を行い、ゲームができるようにする。
10	リーグ戦① ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (フリスビー(前期)・ウインドサーフィン(集中授業))	担当者名	和田 智
-----	---	------	------

講義の目標	<p>前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。</p> <p>集中授業ウインドサーフィンでは、ウインドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。</p>	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・フリスビー、ウインドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・用具類はすべて大学で用意している。 ・ウインドサーフィンは、必要経費(宿泊費・食費・保険料等)として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・ウインドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。 <p>集中授業は、期間：平成7年9月12日(火)～17日(土)4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の予定 現地集合・現地解散とする。</p>	
使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画
	参考文献	
評価方法	出席状況(60%)、受講態度(20%)、技術の向上度(20%)で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習 その1
4	バックハンドスローの練習 その2
5	サイドアームスローの練習 その1
6	サイドアームスローの練習 その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ,Ⅱ(旧) (ラグビー)	担当者名	天野和彦
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールの理解とゲームの展開方法を学習する。	
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	フォワードの戦術② スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③ ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術② パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③ キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科目名	体育 体育Ⅰ，Ⅱ（旧） （ラグビー）	担当者名	中川 昭
-----	--------------------------	------	------

講義の目標	ラグビーの技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。		
講義概要	前期は身体接触のないタッチラグビーを行う。後期から徐々にコンタクト技術の練習を行い、最終的には15人制の正規の試合を行う。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。		
受講者に対する要望など	スパイク（サッカー・ラグビー用）をできるだけ用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
4	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
5	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
6	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
7	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
8	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
9	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
10	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
11	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
12	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
2	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
4	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
5	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
6	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
7	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
8	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
9	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
10	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
11	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
12	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
備考	

科目名	哲学 哲学(旧)	担当者名	高尾由子
-----	-------------	------	------

講義の目標	「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。主に西洋哲学の基本的な概念を用いながら、「私」という足場を固め、「他者」と「世界」に向かう態度をつくってゆきたい。	
講義概要	哲学史上、主要な思想家の著作を手がかりにするが、哲学史の知識を得るよりも、その考え方、また考えるための準備の仕方を扱う。	
使用教材	テキスト	年間予定を参照のこと。
	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	前後期各一回のレポートによる。 提出期限、提出方法は授業時に指示する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明と、哲学という学について考える。
2	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
3	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
4	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
5	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
6	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
7	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
8	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
9	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
10	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
11	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
12	前期のまとめと課題について。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
2	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
3	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
4	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
5	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
6	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
7	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
8	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
9	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
10	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
11	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
12	一年間のまとめと課題について。
備考	

科目名	哲学 哲学(旧)	担当者名	谷口郁夫
-----	-------------	------	------

講義の目標	西欧の哲学史をたどりながら、現代に生きる我々にとっての問題について考える。とりわけ、生きることの意味についてそれぞれの価値観の構築を目指す。	
講義概要	ギリシャから現代まで可能なかぎり多くの哲学者を取り上げながら、それぞれの哲学的営みを通じて、生きることの意味について考えて行く。また、宗教的な事柄についても、絶えず願慮して行くこととする。	
使用教材	テキスト	特に用いない
	参考文献	講義の中で指示する
評価方法	前後期にそれぞれ試験を行う。試験内容は、講義の中で指示する。	
受講者に対する要望など	批判的な態度で臨むこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「哲学」とは何か
2	ソクラテス以前の哲学者
3	ソクラテスとプラトン (1) ソクラテス以前とソクラテス以後の転換点について
4	ソクラテスとプラトン (2) ソクラテスの方法論。対話法など。
5	ソクラテスとプラトン (3) プラトンの方法。イデア論など。
6	ユダヤ教とキリスト教 (1) 特にユダヤ教の歴史と特質について。
7	ユダヤ教とキリスト教 (2) 歴史的イエスと信仰のキリストについて。
8	ユダヤ教とキリスト教 (3) キリスト教神学と西洋哲学
9	ヨーロッパ中世 中世スコラ哲学とルネッサンス期の哲学
10	宗教改革
11	近代哲学の誕生の背景 ベーコンの経験論とデカルトの合理論の地理的、国民的、歴史的背景
12	予備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近代の哲学 (1) デカルトとパスカル
2	近代の哲学 (2) カント以前のドイツの思想家達とカント哲学
3	近代の哲学 (3) カント以後のドイツ哲学。特にイギリス哲学と対照しながら。
4	ヘーゲルとヘーゲル左派 シュトラウスの「イエスの生涯」がもたらした旧来の価値観の危機
5	ヘーゲル左派の思想家達 フォイエルバッハの人間学とキリスト教批判とマルクス
6	キルケゴール (1) 実存主義の祖とされるキルケゴールの生涯と思想
7	キルケゴール (2) キルケゴールの宗教思想と現代的意義
8	ドストエフスキー ドストエフスキーの文学作品とその思想
9	ニーチェ ニーチェのキリスト教批判とその現代的意義。ニヒリズムの問題
10	現代の哲学 (1) ニヒリズムの克服と可能性
11	現代の哲学 (2) 現代の精神病的状況について
12	予備
備考	

科目名	哲学 哲学(旧)	担当者名	安本行雄
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>現代文明の考察を手掛りとしながら、「人間は本来如何に存在すべきか」を根源的に問う哲学への視野を開き、併せて科学時代に生きる我々の主体的な態度を考究する。そのためには、講義を単なる知識の伝達に終らせず、講義内容を特定の境位にある自己自身にひきつけて考える主体的思惟を促進することに努めたい。</p>	
講義概要	<p>「科学は現代のシンボルである」と言われるように、現代の歴史的状況が我々人間にさしかける様々な問いのうち、最も緊迫したものは科学・技術の画期的な進歩が提出する問いである。科学文明の齎す生の危機を考察することによって科学・技術の本質を明らかにし、それを通じて哲学・倫理・宗教を科学に還元しようとする立場を批判し、そこから人間の生を根源的に問う哲学への視野を開いてゆきたい。</p> <p>そしてそれとの関連において、科学を生み出す母体となったプラトン以後の、本質主義哲学とも称すべき伝統的哲学を考察し、更にはそれに対する批判として登場した主体的・パトリス的な哲学としての実存主義を取りあげることを通じて、哲学という学問を考究する。</p>	
使用教材	テキスト	安本ほか共著『生と理性』晃洋書房
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	年度末の定期試験で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学という学問の特異性から要請される受講に際しての主体的な心構えについて
2	現代科学技術文明の破綻—総論（テキスト第四章第一節、175頁以降）
3	危機招来の原因分析—科学・技術の齎らした「力の意識」への思いやり（同180頁以降）
4	危機招来の原因分析—科学・技術の進歩に対する無条件の礼讃と楽観主義（同190頁以降）
5	現代的合理性批判—経済性・効率性・数量化—人間疎外との関連（同183頁以降）
6	危機克服の道—技術的・経済的対症療法の問題点、科学の本質、技術の本質（同187頁以降）
7	危機克服の道—現代科学技術文明の錯誤、経済優先主義および技術至上主義の批判（同195頁以降）
8	危機克服の道—科学者の社会的責任、文明の危機と哲学（同197頁以降）
9	哲学への疑問—科学の立場からの哲学批判—哲学の科学への還元は可能か（同第二節203頁以降）
10	哲学への疑問—科学と宗教、科学と倫理（同210頁）
11	哲学とは何か—(1)ギリシヤ以来の伝統的な哲学の概念（知られるものを中心とした客体からの限定）
12	哲学とは何か—(2)知を愛する主体の側からの限定—哲学の根源（生の自覚としての哲学）、「驚き」と「疑い」（デカルト）（同第三節211頁以降）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学とは何か—衝撃的動揺—日常的生とその挫折、限界状況（同214頁以降）
2	哲学とは何か—ネガティブな契機による人生の媒介、運命愛
3	哲学とは何か—哲学の知—主体的な知と哲学的思惟—哲学の特異性（同第四節218頁以降）
4	哲学とは何か—哲学と生—哲学無用論の考察—道徳律によって示される叡知的世界と現象界（カント）（同207頁以降）
5	哲学とは何か—関連してプラトンのイデア論に示される二世界説とイデア論の実践的意義（同208頁以降）
6	プラトン以後の伝統的哲学の特質とそれに対する批判としての実存主義
7	実存と生—本質（普遍）と存在（個体）の関係からの実存の説明
8	実存と生—(1)サルトルの実存主義—無神論的立場、「実存は本質に先立つ」（同第五節245頁以降）
9	実存と生—脱自的超越、自由、その意義と限界（同249頁以降）
10	実存と生—(2)キェルケゴールの実存主義—その成立基盤、時代批判、「主体性は真理である」、実存の諸相（美的段階）、（同231頁以降）
11	実存と生—実存の諸相（倫理的段階、宗教的段階）、その意義と限界（同237頁以降）
12	結び（同253頁以降）
備考	

科目名	心理学 心理学(旧)	担当者名	杉山憲司
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>この授業では、なるべく広範囲にテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常的問題との関連について講義する。心理学から見た科学的人間観の理解が、この講義の最終的な目標である。</p>		
講義概要	<p>心理学の研究対象は日常的な現象が多く、学生は既に、一定の意見を持っていることが多い。しかし、人間はいつ動機づけられ、無力感に陥るのか。性格はどのように形成されるのかなど、案外解っていないことが多い。また、心理学は自分自身を研究対象にするという特徴がある。心理学は人間に共通する一般的特性と、一人一人の個性・個人差とを研究対象にしている。</p> <p>この授業では、なるべく広範囲に渡って様々なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常生活がどのように関係するかについて講述する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編者） 『こころのサイエンス』 『トピックスこころのサイエンス』福村出版（各¥1,900）</p>	
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>	
評価方法	<p>前後期2回の試験とリーディングレポートで評価する。 追試は教務課を通すこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用すること。 授業を聞く際、専攻や、将来の職業との関連を絶えず考えること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：学習目標、前期・後期目標 心理学の全体的体系について：心理学の研究対象と研究方法の特徴 他の学問との比較、前期目標としての人間に共通な一般法則を学習する意味
2	I. 行動の視点からの人間研究（4章）： 1)行動の種類と発達・進化 2)学習の基本型、しつけ、情緒の統制や言語獲得の仕組みなど
3	行動の視点からの人間研究（その2）： 1)模倣の理論、役割、影響力のあるモデルの特性 2) 行動の自己制御
4	重要な学習・行動の種類と内容：1)スポーツと健康の自己管理、 2)技能学習の特徴、自動車運転の要因モデル
5	重要な学習・行動の種類と内容（その2社会的行動）：1)リーダーシップ 2)同調と服従
6	社会的行動（その2）： 3)攻撃行動、愛他行動 4)課題達成と愛他行動のバランスと育成
7	II. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章）：2)知覚（恒常性や錯視などの特徴）
8	3)認知のプロセス 4)人間の情報処理モデル 5)社会的認知
9	記憶の構造や特徴 1)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など 2)記憶の情報処理モデル
10	III. 動機づけと情緒の視点から（6章）：1)生理的動機、ホメオステーシス 2)情緒
11	内発的動機 1)知的好奇心、自己原因性、有能感、 2)内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
12	対人社会動機 1)愛着、共感性と愛他動機 2)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）： 1)気質類型論とクレペリン検査、DSM-III-R
2	2)パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
3	3)パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷 4)人間性心理学説のパーソナリティ論
4	パーソナリティの形成・発達と病理 1)初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性 2)パーソナリティの病理と対処法、クライアント中心療法
5	II. 知能と創造性（2章）： 1)知能研究の源、知能観と知能検査 2)新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
6	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1)拡散的思考と集中的思考 2)創造性の育成と活性化
7	III. 生涯発達（3章）： 1)研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点 2)研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
8	初期発達 1)乳児の気質の型、アタッチメント 2)コンピテンスと自己原因性の獲得
9	社会性の発達 1)道徳性と向社会性の発達段階 2)仲間関係のルールとスキル
10	青年期と自己意識 1)公的自己・私的自己、自我同一性の獲得 2)自己主張、対人不安
11	生涯発達と生き甲斐 1)仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業 2)老人の喪失感、統制感の喪失
12	最終のまとめ 1)心理学からみた人間 2)現代の課題、残された問題
備考	

科目名	心理学 心理学 (旧)	担当者名	三本 茂
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>—人間行動への複眼的接近—</p> <p>心理学は人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。</p> <p>本年度の講義は、人間行動を個人・集団というふたつの眼を通して眺めてみる。</p>	
講義概要	<p>まず個人行動という眼を通して、パーソナリティ（性格、集団的パーソナリティ、知能、適応のメカニズムなど）を取り上げる。</p> <p>次に、集団という眼を通じて、集団の成立、その機能、人間以外の動物の集団、社会的態度などを扱い、最後に文化と社会現象について触れる。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	評価は、レポートと年度末の筆記試験によっておこなう。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

○人間行動におよぼす個人的要因として、性格を取り上げる。

1. 性格とは何か
2. 性格とパーソナリティ
3. 性格理論
4. パーソナリティの形成（集団的パーソナリティ論）
5. パーソナリティの診断と適応

○人間の知的行動

1. 知能とは何か
2. 知能の形成と発達
3. 知能と社会・文化的要因

○社会的行動

1. 集団の特質
2. 比較動物学的接近
3. 集団内の個人行動
4. 社会的態度

○社会集団と文化

1. 文化をどう考えるか
2. 比較文化論の視点
3. 社会現象

科目名	倫理学 倫理学 (旧)	担当者名	市川 達人
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>前半は倫理についての理論的理解の必要性を、倫理学の基礎概念にふれながら考える。後半はアメリカを中心に倫理学の主要テーマになりつつある生命倫理を諸説を紹介しながら扱う。</p> <p>日常生活を批判的にふりかえる視点を身につけてほしい。</p>	
講義概要	<p>私達の日常生活は様々な倫理的価値や規範を織りこんで成立している。しかしその論理は必ずしも自覚されているわけではない。その隠れた論理を探し出し明晰な自覚にまで高めようとするのが倫理学である。</p> <p>講義は前半と後半に分け、前半では倫理学の原理論を、後半では今日の倫理的問題のトピックの一つである生命倫理をとりあげ、死、身体、医療などについて考えていく。</p>	
使用教材	テキスト	使わない
	参考文献	佐藤和夫他『生命の倫理を問う』大月書店
評価方法	授業への出席度、レポート評価、討論への参加、ペーパーテストなどで総合的に行う。	
受講者に対する要望など	私語は絶対に慎むように	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の予定。倫理学の対象と課題。
2	古代の倫理学と近代の倫理学 諸学における規範的思考の後退
3	規範としての倫理(1) 動機—行為—結果の連関と倫理的判断
4	規範としての倫理(2) 法の問題
5	規範としての倫理(3) 習俗問題
6	価値としての倫理(1) 欲求構造と価値
7	価値としての倫理(2) 事実と価値
8	価値としての倫理(3) 価値の倫理的尺度としての人格と人間性
9	倫理的問題状(1) 倫理学の発生にかかわって
10	倫理的問題状(2) 近代の倫理的意識にかかわって
11	モラルの立場、モラリストと個人道徳
12	倫理と科学 (科学からの倫理批判と倫理からの科学批判)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	功利主義と自由主義(1)
2	功利主義と自由主義(2)
3	生命倫理学の現況と今日の生命問題
4	生命倫理を考えるための生命哲学——人間の生命とは？
5	人工妊娠中絶問題の議論——何が問題か
6	人工妊娠中絶と優生思想
7	安楽死と尊厳死の議論——何が問題か
8	安楽死の議論と「生命の盾」・「生命の尊厳」
9	脳死と臓器移植の議論——何が問題か
10	身体の個性性と共同性
11	医療社会批判と生命倫理
12	まとめ
備考	

科目名	国語学 日本語学(旧)	担当者名	桂 千佳子
-----	----------------	------	-------

講義の目標	日本語がどのような特徴を持つものなのかということ、身近な例で理解し、客観的に言葉を見る視点を持てるようにする。	
講義概要	<p>前期は、日本語の特異性を様々な面から概観する。特に、表記については、一人一人が自分なりの意見を持てるようにする。</p> <p>後期は、日本語の文の構造の特質に焦点をあてて文法の問題を考えていく。</p> <p>前・後期共、できる限り、その背景にある通史的な事象を含めて捉えられるようにしたい。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・国立国語研究所『日本語教育指導参考書4 日本語の文法(上)(下)』 ・益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法一改訂版』くろしお出版 ・金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店 ・井上ひさし『私家版日本語文法』新潮文庫 ・寺林秀夫『日本語のシンクタンクと意味』くろしお出版
評価方法	基本的には、後期に行うテストで評価する。が、受講者数によっては、平常授業においての課題提出により評価することもあり得る。	
受講者に対する要望など	知識が授けられるのを待つのではなく、提起された問題について自分なりの答を出すべく考える姿勢で望んでほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要、方針等について触れたのち、「日本語」と「国語」について考えてみる。
2	日本人の言語観 一言 ^{ことば} 霊の思想— 日本人の言語に対する意識を通史的に概観する。
3	日本語の特異性、表記① 「字」について、様々な角度から概観する。
4	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
5	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
6	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
7	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
8	日本語の特異性 表記③ まとめにかえて。データにみる漢字、仮名、ローマ字の実態
9	日本語の特異性 音声
10	日本語の特異性 語彙
11	日本語の特異性 文法① コトバの構造と文法観
12	日本語の特異性 文法② 「てにをは」がなかったら!?
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語文法の再点検 ① 外国人の日本語学習者の誤用例をめぐる
2	日本語文法の再点検 ② 学校文法を思い出す。いくつかの語の品詞分けを行ってみる。
3	日本語文法の再点検 ③ 活用表はわかり易いか
4	文のしくみを考える ① 文を理解するとはどういうことか。
5	文のしくみを考える ② コトの種類
6	文のしくみを考える ③ ムードの分析 その一
7	文のしくみを考える ④ ムードの分析 その二
8	文のしくみを考える ⑤ ムードの分析 その三
9	文のしくみを考える ⑥ 日本語の単文の階層構造について
10	コミュニケーションのメカニズム なぜ言葉は通じるのだろうか
11	一年間のまとめ
12	テスト 論述問題を中心とする。
備考	

科目名	国語学 日本語学 (旧)	担当者名	小島幸枝
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>世界の言語を使用人口の割から見ると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。</p> <p>本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語の、基本知識の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声・音韻・文字・文法・語彙・意味の領域に分けて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>福島邦道著 国語学要論 (笠間書院)</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩波講座日本語 (岩波書店) ・講座日本語学 (明治書院) ・橋本進吉：国語学概論 (岩波書店) ・金田一春彦：日本語 (岩波新書) ・築島裕：国語学 (東大出版会) ・国語学会編：国語学大辞典 (東京堂) ・佐藤喜代治編：国語学研究事典 (明治書院) 他 	
評価方法	<p>前期はテスト、後期はレポートとする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語の特徴 (日本語系統論のきめて)
2	日本語の音韻 (音声学と音韻論、音節文字)
3	五十音図といろは歌、天地詞
4	漢字音
5	音韻の変遷
6	アクセント
7	文字 (漢字、国字)
8	仮名 1 (万葉仮名、上代特殊仮名遣)
9	仮名 2 (片仮名、反切)
10	仮名 3 (平仮名)
11	かなづかい (定家仮名遣、契沖仮名遣、歴史的仮名遣)
12	ローマ字 (単音文字) ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文法総説(1)
2	文法総説(2)
3	文法総説(3)
4	文法総説(4)
5	文法総説(5)
6	文法総説(6)
7	語彙・文体・辞書について(1)
8	語彙・文体・辞書について(2)
9	語彙・文体・辞書について(3)
10	語彙・文体・辞書について(4)
11	語彙・文体・辞書について(5)
12	国語問題について
備考	

科目名	国語表現 国語(旧)	担当者名	新里博樹
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>コトバは、人間の内面を構成する素材である。そして、言語表現とは、その内なるコトバを様式として外に言語として実体化させることに他ならない。すなわち、言語による表現とは、単に何かを他者に伝達することのみにとどまらず、自己の内面を深化させることにもつながるのである。本講座では、そうした素材であり、手段である、“コトバ—言語”の特質を踏まえながら、言語表現の様式の諸相、およびその諸特徴を講じつつ、日本語による表現のルールと方法とを学び、国語表現(文章表現・口頭表現)の実際を体験することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語表現における基礎事項に関する講義を交えつつ、講義—実作演習—添削批評という基本パターンを反復しながら、さまざまなスタイルの表現を実際に体験してもらう。講義1に対して演習3の割合で、実際の表現演習に学生自身が自分で取り組むことになる。文章表現の場合は、その場で(あるいは前以て)提示される課題・テーマに対して、その場で取り組み、基本的に授業時間内に提出する。そして、提出物は後日、添削批評を経て返却される。口頭表現の場合は、スピーチ・ディベートなどを、予め定めた手順に従って(全員が何らかの形で参加することになる)体験することになる。また時には相互批評などの討議形式の授業も実施する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	その都度、提示・紹介する。	
評価方法	<p>授業時における提出物と授業に対する参加(質問や発言など)の度合いによって評価する。返却された提出物(原稿その他)はすべて保管し、最終授業時にまとめて再提出してもらい、それによって評価することになるが、基本的には平常点による評価と考えて良い。</p>		
受講者に対する要望など	<p>B5原稿用紙を各自用意して欲しい。また、小型のものでよいから、国語辞典を携帯してもらいたい。演習中心なので、自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。他の受講者にとって迷惑となる行為は一切厳禁する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明などを行い、導入として、言語による表現とはどういうことか、という問題について講じる。
2	文章表現演習Ⅰ：自己紹介文 とりあえず自由に、自己紹介の文章を作成する。自分の生い立ち、趣味、特技、性質、癖、現在の状況、悩んでいること、価値観 etc.
3	講義Ⅰ：原稿用紙の歴史と使用法 原稿用紙の発達の歴史とその使用規則の基礎的な事項を講じる。その上で、実際に、特定の文章を原稿用紙に転記する演習を行う。
4	文章表現演習Ⅱ：随想文 講義Ⅰの内容に留意しながら、随想文を作成する。テーマは「日本の色」。自分の思い、価値観などを具体例を提示しながら書く。
5	文章表現演習Ⅲ：百字文 「手」というタイトルで、段落表示や句読点を含めて百字ぴったりの短文を作成し、それを起としてさらに、承転結の百字文を三編作成する。
6	講義Ⅱ：文章の構成と段落 文章構成の様相と、段落について講じる。段落はどのように設定すべきか、全体の構成はどうしたらよいかなど、文章構成の基礎を解説する。
7	文章表現演習Ⅳ：論説文 講義Ⅰ・Ⅱの内容に留意しながら論説文を作成する。テーマは「現代日本の社会状況」。自分なりにポイントを絞り、具体的に書く。
8	文章表現演習Ⅴ：推敲演習 推敲の方法とその目安についての理解を深めるため、文章表現演習Ⅳの作品の幾つかを採り挙げ、推敲の演習を行う。
9	講義Ⅲ：題材の求め方とその膨らませ方 文章表現のテーマや素材（具体例など）をどこに求め、どう膨らませていくか、という認識法や発想法について講じる。
10	文章表現演習Ⅵ：要約演習 まず自由に二百字文を作成する。その上で、できるだけ内容を変えないように、百字、五十字、二十字、十字と字数を減らしていく演習を行う。
11	文章表現演習Ⅶ：写生文 具体的事物を見ながら、それを写生した文を作成する。それを見ていない人に伝えるべく、言葉によるスケッチを行う。
12	前期の総括と夏期休暇中の課題提示 前期における提出物を全て返却し、夏期休暇中の課題を提示する。目上の人物に対する近況報告の”堅い手紙”を作成するのが課題となる。
備考	授業時間内に提出するため、比較的短い文章の演習が中心となってしまう。そこで、長文の文章の添削批評を希望する学生は、随時、自由に申し出てもらうことになるが、ただし、添削批評の時間的余裕を与えて欲しい。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期休暇中の課題の提出。後期の予定の確認。
2	文章表現演習Ⅷ：報告文 夏期休暇中における自己の行動（自分で設定する）に対しての報告文を作成する。客観的事実と自己の感想を分けて書く。書式は授業時に提示。
3	文章表現演習Ⅸ：批評文 提示された現代短歌の幾つかの中から一首を選び、それに対する鑑賞批評の文章を作成する。鑑賞批評は単なる感想でないことに留意して書く。
4	講義Ⅳ：詩的表現と短歌 詩的表現としての韻文について概説し、その中でも世界に誇り得る日本の文化の一つとしての短歌の特質について講じる。
5	文章表現演習Ⅹ：短歌実作演習 十首程度の短歌を実際に作成する演習を行う。併せて、その中から一首を選び、次回の歌会の準備を行う。
6	口頭表現演習Ⅰ：歌会演習 前回の準備に従い、実際に歌会を行う。提示された各自の作品に対して相互に自由に批評しあい、討議する。
7	講義Ⅴ：口頭表現の留意点 話し言葉による伝達の構造とその特質を論じ、音声言語による表現における留意点を講じる。
8	口頭表現演習Ⅱ：スピーチの原稿作成 結婚披露宴におけるスピーチの原稿を作成する。併せて、次回実施される結婚披露宴のシュミレーションの役割分担を行う。
9	口頭表現演習Ⅲ：結婚披露宴のシュミレーション 前回の打ち合わせに従って、想定された結婚披露宴のシュミレーションを行う。各自の役割分担に従ってスピーチを行う。
10	講義Ⅵ：ディベートの方法 ディベートの方法について解説する。ディベートの進行方法、考え方、技術、評価の方法などについて講じる。併せて、次回の役割分担を行う。
11	口頭表現演習Ⅳ：ディベート演習 その場で提示される論題に対して、ディベートの対戦を行う。対戦者以外は、全員が審査員となる。
12	総括、および、提出物の再提出
備考	添削批評を経て返却された原稿に対しては、訂正・書き直しをした上で、整理しておくことが望ましい。くれぐれも、その場の”書き捨て”にせぬよう心掛けて欲しい。

科目名	国語表現 国語(旧)	担当者名	北村 進
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは、教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段でもある。</p> <p>短歌は自分の心の動き(感動)を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感情が凝縮されて言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこにまた魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。</p>	
講義概要	<p>言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切に、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講座では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味わうことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらおう。</p>	
使用教材	テキスト	『新修 日本抒情詩歌』榎おうふう
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	<p>出席を重視する。</p> <p>前期はレポート提出。</p> <p>後期については未定。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌史を略説する。
2	『万葉集』の歌を五回にわたって取り上げる。第一回目は『万葉集』について解説し、初期万葉の歌人たちの歌を取り上げる。
3	第二回目は宮廷歌人の歌を取り上げる。具体的には柿本人麻呂・山部赤人・笠金村などの歌人の歌が中心となる。
4	第三回目は中国文学の影響を色濃く漂わせている大伴旅人・山上憶良を中心に、いわゆる貴族文人の歌を取り上げる。
5	第四回目は近代的憂愁を併せ持った大伴家持と、彼をとりまく女性たちの歌を取り上げる。
6	第五回目は東歌・防人歌・作者未詳歌・伝説歌など万葉集ならではの歌を取り上げる。万葉の歌の素朴さを味わう。
7	『古今集』の歌を取り上げる。とりわけ人口に膾炙した名歌を中心に、その技巧性について考察する。
8	小野小町・和泉式部・伊勢等の女流歌人の歌を取り上げる。
9	『新古今集』の歌を取り上げる。定家・式子内親王・俊成の女など。
10	西行・実朝の歌を取り上げ、それぞれの歌人の歌の特質について考える。
11	百人一首の歌の中から何首かを取り上げ、味わう。
12	『玉葉集』『風雅集』の中から京極為兼・永福門院等の歌人を取り上げ、その歌風について考察する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘抄』や『閑吟集』の中からよく知られた歌謡を取り上げ解説する。
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重じた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察してみたい。
3	近世末期に登場した歌人たち、当時は景樹の桂园派が主流であったが、これに属さず独自の立場を守った良寛・大隈言道・橋曙寛の歌を取り上げる。
4	正岡子規らの和歌改良論及びその歌を取り上げ、和歌が近代的な短歌に脱皮してゆく過程について考察する。
5	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子など。
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。伊藤左千夫・長塚節・島木赤彦・斎藤茂吉など。
7	この時期に活躍したその他の歌人たち—石川啄木・若山牧水・釈迺空などの歌を取り上げる。
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の歌の中から名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る辞世の歌を取り上げる。
10	詩を取り上げる。島崎藤村・室生犀星・佐藤春夫・立原道造など。
11	現代短歌を取り上げる。寺山修司・佐佐木幸綱といった男性歌人の歌。
12	同じく現代短歌を取り上げる。俵万智の「サラダ記念日」など女流歌人の歌。
備考	

科目名	国語表現 国語(旧)	担当者名	小島幸枝
-----	---------------	------	------

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を増強する訓練を怠らないことを前提としたい。		
講義概要			
使用教材	テキスト	松村明編 国語表現法(桜楓社)	
	参考文献		
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語表現 国語(旧)	担当者名	福 沢 健
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>本講座においては、文章表現の基礎を再確認し、自らの思考を論理的に表現できる能力を身につけることを目標とする。言語表現には「話す」「聞く」「読む」「書く」のいわゆる四技能があるが、特に後二者に力を入れたいと考える。大学生活で最も要求されるのが、「読む」能力と「書く」能力であると考えからである。具体的な文章表現の能力は実践によって培われるものであるので、授業は講義よりも演習が中心となる。</p>		
講義概要	<p>文章表現の基礎として確認する事項は次の通り。①語彙(熟語・同義語・類義語・対義語・同音異義語・同訓異義語)、②表記(用字法・句読法・原稿用紙の使い方)、③表現(一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方)。その他、四字熟語などにも触れる。次に実際の文章を書くに当たり、必要な基本作業の確認を行う。①主題文をつくる、②構成を考える、③語句の運用、④レトリック、⑤推敲の以上の点を踏まえつつ、話題をつかみやすい文章を選び、その内容をまとめ、さらにはその話題に関する小論文を書く練習を後期では行ないたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	<p>定期試験による評価は行なわない。授業時に行なう小テスト及び、課題として提出してもらったレポートによって評価を定める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>国語辞典を携行のこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明。
2	語彙Ⅰ（熟語・同義語・類義語・対義語）
3	語彙Ⅱ（同音異義語・同訓意義語・四字熟語）
4	表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）
5	表現（一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方）
6	主題と構成Ⅰ（主題文・構成のスタイル）
7	主題と構成Ⅱ（段落・書き出しと結び）
8	語句の運用（文法・語感）
9	レトリック（比喩表現・展開の表現技法・伝達の表現技法）
10	推敲（表現上の推敲・表記上の推敲）
11	論理的文章（立場と結論・材料と構成）
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章読解と作文の実践。取り扱う文章については、日本文学、日本文化に関するものを中心にして見ていきたいと考えている。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	国語表現 国語(旧)	担当者名	宮澤康造
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>国語表現には、音声と文字(文章)による二つがある。本講座では文字表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高めることを目標とする。また応用として、新聞・雑誌の編集、詩歌の創作、自分史のまとめなどについても広く学ぶ。</p>	
講義概要	<p>継続は力、とくに国語表現力の養成は、日常生活の中でのたゆまぬ努力によって培われる。書くことが習慣化され、書くことが楽しくなれば最上である。だがそんな人は多くない。</p> <p>書けるようになるには、内なるものの充実が必要である。体験を重んじ、読書を大切にすることが必須である。現代の情報氾濫の中で、いかに受容するかも大切なことである。</p> <p>本講座では、年間を通じて書くことに心を向けさせ、書くことの方法を身につけるための広い知識と習慣を用意している。手紙の書き方からはじめ漢字や仮名づかいに及び、作家の文章や文章論に学び、新聞や碑文のことばに関心を寄せ、資料の生かし方、編集の方法など多岐に及ぶ。</p>	
使用教材	テキスト	①「文章の書き方」(文化庁) ②「作家・文学碑の旅」(宮澤康造)
	参考文献	前期の第1時間目「国語表現参考書目」(プリント)で提示。
評価方法	<p>①出席を重視する。毎時のノート、プリント等の累加記録の状況。</p> <p>②前後期末のテスト2回の実績。</p> <p>③折々の作文のまとめと提出状況。</p> <p>④学生の自己評価も参考に総合評価。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席や遅刻を平気と考える者は、初めから受講申し込みをしないこと。受講の申し込みをしたら最後まで出席の努力を重ねること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。文章とは何か、文章上達のための要件について講話。
2	手紙について——文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識・理解・書式について。実習——封筒の書き方。
3	手紙の実習と諸注意。——手紙についての留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。実習——父母への手紙
4	作家の手紙の考察——藤村、漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。資料としての手紙——詩から散文へ（藤村の小諸時代）
5	文章の書き方——テキスト①の座談会の要約、メモのとり方を学ぶ。材料（題材）の収集メモ——記録のもつ力、継続の力の尊さを知る。
6	原稿用紙の書き方——原稿用紙の正しい表記、句読点や段落の理解。文は人なり、文章は段落なりということ。
7	文題と内容——一般題と特殊な文題の理解。段落と構成のしかた。
8	漢字の学習——漢字の字源・構成・誤り易い漢字や熟語、身につけたい160の漢字。
9	文章の書き方——望ましい文章とは？ 機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
10	文章論に学ぶ——作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫・結びの要領を学ぶ。
11	文学碑のことば——作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解（テキスト②）
12	埼玉県の文学碑——文学碑一覧から、学園近辺の文学碑の理解。レポートのまとめ方——文学碑探訪等の記録・紀行文をまとめる（例）芭蕉と草加。埼玉の文学者、郷土の文学碑など。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期答案の返却と概評。「ことしの夏を語る」感想発表のためのメモ。実作——「ことしの夏」
2	作家の文章の考察——短編を選び、主題、起筆、結筆の要領、構成などについて考える。
3	かな（カナ）文字について——「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、平がな、カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
4	作家と文章——好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ。作家とエッセイ、作家と題材、作家のペンネームの由来を考える。
5	外来語——新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の理解と文章中での生かし方。キーワードについて。実習——カタカナ語の収録
6	新聞に学ぶ——日刊新聞を通じて新聞のあるべき姿、その概要を知る。社説、コラムの文章、見出しと内容など 実習——新聞記事の切抜き
7	新聞に学ぶ——新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の文章、一般人の投稿文などについて。
8	作家の文章論に学ぶ——作家の文章読本・文章論を読んで、文章のあり方を学ぶ。（例）丸谷オー「文章読本」名文を読めということ。
9	短詩型文学について——日本の韻文としての和歌・俳句・詩・川柳などさまざまな短詩型文学を理解する。実作——短歌・俳句を作る。
10	レポート・論文のまとめ方——アンケートの作り方、資料を生かしてレポートのまとめ方、論文でいかに文章を構成するかなど。実作——「大学生活とは」他
11	自分史のまとめ——現在までの年譜の作成。その中のある時代の文章化を試みる。その積み重ねで自分史をまとめる。実作——「～のころ」
12	情報や資料の生かし方——溢れる情報洪水の中から、いかに資料を選択し収集し、生かすかを学ぶ。研究論文まとめの要領。
備考	

科目名	日本文学 日本文学 (旧)	担当者名	飯島一彦
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現している重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講義概要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一まびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の購読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。	
	参考文献	その都度教室で指示する。	
評価方法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受講者に対する要望など	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「お伽草子」とは何か？
2	「浦島太郎」を読む①
3	「浦島太郎」を読む②
4	「浦島太郎」を読む③
5	奈良時代の「浦島太郎」① 日本書紀
6	奈良時代の「浦島太郎」② 万葉集
7	平安時代の「浦島太郎」①
8	平安時代の「浦島太郎」②
9	昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10	国定教科書の「浦島太郎」
11	まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12	予備日「絵本の中の浦島太郎」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「一寸法師」を読む ①
2	「一寸法師」を読む ②
3	「一寸法師」を読む ③
4	奈良時代の「一寸法師」①
5	奈良時代の「一寸法師」②
6	平安時代の「一寸法師」①
7	平安時代の「一寸法師」②
8	芸能に見る「一寸法師」
9	国定教科書の「一寸法師」
10	昔話の「一寸法師」
11	まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
12	予備日「絵本の中の一寸法師」
備考	

科目名	日本文学 日本文学(旧)	担当者名	中村文
-----	-----------------	------	-----

講義の目標	鎌倉時代の初めに鴨長明が著した『無名抄』の読解を通して、和歌をめぐる約束事や人間関係、社会生活の中での和歌の機能を知るとともに、数多くの歌人の逸話から、和歌を詠むという営為が持つ意味や、他者と衝突してまで守ろうとした文芸観、秀歌を詠み出すために心を砕いたありさま等を読み取り、日本の芸道全般に通じる、ひたすらに執着することによって向上しようとする姿勢について考えたい。		
講義概要	『方丈記』の著者として有名な鴨長明は、新古今時代に活躍した歌人でもある。その著作の一つ『無名抄』には、和歌に関する故実(和歌を詠む上での約束事や地名の由来)が記される他、数多くの歌人にまつわる興味深いエピソードが書き残されている。前期の講義では、歌人達が和歌を詠む様々な場面にどのような姿勢で対処したかを描く話を取り上げ、彼らの名誉欲や歌人としての矜持、秀歌を詠み出そうとする執着心や歌人間の対立の様相等を読み取りたい。後期の講義では、彼らが秀歌の条件や歌人として立つための要件をどの辺りに求めていたのかを描く話を読んで、彼らを和歌詠作へと駆り立てた理由を探るとともに、人間にとって文学に携わることがどのような意味を持つのかについて考えたい。		
使用教材	テキスト	川村晃生・小林一彦校注『無名抄』(三弥書店、1000円)	
	参考文献	随時プリントを配布する。	
評価方法	前期・後期にそれぞれ一回、レポートを提出してもらおう。これに、授業中の発言内容等を加味して判定する。		
受講者に対する要望など	なじみの薄い人名や和歌という文学形式にとまどうかもしれないが、歌人達の人間臭い面に共感を持って、詩による自己表現とは何かということを考えてほしい。私語は厳禁。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	鴨長明と『無名抄』についての概説。授業の進め方などについての説明。
2	晴の歌人に見せ合すべき事 (p. 8) *歌合に加わる時の心得(1)
3	頼政歌俊恵撰ぶ事 (p. 10) *歌合に加わる時の心得(2)
4	俊恵が歌を傀儡がうたふ事 (a. 25) 同じ人、歌の中に名の字をよむ事 (p. 26) *歌人の名誉欲
5	三位入道、基俊が弟子になる事 (p. 27)、俊頼・基俊いどむ事 (p. 28)、歌人同士の対立(1)
6	琳賢、基俊をたばかる事 (p. 29)、基俊、僻に難ずる事 (p. 29) *歌人同士の対立(2)
7	歌人、証得すべからざる事 (p. 41) *歌人の心がまえ
8	道因歌に志深き事 (p. 49)、頼政歌道にすける事 (p. 45) *歌道への執着(1)
9	頼実が教寄の事 (p. 72)、千載集に予一首入るを悦ぶ事 (p. 14) *歌道への執着(2)
10	艶書に古歌かく事 (p. 30)、女の歌よみかけたる故実 (p. 31) *恋愛の中の和歌
11	隆信、定長一双の事 (p. 50) *歌道への精進
12	大輔・小侍従一双の事 (p. 51)、俊成卿女・宮内卿兩人歌のよみ様かはる事 (p. 51) *和歌を詠む姿勢
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	俊成自讃歌の事 (p. 46)、俊恵俊成の秀歌を難ずる事 (p. 47) *和歌に対する評価
2	上の句劣れる秀歌 (p. 35)、歌の詞の槽糠 (p. 36) *秀歌の条件(1)
3	歌をいたくつくろへば必ず劣る事 (p. 37)、秀句に依って心劣りする事 (p. 37) *秀歌の条件(2)
4	静縁こけ歌よむ事 (p. 39)、案じ過して失と成る事 (p. 38) *秀歌の条件(3)
5	歌半臂の句 (p. 34) *和歌に用いることば
6	会の歌に姿分つ事(p. 52) *和歌の姿(1)
7	俊恵、歌の体を定むる事 (p. 64) *和歌の姿(2)
8	古歌を取る (p. 68) *和歌の修辞技巧
9	榎葉井の事 (p. 32) *和歌に用いられる地名に関する知識と歌人の条件(1)
10	このもかもの論(p. 11)、せみのをがはの論 (p. 12) *和歌に用いられる地名に関する知識と歌人の条件(2)
11	千鳥、鶴の毛衣を着る事 (p. 16) *和歌に用いられることばに関する知識と歌人の条件(1)
12	ますほの薄 (p. 17)、井手の山吹ならびに蛙 (p. 19) *和歌に用いられることばに関する知識と歌人の条件(2)
備考	

科目名	日本文学 日本文学(旧)	担当者名	福 沢 健
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>柿本人麻呂は、『万葉集』を代表する歌人であると共に、日本文学史の上でも最高の歌人の一人として位置付けられている。では、柿本人麻呂の歌とはどのようなものか。この問題を初期万葉集から順々に説いていくことによって述べていきたいと思う。柿本人麻呂の歌は、讃歌と挽歌とに大別されるが、本講義では主として讃歌の系列に属する作品について考察していきたいと考えている。</p>		
講義概要	<p>高等学校までの古典とは異なり、現代語訳を付けることを目標とするのではなく、その作品の文学的位置付けを考察する点に主眼があるので、特に文法等の知識がなくてもよい。具体的に扱う歌人は、①伝承歌(雄略天皇・舒明天皇)、②初期万葉歌(中皇命・額田王・中大兄)、④柿本人麻呂、⑤人麻呂以降(山部赤人・笠金村・田辺橘麻羅・大伴家持)である。これらの歌人の歌の内容を分析し、その作品の文学史的位置付けについて考えていきたいと思う。</p>		
使用教材	テキスト	小野 寛校註『万葉集抄』(笠間書院)	
	参考文献	随時指示する。	
評価方法	前・後期のレポートによって行なう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の説明。『万葉集』についての概説。
2	雄略天皇の歌①
3	雄略天皇の歌②
4	舒明天皇の歌①
5	舒明天皇の歌②
6	中皇命の歌①
7	中皇命の歌②
8	額田王の歌①
9	額田王の歌②
10	額田王の歌③
11	中大兄の歌
12	額田王の歌④
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	柿本人麻呂の歌①
2	柿本人麻呂の歌②
3	柿本人麻呂の歌③
4	柿本人麻呂の歌④
5	柿本人麻呂の歌⑤
6	柿本人麻呂の歌⑥
7	柿本人麻呂の歌⑦
8	柿本人麻呂の歌⑧
9	人麻呂以降①
10	人麻呂以降②
11	人麻呂以降③
12	まとめ①
備考	まとめ②

科目名	外国文学 外国文学 (旧)	担当者名	北澤 滋久
-----	------------------	------	-------

講義の目標	文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会って、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、殊に昨年は異常現象が生じ、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年10-20%の不合格者が出ています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J.D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋(冒険)小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月の六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシュー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	外国文学 外国文学(旧)	担当者名	松山恒見
-----	-----------------	------	------

講義の目標	読書の楽しみと、それによってもたらされる教養の基盤がいかに大きいかを知らせること。 なお、この講義は他の外国文学の講座に、英米、独があるためフランスを中心とするが、特にそれにこだわるわけではない。	
講義概要		
使用教材	テキスト	テキスト：なし。
	参考文献	参考文献：多岐にわたるのでその都度指示する。
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後観を書いてもらうことで、評価の50%とする。 残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度と、記憶とを見る出題による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1)古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2)聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀 (ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネリュ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2)ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人 (クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人。(附) コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジョルジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。
備考	

科目名	外国文学 外国文学(旧)	担当者名	宮澤康造
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢文を通じて、中国古典の学習を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>	
講義概要	<p>日本の文物制度は中国に負うところが大きい。とくに日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。</p> <p>本講座では、漢文読解の力を養い、また日本で現在も生きている故事成語を理解するため、広く中国文学の概要を学び、テキストに収めた漢詩文の読解演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を用意して広い知識を身につけるようにし、漢詩文の碑の読解なども加えて、興味ある講座の展開を用意している。</p>	
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考(御牧貞風編)
	参考文献	①漢文学習のための辞典 ②漢文学習のための参考書 いずれも授業時プリントで示し、解説する。
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日常の訓読演習への参加は学習向上の鍵。</p> <p>②前後期末実施のテストの成績。</p> <p>③学生各々の自己評価票。(参考)</p> <p>④自主レポート 以上の四点より総合評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>継続は力、ねばり強い努力が大切。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから受講しないこと。学問を通じて人間形成を望む者来れ。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近な故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は何か。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢字の字源(成り立ち)、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」(テキスト1頁) 読解 日本のことわざとの比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」(テキスト2～3頁)
6	「蛇足」「四面楚歌」「塞翁馬」「推敲」(テキスト4～6頁)
7	漢文故事成語考(テキスト27～54頁)の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。(テキスト55～60頁)
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解 陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。 中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。 碑の採録の方法について。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。唐代の詩の概説—主なる詩人とその作品について—
2	劉希夷「代悲白頭翁」(白頭吟)の読解。 対句的表現の妙について
3	李白と杜甫について—プリントにより対比考察— 李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府についての解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。六編の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問(プリント)の解答。 杜甫の人と作品についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について—— 「慈烏夜啼」の読解
8	「長恨歌」を学ぶ。長編の詩の通読、表現上の特色について知る。 段落と押韻についての考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。 設問(プリント)の考究。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景(史実)についての解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読(テキスト27～54頁) 現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	外国文学 外国文学(旧)	担当者名	山路朝彦
-----	-----------------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに(映画化や演劇化されたものも使います)、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法 ①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解説
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解説
6	④構造主義的方法
7	カフカの解説
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解説
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解説
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	歴史学（日本史） 日本史（旧）	担当者名	新井孝重
-----	--------------------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』（小学館、日本の歴史） ・佐藤進一『南北朝の動乱』（中央公論、日本の歴史）（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を別出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1)内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2)中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巣窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学（日本史） 日本史（旧）	担当者名	齊藤 博
-----	--------------------	------	------

講義の目標	地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>レポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聞き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参考文献	講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。	
評価方法	前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。		
受講者に対する要望など	出席が良好でないや理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学（東洋史） 東洋史（旧）	担当者名	熊谷哲也
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>イスラーム世界の歴史について知識と理解を深める。今日の国際情勢を読みとるうえでイスラームは重要なキーワードの一つとなっているが、これを理解するためには、そこに生きる人々の宗教や思想、生活、文化にかんする基本的な知識が必要である。</p> <p>イスラーム教の成立以降の西アジア史の流れを、現代的な問題関心を交えながら学びとり、社会的な視野を広げることを目標とする。</p>	
講義概要	<p>前期はイスラームについての基本的な知識を学んだうえで、預言者ムハンマドとその時代から16世紀にいたるまでの西アジア史を概観し、宗教の成立とその拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。同時に中世イスラーム世界の社会や文化についての基本的な知識を学ぶ。</p> <p>後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別に概観しながら、さらに宗教・文化にかんするテーマをトピック形式で加える。これによって今回イスラームが関係するさまざまな問題について、理解が深められるよう留意する。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	夏休みあけに自由課題の読書レポートを提出するが、そのためにイスラームにかんする新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。
評価方法	試験とレポート。発想のオリジナリティーを重視する。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。以上三つの宗教はともにセム的一神教として多くの共通点を持つ。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現とその時代背景について考える。彼がアラー神の啓示を受け、イスラーム教を創始し、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4	預言者の死後、その代理人としてのカリフ（ハリーフ）たちが君臨した正統カリフ時代について考える。この時期に早くも第一次内乱がおこり、シーア派が出現する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンによる古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。古典理論にみられる「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への変化の意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルマーン）と預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発展した初期思想と学問の展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代に発展したアラビア科学とその内容について、また中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概述する。
10	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配は奴隷王朝と表現されるが、とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピトレーションの問題をとりあげる。
12	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	イスラーム世界の文化的な影響がヨーロッパの近代化にはたした役割について再考する。いわゆる「十二世紀ルネサンス」の問題にもふれる。
2	ヨーロッパ世界における帝国主義とアジア、とくにイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアの近代化をまず一般論として把握する。
3	イスラーム世界における知識人階層であるウラマーについて、政治権力との関係、社会的な役割について考える。
4	オスマン帝国の近代化の問題について考える。帝国の解体、トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
5	西洋の衝撃によって西アジア世界の内部にあらわれたさまざまな改革運動とその内容を考察する。欧化主義や復興主義（あるいは原理主義）の芽生える様子を理解する。
6	エジプトの近代化とその過程について考える。前回の改革運動についての理解をさらに深めることになる。
7	トルコの近代化とその過程について考える。すでにオスマン帝国の近代化を学んだが、その続きとしてトルコ共和国の成立に至るまでを考える。
8	その他のイスラーム諸国の近代化についてさまざまな問題について考える。
9	イスラーム法（シャリーア）について、また人々の生活と信仰についての現代における諸問題をとりあげ、近代化のもつ意味を探る。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題を中心にとりあげる。
11	パレスチナ問題について考え、現代のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ヨーロッパ世界との関係を再考する。
12	まとめをおこなう。
備考	

科目名	歴史学（東洋史） 東洋史（旧）	担当者名	西嶋定生
-----	--------------------	------	------

講義の目標	日本の歴史を東アジア世界の中に位置づけて理解することを目的とする。これは日本歴史を世界史の中に位置づけるということである。その位置づけ方として、世界史の新らしい構想が必要となる。東アジア世界とは近代的世界、すなわち19世紀において完成する全地球的世界が形成される以前の複数の世界のうちのひとつであり、その中で日本の歴史は育成された。このような観点から東アジア世界の形成とその構造を解説し、その中に日本の歴史の展開を位置づけてみたい。		
講義概要	まず東アジア世界とはいかなる歴史的世界であるかを説明する。そして東アジア世界が漢字文化圏であり、中国文化圏であることを説き、この文化圏が成立するためには、冊封体制という中国王朝を中心とする国際的政治関係が形成されることが必要であることを説明する。これによって価値体系を共有する領域が形成され、その領域が東アジア世界にほかならぬことを説明する。そしてこの東アジア世界が10世紀にひとたび崩壊すると、各地域にそれぞれ独自の民族文化が形成される。そしてそれ以後、東アジア世界は独自の交易圏として復活し、19世紀にいたって近代的汎地球的世界の中に吸収されることを説明する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・西嶋定生『中国史を学ぶということ』（吉川弘文館） ・西嶋定生『日本歴史の国際環境』（東京大学出版会） 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』（東京大学出版会） ・西嶋定生『倭国と邪馬台国』（吉川弘文館） 	
評価方法	学年末に常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは原則として受験資格が認められない。		
受講者に對する要望など	講義中の私語は厳禁する。違反者は退室してもらう。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	世界史とは何か。世界史の構造。世界とは何か。
2	東アジア世界とは何か。東アジア世界と日本。
3	漢字文化圏の成立。漢字はいかにして中国の周辺地域に伝えられたか。
4	冊封体制とは何か。中国王朝と周辺地域との関係がなぜ冊封体制をつくるか。
5	冊封体制と文書外交。文書作成と印章制度。
6	冊封体制と中国文化圏の形成。
7	邪馬台国をめぐる東アジア状勢。
8	南北朝の分裂と日本。倭の五王の問題。
9	日本における治天下大王の出現と東アジア。
10	遣隋使外交の意味するもの。
11	遣唐使外交の意味するもの。
12	遣唐使停止の背景。古代東アジア世界の崩壊。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジア交易圏の成立。宋代における社会経済の発展。日宋貿易の発展。
2	モンゴル帝国の出現と東アジア。蒙古襲来の事情とその背景。
3	明王朝の成立と東アジア世界の再現。勘合貿易の意味。倭寇の活躍とその対策。
4	秀吉の朝鮮侵略とその失敗。
5	江戸時代における鎖国政策と東アジア世界。
6	江戸時代の日本文化と中国文化。
7	東アジア世界と大清帝国。
8	大清帝国の文化。
9	ヨーロッパ世界のアジア進出。
10	東アジア世界と近代世界との相克。
11	近代世界と日本。日本と東アジア世界。
12	汎地球的全世界の中における東アジア世界その他の旧世界の残滓。
備考	

科目名	歴史学（西洋史） 西洋史（旧）	担当者名	高橋正男
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに日本人の視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙シラバスを参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』（第2刷）時事通信社、1994年 ・D=バハト著（高橋正男訳）『図説 エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年 	
	参考文献	<p>その都度紹介する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の筆記試験による。 講義資料等は出席者のみに配布する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>*在外研修のため5月第2週から開講</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	エルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	エルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	歴史学（西洋史） 西洋史（旧）	担当者名	古川 堅 治
-----	--------------------	------	--------

講義の目標	<p>——ヨーロッパの歴史——</p> <p>今、ヨーロッパにはEUを中心としての総合の道を歩もうとしている。今世紀に加盟諸国が経済統合・通貨統合のみではなくへ外交・防衛の点でも共同歩調をとろうという固い意志表明がそこには見られる。このような動きの中で12ヶ国の研究者たちが、ヨーロッパについての共通の歴史認識を得ようとして1つの通史を作り上げた。この通史を通して、ヨーロッパ人の歴史意識とかれらの抱く新しい「ヨーロッパ像」を考察する。</p>		
講義概要	<p>講義は平易で、わかりやすい形の説明を中心に進めていくが、必要に応じて、ビデオなどを使って理解を深めて行きたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に使用しない。</p>	
	参考文献	<p>フレデリック・ドルーシュ編/花上克己訳『ヨーロッパの歴史：欧州共通教科書』（東京書館、1994年）</p>	
評価方法	<p>前・後期各1回ずつのレポート提出により判断。テーマ、メ切り日、枚数等は授業中に提示する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受身ではなく、積極的に討論・考察する学生を期待する。</p>		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	「ヨーロッパとは何か」 ①地理的特徴②多様な言語③「文明」と「文化」④経済と社会の結合性
2	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A.D.4世紀) ①ヨーロッパ最初の人類と耕作民②金属時代と地中海交易③地中海世界におけるギリシアの発展④ヨーロッパの新しい勢力
3	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A.D.4世紀) ⑤古典文明・最盛期⑥再統一か分裂か?
4	「ローマ帝国の威光」(B.C.6—A.A.5世紀) ①ローマ：都市国家から世界帝国へ
5	「ローマ帝国の威光」(B.C.6—A.A.5世紀) ②ローマ帝国のヨーロッパ③侵入と変動：新しいヨーロッパの成立に向けて
6	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ①ユスティニアヌス帝とビザンツ帝国〈6—7世紀〉②ビザンツ帝国とヨーロッパの新興諸国〈8—9世紀〉
7	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ③ビザンツ帝国の最盛期〈10—11世紀〉④西欧世界〈10—11世紀〉⑤東西世界の宗教生活〈6—11世紀〉
8	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ①中世ヨーロッパとキリスト教②ヨーロッパの封建制③帝国と教会領
9	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ④都市と交通⑤ヨーロッパの拡大⑥文化的統一と政治的分裂
10	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ①経済②社会③政治と行政
11	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ④宗教と精神生活⑤変わりゆく文化
12	「小括」
備考	

後期

週	主要テーマ
1	「新世界との出会い」(15—18世紀) ①ヨーロッパの膨張②大発見の時代Ⅰ③大発見の時代Ⅱ
2	「新世界との出会い」(15—18世紀) ④植民地帝国の形成⑤世界経済⑥異文化との出会い
3	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ①ルネッサンス②宗教革命③反宗教改革とカトリックの改革
4	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ④宗教戦争によるヨーロッパ分裂⑤絶対主義のヨーロッパ
5	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ①グランドツアー：ヨーロッパの教育②王朝と戦争③社会生活と経済
6	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ④啓蒙の時代⑤アメリカ独立戦争からフランス大革命へ⑥ナポレオン帝国とその崩壊
7	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ①自由主義と民族主義②人口増加と都市化③農業の改革
8	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ④ヨーロッパの工業化⑤政治構造と社会改革⑥19世紀の文化運動
9	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ①1900年のヨーロッパに②第一次世界大戦③ヨーロッパの新体制
10	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ④再度の危機⑤戦争準備⑥第二次世界大戦
11	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①戦後の混乱②復興③東の停滞と西の繁栄
12	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①危機への対応②ヤルタ体制の再検討③「総括」
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（現代社会と学問）1	担当者名	川村 肇
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>学問は、現代社会が提起している諸問題の解決に、究極のところは役立たねばならない。現代社会と全く断絶することは許されまい。本講では日本と世界に生じている様々な社会問題を、①できうる限り正確に認識し、②現状における解決のための諸方策の到達点をつかむことを、出発点としながら、③それらの解決の方向やあり方、④私たちの主体的かかわり方を議論する中で、学問の現実社会への活かし方を考える。</p>	
講義概要	<p>参加人数によって、複数または個人でひとつ以上の問題について、レポートを求め、発表し、討議する。具体的な進め方等については、参加者と相談して決める。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	<p>期間中1回以上のレポートと、試験</p>	
受講者に対する要望など	<p>興味ある社会問題を、自ら調べて深める態度が不可欠となる。聴講のみの参加は不可。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目的と、進め方、基本的な考え方と立場の説明
2	グループ分け準備
3	以下、後期まで貫いて、例えば下記のような問題を扱いたいと考えている。
4	・米、農業問題 ・安保、平和問題 ・民主主義問題
5	・環境問題 ・文化問題 ・福祉、医療問題
6	・国際協力問題 ・災害対策問題 ・外国人労働者問題
7	・戦争責任、戦後保障問題 ・開発問題……etc
8	各テーマを決めるのは、参加者たちの自主性によるので、内容とその順序は未定である。
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	——前期に続く
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	試験
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（中東の歴史）2	担当者名	高橋正男
-----	-------------------	------	------

講義の目標	中東の歴史をオスマン帝国の成立から現代までを概観する。		
講義概要	別紙参照		
使用教材	テキスト	護雅夫・牟田田義郎著『アラブの覚醒』（世界の歴史22）講談社 他	
	参考文献	その都度紹介する	
評価方法	学年末のレポートもしくは筆記試験および出席回数によって決める。授業はゼミナール形式で行なう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中東概観 —地理的範囲—
2	—民族・宗教—
3	—政治・経済・国際社会—
4	日本における中東研究瞥見
5	中東世界の統一性と多様性
6	オスマン帝国の成立(1) 14-15世紀
7	オスマン帝国の成立(2)
8	イスラーム世界帝国の出現(1) 16世紀
9	イスラーム世界帝国の出現(2)
10	ビデオ
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン帝国の苦悩
2	帝国から共和国へ
3	アラビアの胎動
4	スエズ運河とエジプト
5	アラブの覚醒
6	二つの大戦
7	戦中から戦後へ
8	中東戦争(1)
9	中東戦争(2)
10	和平条約締結
11	ビデオ
12	まとめ
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (キリスト教史 I) 3 キリスト教思潮 (旧自)	担当者名	中島文夫
-----	--	------	------

講義の目標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸張・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目するという事もある。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>	
講義概要	<p>——キリスト教史 I : 古代——</p> <p>キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。時間の制約から範囲を古代に限定し、ローマ教皇を頂点とする普遍的教会という体制が一応でき上がるまでの経緯を明らかにする。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない。講義内容の概略を記したプリントを配布する。
	参考文献	授業の中で適宜指示する。
評価方法	<p>前期・後期とも期末に筆記試験またはレポートを課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>特に予備知識は要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者および同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序説1、キリスト教大観。 序説2、キリスト教史の意義。
2	序論 ヘブライズとヘレニズム
3	§ 1、イエスとその弟子たち。
4	§ 2、原始教団の成立と発展。
5	§ 3、「異邦人の使徒」パウロ
6	§ 4、新約諸文書の成立。
7	§ 5、「キリスト論」の展開。
8	§ 6、2世紀のキリスト教。
9	§ 7、初期異端と「カトリック」教会。
10	§ 8、ローマ教会の優位。
11	§ 9、ロゴス・キリスト論の確立。
12	§ 10、アレクサンドリア学派。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	§ 11、教会制度の発展(1)。
2	§ 12、教会制度の発展(2)。
3	§ 13、「帝国の教会」への歩み。
4	§ 14、ニカイア抗争。
5	§ 15、ゲルマン民族大移動とキリスト教。
6	§ 16、修道院制度の発展。
7	§ 17、正統キリスト論の確定。
8	§ 18、東方の分裂と破局。
9	§ 19、教会制度の発展(3)。
10	§ 20、ヒエロニムスとアウグスティヌス。
11	§ 21、教皇の権威の確立。
12	(予備日)
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（西洋倫理思想史）4 西洋倫理思想史（旧自）	担当者名	中島文夫
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	我が国にとって近代化とはヨーロッパ化に他ならなかったが、当のヨーロッパにとっては近代化とは何であったのかを明らかにしようとする。近代精神の中核をなす諸要素は中世ゲルマン的キリスト教文化の中から発出したという考えに基づいて、厳密な意味でのヨーロッパ世界の形成期から考察を始め、「中世的なるもの」の理解のために多くの時間を費すが、究極の目的は「近代」の理解にある。		
講義概要	「ヨーロッパの近代化は、中世的な Corpus Christianum（キリスト教的社会有機体）が解体し、それとは原理的に対立する新しい社会が形成されて行った過程である」という E. Troeltsch の考えを導きの糸として、キリスト教的中世世界がどのようにして形成され、その中から「近代的なもの」に通じる諸要素がどのように生れて来たかを、修道院活動・異端運動・神秘主義・都市・大学などの歴史的考察によって跡づけた後、ルターとカルヴァンの改革思想と運動、それに対抗したカトリック改革などを取り上げ、カルヴィニズムの倫理が「近代化」の決定的要因となったことを示す。		
使用教材	テキスト	使用しない。講義内容の概略を記したプリントを配布する。	
	参考文献	授業の中で適宜指示する。	
評価方法	前期・後期とも期末に筆記試験を行う。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。		
受講者に対する要望など	未知の分野に対する旺盛な知的好奇心と、講義者および同僚履修者に対する妥当なマナー。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「西洋倫理思想史」の意義。年間授業計画についての詳しい説明。履修に関する諸注意。
2	序章 「近代化」とは何か。(概念規定と、考察の基本的な方向づけ。)
3	第1章 近代化への底流——中世キリスト教的ヨーロッパ世界。 § 1、「中世」という時代区分。 § 2、修道院活動の展開。
4	§ 2、修道院活動の展開。(続)
5	§ 3、フランク教会の形成。 § 4、カロリング・ルネサンスと修道院。
6	§ 5、修道生活の革新。(クリュニー修道院など。) § 6、聖者・聖遺物崇敬と巡礼。
7	§ 7、グレゴリウス改革と「使徒的生活」 (グレゴリウス改革、叙任権闘争、使徒的生活の理念など。)
8	§ 8、グレゴリウス改革のもたらしたもの。 (シトー修道会、律修聖職者、プレモントレ修道会、異端の統廃など。)
9	§ 9、正統と異端 (カタリ派とヴァルドー派、教皇インノケンティウス3世、托鉢修道会など。)
10	§ 10、神秘思想の展開。(クレルヴォーのベルナルドなど。) § 11、都市の発達。
11	§ 12、大学の発達と学問の興隆。 § 13、トーマス・アキナスの人格主義
12	§ 14、近代への道備え。(マイスター・エックハルトとドイツ神秘主義、ドゥンス・スコトゥス、オッカムのウィリアムなど。)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第2章 近代化の進行 § 1、人間の尊厳(ジョヴァンニ・ピコ・デラ・ミランドーラ)。 § 2、宗教改革の先駆(ウィクリフ、フス、サヴォナローラ)。
2	§ 3、マルティン・ルターの思想と運動。
3	§ 3、マルティン・ルターの思想と運動(続)。
4	§ 3、マルティン・ルターの思想と運動(続)。
5	§ 3、マルティン・ルターの思想と運動(続)。
6	§ 4、ジャン・カルヴァンの生涯と思想。
7	§ 4、ジャン・カルヴァンの生涯と思想(続)。
8	§ 5、イングランドの宗教改革——身分社会から契約社会へ。
9	§ 6、カトリック改革。(イタリアおよびスペインの改革運動、イエズス会など。)
10	§ 7、カトリック改革(続)。(トリエント公会議)
11	第3章 近代化の完成 § 1、カルヴィニズムの倫理と「資本主義の精神」。 § 2、近代精神の確立。(啓蒙主義。)
12	(予備日)
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（日本近代史）5 日本文化特殊講義A-4（旧自）	担当者名	中村 粂
-----	--------------------------------------	------	-------

講義の目標	自虐的な「侵略戦争史観」を排し、大東亜戦争の背景と原因及び歴史的意義を日本の立場から説明する日本人学生を対象とした講義。		
講義概要	テキストと配布諸資料を使って、日清・日露戦争から大東亜戦争に至る歴史的展開を解説する。「日露戦争の世界史的意義」「満洲は中国領土か」「蘆溝橋の真犯人」「真珠湾の真相」等々日本近代史の焦点に光を当て、醜悪な色に塗りつぶされた我国近代史を再検証する。時局問題にも随時言及するつもりである。「目からうろこの落ちる思ひ」とは受講生の率直な感想だ。		
使用 用 教 材	テキスト	中村 粂『大東亜戦争への道』展転社	
	参考文献	教室で指示。	
評価方法	平素の勤怠・熱意及び定期試験。		
受講者に対する要望など	①初回の授業に出席した者にのみ受講を許可する。 ②資料代（年間）として千円を徴集する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要。
2	大東亜戦争の背景概説。
3	日本と朝鮮。日清戦争。
4	三国干渉。支那の愚策。
5	日露戦争とその世界史的意義。
6	日露戦争と武士道。
7	韓国併合。
8	日米抗争の源流。
9	第一次大戦と日本。
10	第一次大戦と日本。
11	ワシントン会議。
12	国際平和の幻想。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際平和の幻想。
2	赤色支那への対応。
3	満洲事変。
4	満洲事変。満洲は中国領土か。
5	国際共産主義運動。
6	西安事件と蘆溝橋事件。
7	南京三十万人虐殺の虚構。
8	支那事変と日米関係の悪化。
9	日米交渉。
10	日米開戦。真珠湾攻撃は奇襲か。
11	大東亜共栄圏の理想。
12	日本の使命としての大東亜戦争。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（東洋思想史）6 東洋思想史（旧自）	担当者名	西嶋定生
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	東洋における伝統思想の実態とその特徴を追求し、現代日本における思考形態の特殊性を理解することを目的とする。		
講義概要	具体的実例として中国思想の歴史的展開過程を検討する。まず春秋・戦国時代における諸子百家の活躍から、儒教の国教化に至る過程を説明し、さらに儒教と老荘思想との相違と交渉を説き、仏教思想の流入を説明する。この儒教・道・仏の三教の推移がやがて朱子学に代表される宋学の展開となることを説明し、この宋学がやがて明・清の経世致用の学とに変わり、清朝考証学を発達させる。そしてその推移の結果、清末の公羊学の抬頭となることを説明し、またそれとともに西洋思想の流入がこれら伝統思想といかに混交するかを説く。最後にそれぞれの総結として、マルクス思想の中国流入と、その現状とを説明したい。		
使用教材	テキスト	・貝塚茂樹『諸子百家』（岩波新書）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・板野長八『儒教成立史の研究』（岩波書店）（近刊） ・塚本善隆『中国仏教通史』（春秋社） ・梁啓超著・小野和子訳『清代學術概論』（平凡社・東洋文庫） ・貝塚茂樹『毛沢東伝』（岩波新書） 	
評価方法	学年末に常時出席者に対して筆記試験を行う。出席日数不足者の受験は認めない。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の目的と、講義内容の説明。アジア諸地域の思想の相違、日本原始思想と外来思想の問題等を話す。
2	東洋思想と日本との関係。仏教とインド思想、儒教思想・道教思想と日本思想との関係について説明。
3	中国思想史に入る。天の思想について。諸子百家について。
4	諸子百家の説明の続き。とくに儒教思想について。孔子・孟子・荀子について。
5	諸子百家の続き、道家と法家について
6	諸子百家の続き。墨家・名家・陰陽家……。始皇帝の思想統一について。
7	儒教の国教化について。漢の武帝時代の国教化説の批判。漢初の思想と武帝時代の政治思想。『塩鉄論』における儒家と法家。
8	儒家官僚登場の社会的背景。宣帝の即位事情。国家祭祀の思想背景。宗廟祭祀と上帝祭祀の改革問題と儒家官僚。
9	讖緯説の登場儒教と皇帝との接近。王莽と儒教の礼制。後漢礼教主義の形成。
10	仏教の中国伝来。儒教の玄学化。仏教と黄老思想。
11	北魏仏教の成立、太武帝の断屠と雲岡石窟。国家仏教の成立。
12	南朝仏教の成立。慧遠の白蓮社。沙門不拜王者論について。南北朝時代の道教について。寇謙之と葛洪。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	隋唐時代の儒教と道教と仏教。
2	東アジア仏教圏の成立。中国・新羅・日本の仏教とその交流。
3	唐末の社会変化と儒教思想の復古。
4	宋学の展開と華夷関係の逆転。禅学の流行。
5	朱子学の成立とその内容
6	新道教の成立。王重陽と全真教。
7	王陽明とその後。経世実用学の展開。
8	顧炎武・黄宗羲・王夫之について。
9	清朝考証学。閻若璩と胡渭、錢大昕と王鳴盛と趙翼、段玉裁と王昶。
10	清末公羊学と康有為、梁啓超、譚思同。
11	西欧思想の流入と中国思想。
12	マルクス思想の流入と毛沢東。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（古典古代の遺産）7	担当者名	古川 堅 治
-----	---------------------	------	--------

講義の目標	<p>——古典古代の遺産——</p> <p>ギリシア・ローマの文化は現代ヨーロッパ文化の源流をなすものといわれるが、本講座はそのギリシア・ローマのいわゆる古典古代文化がヨーロッパにどのような形で受容され、また影響を与えたかを探求することを目的とする。具体的にはギリシア文化が、ローマ時代、ビザンツ時代、ルネサンス、近代ロマン主義、現代にどのように引き継がれ影響を及ぼしたかを中心に考察し、更に、そのヨーロッパに文化が逆に近代ギリシアにどのような反作用を及ぼしているかまで見通すことにする。</p>		
講義概要	<p>テキストは使わず、参考文献をその都度紹介する。講義は受講生ひとりひとりが主体的に参加し、考えてもらうという形式をとる。図版、ビデオなどを使い立体的な理解をめざす。授業はアト・ホームな雰囲気で行いたい。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない	
	参考文献	<p>①ヨルゴス・D・フルムジアードイス/谷口勇訳『ギリシア文化史（古代・ビザンティン・現代）』（而立書房、1989年）</p> <p>②藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』（南窓社、1993年）</p>	
評価方法	<p>前・後期各1回ずつのレポート提出により判断。テーマ、メ切り日、枚数等は授業中に提示する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受身でなく、積極的に討論・考察する姿勢を期待する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 一年間の講義概要の詳細な説明、授業形態などについて明示する。
2	「古代ギリシアの文化」(1)古典的教養の源泉
3	「古代ギリシアの文化」(2)ギリシア哲学
4	「古代ギリシアの文化」(3)ギリシア芸術
5	「古代ギリシアの文化」(4)古典演劇の成立と発展
6	「ローマ時代における“ギリシア”」(1)古典ヒューマニズムの形成
7	「ローマ時代における“ギリシア”」(2)ギリシア人教師とキケロ
8	「ビザンティン時代における“ギリシア”」(1)歴史的な素描
9	「ビザンティン時代における“ギリシア”」(2)帝国の生活と社会構造
10	「ビザンティン時代における“ギリシア”」(3)ビザンティン芸術
11	「ビザンティン時代における“ギリシア”」(4)コンスタンティノーブル陥落前後の影響。ビザンティンの西洋への貢献。
12	「小括」 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ヨーロッパ中世における古典古代文化の復活——カロリング・ルネサンスと12世紀ルネサンス——」
2	「中世ヨーロッパの大学における古典教育」
3	「ルネサンスと人文主義」(1)ルネサンス観の変遷
4	「ルネサンスと人文主義」(2)イタリア人文主義
5	「ロマン主義に見られる古典古代——バイロンからニ・チェまで——」
6	「近代の歴史家たちと古典古代」(1)ニープールからドロイゼンまで
7	「近代の歴史家たちと古典古代」(2)グロートからモムゼンまで
8	「現代ギリシア文化」(1)民衆文学
9	「現代ギリシア文化」(2)近代ギリシア文学の始まり
10	「現代ギリシア文化」(3)近現代詩と散文
11	「現代ギリシア文化」(4)芸術
12	「総括」 年間のまとめと展望
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（日本思想史）8 日本思想史（旧自）	担当者名	前野 裕
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	江戸時代に開花した日本の儒学（朱子学派および古学派）を概説し、さらに日本古典への研究を進めた国学の本質を明らかにしたい。近世中期までのこれら諸学派から導き出された観念が近代以降に残した影響についても考えるつもりである。		
講義概要	<p>古代から近世に至る日本思想史上、あるいは中国儒学の文献を取り上げ、その意義・後世へのつながり、現代への影響を考えます。古いものを読み現代の問題を考える手だてとしようというのがねらいですが、とせあえず、あるがままに文献を解説してみようと考えています。</p> <p>講義は古代から始まりますが、近世が中心となります。中国近世儒学である朱子学の受容・展開、その批判の上に成立した古学派儒学、日本古典への註釈的研究から独自に「道」を探究する国学。このような流れを考えています。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定せず、毎回複写した資料を配布します。	
	参考文献	日本思想大系（岩波書店）	
評価方法	前期・後期、各一回ずつの試験、講義内容への関心の度合によって評価する。 また、不定期に授業中に試験を実施し、その成績を参照する。		
受講者に対する要望など	複写した漢文・古文の資料を講読しますので、関心の持続する諸君の受講を希望します。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義の概略、方針についての説明。
2	論語について。江戸時代儒学の源流である孔子の教説を論語にもとづいて考える。
3	孔子の説が二つの大きな流れに分れた孟子・荀子の説と、その後世への影響を考える。
4	朱子学について。江戸時代の学問の土台をなしていた朱子学の形成過程を明らかにし、その自然学・人間論・修養説の体系を説明する。
5	朱子学について。江戸時代の学問の土台をなしていた朱子学の形成過程を明らかにし、その自然学・人間論・修養説の体系を説明する。
6	林羅山について。江戸時代初期の儒学の状況、儒学者のおかれた社会的立場について考える。
7	神仏習合について。古代神祇信仰が仏教に包摂されて行く時の教義的背景、また後に中世の神道諸派に神道中心主義が生れる過程を考える。
8	中江藤樹・熊沢蕃山について。江戸時代初期の陽明学の受容、儒学者は当時の武士社会をどのように観察していたかを考える。
9	儒教思想の底流にある孝・祖先崇拜の問題を考える。
10	伊藤仁斎について。朱子学を長く学んだ後、批判するに至った古学派の大家。そこに見られる思考の特質・問題を考える。
11	荻生徂徠について。政治学的方向に転回された儒学、古文辞学といわれる徂徠の言語観について考える。
12	10, 11 の補足。前期試験についての説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国学の学問方法について。和文で書かれた日本古典を註釈・解説する国学に流れる根本精神・学問方法について考える。
2	国学の学問方法について。和文で書かれた日本古典を註釈・解説する国学に流れる根本精神・学問方法について考える。
3	本居宣長の、物のあはれの説について。平安朝の和歌・物語の美的価値である「物のあはれ」、恋愛歌にともなう人間の情欲・道徳の問題を考える。
4	本居宣長の、物のあはれの説について。平安朝の和歌・物語の美的価値である「物のあはれ」、恋愛歌にともなう人間の情欲・道徳の問題を考える。
5	古今和歌集について。和歌が宮廷文学となってゆく過程、中国文学の影響について考える。
6	律令制について。律令はどのような法体系なのか。唐の律令との相違に見られる日本の古代律令官人の思想を考える。
7	古道論について。古事記の註釈から得られた「道」の観念を明らかにする。「物のあはれ」の説との関連、儒学にいう「道」との相違を考える。
8	古道論について。古事記の註釈から得られた「道」の観念を明らかにする。「物のあはれ」の説との関連、儒学にいう「道」との相違を考える。
9	古道論について。古事記の註釈から得られた「道」の観念を明らかにする。「物のあはれ」の説との関連、儒学にいう「道」との相違を考える。
10	尊皇論について。儒学の影響あるいはその批判の上に、天皇の政治的正統性の論理を導き出す過程を考える。
11	未定。
12	未定。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（比較文学・比較文化）9 比較文学（旧自）	担当者名	松田 稔
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>「比較文学」という研究分野は、百年ないし百五十年の歴史をもつ若い学問であるため誤解も生じ易いとともに流動的である。比較文学の概要を紹介し、幻想小説という一つのジャンルについて、比較文学的視点に立って、考えてみるつもりです。</p>	
講義概要	<p>現在、わが国では「比較文学」という名称のもとで「比較文化」も併せて考えており、そのいくつかの例をあげて説明します。</p> <p>ついで、「幻想小説」とよばれるジャンルについて、いくつかの考え方を紹介し、さらに実際の作品についていっしょに考えていきたいと思っています。</p>	
使用教材	テキスト	適宜プリントを用意します。
	参考文献	
評価方法	評価方法：前期・後期にそれぞれ提出課題について、レポートを出してもらう予定。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、「比較文学」の沿革とその概要について考える。
2	第2回目の授業では、「比較文学」の研究分野について述べる。(1)
3	第3回目の授業では、前回の続きを述べる。(2)
4	第4回目の授業では、前回の継続。(3)
5	第5回目の授業では、「幻想小説」の大きな流れと、その概念について述べる。
6	第6回目の授業では、「幻想小説」の大きな流れと、その概念について述べる。
7	第7回目の授業からは、十九世紀の欧米の作品について考えていく。まず、ドイツの作品。
8	第8回目の授業は前回の継続。ドイツ(2)
9	第9回目の授業も前回の継続。ドイツ(2)
10	第10回目の授業から、アメリカの作品について考える。アメリカ(1)
11	第11回目の授業は、前回の継続。アメリカ(2)
12	第12回目の授業では、前期のまとめと補足。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、前期のまとめと、アメリカ(3)
2	第2回目の授業では、アメリカ(4)
3	第3回目の授業では、フランス(1)
4	第4回目の授業では、フランス(2)
5	第5回目の授業からは、日本の近代以前と近代・現代について作品を考えてみる。日本(1)
6	第6回目の授業では、日本(2)
7	第7回目の授業からは、近代日本(1)
8	第8回目の授業は、近代日本(2)
9	第9回目の授業では、近代・現代(1)
10	第10回目の授業では、現代(2)
11	第11回目の授業では、以上のまとめと補足。
12	第12回目の授業では、二十世紀について触れる。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (西洋哲学史) 10 西洋哲学史 (旧自)	担当者名	安本行雄
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>哲学の歴史としての哲学史は、人間が世界解釈と人生評価とを学問的概念の中に蓄えた過程であるといつてよい。それは人間の英知の汲めども尽きぬ蓄積ともいふべきものであって、我々が独善に陥ることを戒めながら、自己自身の生に関わる主体的な知を求める場合の、つまり哲学することの道しるべである。我々は古来からの先哲の思索の跡を辿りつつ先哲と共に考え、その歴史と対話することを通じて、自己なりの世界観・人生観を構築する糧としたものである。</p>	
講義概要	<p>哲学史は絶えず反復された哲学の基本的問題の追求・展開の歴史である。それは例えば、永遠と時間、神と人間、超越と内在、普遍と個別、本質と存在、有と無、主観と客観、或は、愛、正義、自由、美、善など、多岐広汎にわたるものであるが、結局は、ヴィンデルバントが指摘しているように、「世界観及び人生観に関する一般的問題」である。本講では、西洋古代から近世にいたる哲学思想の流れを統一的連関的に捉えながら、今日の我々の問題としても考察してみたい。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する
評価方法	<p>年度末の定期試験で評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>1993年度以前入学者を対象とする。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論—哲学と哲学史、哲学史の意義
2	全上
3	〔Ⅰ〕古代哲学—ギリシャ・ローマの哲学 A) ソクラテス以前の自然学期—自然乃至宇宙を支配するロゴスの研究—学問の誕生とその発展
4	(1)ミレトス学派—宇宙の原質 (2)ピタゴラス—宇宙の構成—存在秩序と数の関係 (3)エレア学派 (パルメニデス他)—存在の問題
5	(4)ヘラクレイトス—生成の問題
6	(5)原子論 (デモクリトス他)—変らない実体と変化する現象の対立克服の試み
7	B) ソクラテスの人間学期—自然から人間へ—ギリシャ思想の転換 (1)ソフィスト—主観主義・相対主義に基づくソフィスト的知識
8	(2)ソクラテス—哲学の転換—魂への配慮としての知の追求、問答法 (ディアレクティケー)
9	C) 体系期—自然学期と人間学期の総合 (1)プラトン—イデア論—二世界説、その理論的意義と実践的意義
10	全上
11	(2)アリストテレス—形而上学—実体論
12	全上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	D) ヘレニズムの哲学—キニーク学派・エピクロス学派・ストア学派の実践哲学
2	〔Ⅱ〕中世哲学—ギリシャ思想とキリスト教思想—理性と信仰 教父哲学とスコラ哲学—アウグスティヌスとトーマス・アキナス
3	〔Ⅲ〕近世哲学—人間と自然—自然に対する人間の根源的主体性の確立 A) ルネッサンスの哲学—近代思想の芽生え—人間と自然の再発見
4	B) 啓蒙主義の哲学—自然から独立した人間の哲学 (1)経験論—フランシス・ベーコン他
5	(2)合理論—デカルト
6	C) ドイツ観念論—意識と存在、理性と現実をめぐって (1)カント—人間理性の自己批判—合理論と経験論の批判的総合—根源的主体性の自覚
7	全上
8	全上
9	(2)ヘーゲル—現実とは理性の自己実現の過程—弁証法的思惟
10	全上
11	D) 唯物史観—マルクス
12	E) 実存主義—キェルケゴール
備考	

科目名	人文科学特殊講義A（哲学思想史）11	担当者名	安本行雄
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>ホモ・サピエンス、或は「考える葦」と云われる人間は、本来思索すべく運命づけられているとよい。生きるに当って我々は誰しも自己自身の存在について、さらには人間や宇宙（世界）について考えざるを得ないのであるが、その際、独善に陥ることを戒めながら思索を深めるための道しるべとなるのが古来からの哲学思想である。我々は先哲の思索の跡を辿りつつ先哲と共に考えることによって、自己なりの世界観・人生観を構築する糧としたものである。</p>		
講義概要	<p>一般に人間の様々な思想の歴史は、それを捉える重点のおきどころの相違によって、例えば哲学思想史、倫理思想史、社会思想史、或は日本思想史、東洋思想史などと区別されている。哲学思想史としての本講では、哲学の発祥ならびにその継承展開という歴史的事実に基づいて、西洋古代から近世にいたるまで、絶えず反復された哲学の諸問題—本質的には外界（宇宙）と人間との相互の關係に帰着すると思われるのだが—を連関的に捉えながら、今日の我々の問題としても考察してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	年度末の定期試験で評価する。		
受講者に対する要望など	1・2年生を対象とする		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学という学問の特異性
2	哲学と哲学史、哲学史の意義
3	[I] 自然の哲学—自然（宇宙）を支配するロゴスの研究—ギリシャにおける哲学の発祥
4	（1）宇宙の原質—ミレトス学派（タレス他）
5	（2）宇宙の構成—ピタゴラス
6	（3）存在と生成—エレア学派（パルメニデス、ゼノン他）
7	（3）存在と生成—ヘラクレイトス、原子論（デモクリトス他）
8	[II] 人間の哲学—ギリシャ思想の転換 （1）ソフィスト—主観主義
9	（2）ソクラテス—問答法（ディアレクティケー）、知行合一
10	[III] 自然と人間 （1）プラトン—イデア論
11	（1）プラトン—二世界説・魂とエロス
12	（1）プラトン—イデア論と理想主義
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	（2）アリストテレス—形而上学—実体論
2	（2）アリストテレス—実践哲学
3	[IV] ヘレニズムの時代と哲学—キニーク学派・エピクロス学派・ストア学派の実践哲学
4	[V] キリスト教と中世の哲学—ギリシャ思想とキリスト教思想—理性と信仰—教父哲学とスコラ哲学
5	[VI] 近世哲学—自然に対する人間の根源的主体性の確立 （1）ルネッサンスの哲学—近代思想の芽生え
6	（2）啓蒙主義の哲学—経験論（フランシス・ベーコン他）
7	（2）啓蒙主義の哲学—合理論（デカルト）
8	（3）ドイツ観念論の哲学—意識と存在の問題
9	（3）ドイツ観念論の哲学—カント—認識論
10	（3）ドイツ観念論の哲学—カント—道徳論及び宗教論
11	（3）ドイツ観念論の哲学—ヘーゲル—その基本思想
12	（3）ドイツ観念論の哲学—ヘーゲル—弁証法的思惟
備考	

科目名	政治学 政治学 (旧)	担当者名	志摩 園子
-----	----------------	------	-------

講義の目標	現代政治を理解する上で必要と思われる政治学の一般的知識を身につけることを目指す。	
講義概要	政治学の近年の発展はめざましく、それが包括する範囲が拡大していく一方で、それぞれの専門化が著しい。他方、人々の政治への無関心の声が聞かれる。政治学の基本的概念、理論等を説明していくとともに、実際の政治も考察の対象とする。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	必要に応じて、紹介する。
評価方法	前期・後期にレポートをそれぞれ課す。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治学をはじめるにあたって
2	政治と統治
3	権力と権威
4	国家と政府
5	国家と政府
6	国家と政府
7	国家観
8	国家観
9	政治参加
10	政治参加
11	政治体制
12	政治体制
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自由主義
2	自由主義
3	社会主義
4	社会主義
5	帝国主義・ナショナリズム
6	民主主義
7	民主主義
8	政治制度
9	政治制度
10	政治機構
11	政治機構
12	余備
備考	

科目名	経済学 経済学(旧)	担当者名	安藤 登
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>いろいろのメディアを通じて時々刻々、内外経済のトピックが報道され、議論されている。しかも、円レート、株価のほか、石油、金融など国際商品価格や利子率も、定時のニュースとして茶の間に届けられている。経済の動きは、政治や社会の物質的基礎を形成し、その活動は不断に続いており、われわれの生活に大きく影響している。</p> <p>「経済学入門」にあたる本講義では、経済現象の観察と情報収集に努めるとともに、分析と理解のために先人たちの理論を学ぶことから始める。究極的には各人の経済理解力と分析力を養うことを目標とする。</p>		
講義概要	<p>経済および経済問題の基礎に横たわる「稀少性」の概念から始める。時代背景と経済学・経済体制・政策の必要性と政策目標、さらに市場経済と需要・供給の法則を学ぶことにする。</p> <p>つぎに国民経済全体、すなわちマクロの経済については、相対的に多くの時間を割り当て、GDPを中心とする国民所得勘定と国民経済計算の概要、つまり、国民経済を種々の角度から把握する枠組に関する知識も身につけてもらう。そして経済活動水準の決定や財政金融政策について論ずる。石油危機を境として経済の成長や各種の動向が大きく変ってきた状況と経済学の基本的考え方の変化、論争についても講義するつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	幸村千佳良『経済学事始』第3版 多賀出版	
	参考文献	必要に応じて板書する。	
評価方法	前・後期の定試による成績ならびに学習態度(出欠席を含む)によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済と経済学の課題—レファレンスを兼ねて
2	生産可能性曲線
3	需要の法則
4	同上
5	供給の法則
6	市場機構
7	国民経済計算
8	同上
9	消費関数
10	国民所得決定理論
11	同上
12	財政政策と乗数
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	金融政策
2	同上
3	景気循環
4	投資理論
5	景気安定化政策
6	ケインジアン対マネタリスト論争
7	総供給曲線と総需要曲線
8	同上
9	バブルとその崩壊
10	同上
11	国際貿易
12	国際通貨体制
備考	

科目名	経済学 経済学(旧)	担当者名	岡田 博
-----	---------------	------	------

講義の目標	経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。		
講義概要	経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。		
使用教材	テキスト	未定、最初の講義のときに指示する。	
	参考文献	川口他：『経済学入門』有斐閣、他。	
評価方法	学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。		
受講者に対する要望など	授業に欠席しないこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合資本主義体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	日本国憲法 法学（旧）	担当者名	内藤光博
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>法律を専門としない学生が、基本的人権の保障を中核とする「日本国憲法」の価値原理と、それを確保するための国家の統括原理（三権分立）について一応の概観を得ることができるよう、身近な政治・社会問題を素材にして、具体的でコンパクトな説明を提供すること。</p> <p>とくに、基本的人権の考え方を、その歴史的意義と今日的な重要性の両面より検討することにより、自分のものとして深く理解していただけるような講義内容としたい。</p>		
講義概要	<p>憲法は、われわれの生活を規定している様々な法（法律）の頂点に立ち、国家と社会のあるべき姿を方向づけている基本法です。それは「個人の尊厳」を中核的な価値におく基本的人権の保障と、それを確保するための国家の仕組み（権力の分立）を規定した「人権宣言」にはかなりません。</p> <p>この講義では、法律を専門としない学生の皆さんが、こうした基本的人権の保障を中核とする「日本国憲法」の価値原理と制度についての概観を得ることができるよう、現在わが国で議論されている身近な政治・社会問題を素材として、コンパクトな説明を提供したいと思えます。</p> <p>本年度予定している講義の内容は、(1)総論：日本国憲法の構造、(2)国民主権と選挙、(3)憲法の平和思想、(4)女性の人権、(5)外国人の人権、(6)教育の自由と国家の役割、(7)情報化社会と人権、(8)環境破壊と人権、(9)生命と人権、(10)裁判と人権、です。</p>		
使用教材	テキスト	教科書は使用しません。講義の際に詳細なレジュメを配布します。ただし、六法を購入し、授業の際には必ず携帯して下さい。	
	参考文献	講義の際に適宜紹介します。またレジュメの末尾に参考文献を挙げます。	
評価方法	定期試験（1996年1月実施）の結果により行います。試験は、年間を通して行われた講義内容につき、論述式で行います。		
受講者に対する要望など	<p>毎回講義に出席することを強く要望します。</p> <p>授業中の飲食、私語は厳禁とします。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、1年間の講義ガイダンスとして、講義内容の説明と、基本文献の紹介を行う。
2	第2回目の授業では、本講座が法学部以外の学生を対象としていることを考慮し、六法書の読み方や法体系の仕組みなどについての初歩的な説明を行う。
3	第3回目の授業では、(1)総論：その1というテーマで、日本国憲法の全体的な構造と特質について説明を行う。
4	第4回目の授業では、(1)総論：その2として、近代憲法の歴史を概観したのち、日本国憲法の歴史的意義について説明を行う。
5	第5回目の授業では、(2)国民主権と選挙というテーマで、国民主権の原理と選挙制度の問題点について説明を行う。
6	第6回目の授業では、(3)憲法の平和思想というテーマで、憲法第9条の非戦・非武装の思想と、平和的生存権について説明する。
7	第7回目の授業では、前回に引き続き、平和主義とのかかわりで問題となっているPKOおよびわが国の「国際貢献」の問題について考えてみたい。
8	第8回目の授業では、(4)女性の人権というテーマで、男女平等の原理について総論的な説明を行う。
9	第9回目の授業では、前回に引き続き、女性の人権とのかかわりで、女性の労働環境にかかわる問題（例えば、女性の雇用やセクシャルハラスメントなど）を考える
10	第10回目の授業では、(5)外国人の人権というテーマで、近年急増した外国人労働者が日本国憲法の下でいかなる人権を有するか、という問題を考える。
11	第11回目の授業では、前回に引き続き、とくに在日韓国朝鮮人などの「定住外国人」の人権について考えてみたい。
12	第12回目の授業では、前期の講義のまとめを行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、(6)教育の自由と国家の役割というテーマで、わが国における学校教育をめぐる問題（校則、体罰など）を考えてみたい。
2	第2回目の授業では、前回の教育と国家とのかかわりで、教科書検定問題について考える。
3	第3回目の授業では、(7)情報化社会と人権のテーマで、表現の自由の意義と情報化社会の進展にともなう諸問題について考えてみたい。
4	第4回目の授業では、前回に引き続き、マス・コミによる人権侵害問題（プライバシーの侵害など）の問題を考えてみる。
5	第5回目の授業では、前回、前々回に引き続き、コンピュータ社会の到来にともなう個人情報の保護の問題をプライバシーの権利の視点から考察する。
6	第6回目の授業では、(8)環境破壊と人権のテーマのもと、現在世界的規模ですすんでいる環境破壊の問題について、憲法的にどのように考えるべきかについて説明する。
7	第7回目の授業では、(9)生命と人権のテーマのもとで、死刑制度の合憲性について考えてみたい。
8	第8回目の授業では、前回に引き続いて、脳死および臓器移植の問題について考えてみたい。
9	第9回目の授業では、前回、前々回に引き続いて、安楽死・尊厳死の問題について考えてみたい。
10	第10回目の授業では、(10)裁判と人権のテーマで、人権保障の機関としての裁判所の機能と役割について説明する。
11	第11回目の授業では、前回に引き続き「憲法の番人」としての裁判所が有する違憲立法審査権について考えてみる。
12	第12回目の授業では、年間の講義のまとめとして、「憲法の目的とは何か」について考えてみる。
備考	

科目名	社会学 社会学(旧)	担当者名	有吉広介
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、近代に起こり、現在も進行している産業化、これに引き続いて起こりつゝある脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、それらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで社会問題をどのように生みだしているのかを講義の論旨にして、前記の諸現象の源をも説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	随時紹介。	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係論 時事問題研究（旧自）	担当者名	阿部純一
-----	---------------------	------	------

講義の目標	現代国際関係の動態を、前期は歴史的な流れに沿って包括的に論じ、基礎的知識の涵養に努める。後期は現代における「戦争と平和」に焦点を当て、安全保障という国際関係の基本命題に取り組むことによって現代国際社会の問題点を明らかにする。		
講義概要	米ソ冷戦が終結してからすでに五年が経過した。しかし、冷戦構造にかわる世界秩序はいまだ模索段階である。北朝鮮の核開発問題にせよ、東南アジアを中心とした安保対話の場である ASEAN 地域フォーラムの発足にせよ、冷戦終結への対応に端を発した事態の展開であることを考えたとき、現実の国際関係を理解するうえで歴史から学べることは多い。本講義では、こうした観点から「歴史」と「現在」の関わり合いに配慮しつつ、国際関係の現実に迫りたい。		
使用教材	テキスト	高坂正堯著『現代の国際政治』講談社学術文庫	
	参考文献	必要に応じてアドバイスする。	
評価方法	前期：レポート 後期：論述筆記試験		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際関係論とは何か：研究対象とそのアプローチ
2	学問としての国際関係論の成立と発展
3	現代国際関係の史的展開（Ⅰ）冷戦の開始
4	現代国際関係の史的展開（Ⅱ）1950年代
5	現代国際関係の史的展開（Ⅲ）1960年代
6	現代国際関係の史的展開（Ⅳ）1970年代
7	現代国際関係の史的展開（Ⅴ）1980年代
8	現代国際関係の史的展開（Ⅵ）冷戦の終結と現代
9	現代国際関係の構造変化（Ⅰ）戦後国際経済秩序の成立～南北問題
10	現代国際関係の構造変化（Ⅱ）相互依存の世界～地域経済統合と摩擦
11	国際関係論の思想と理論（Ⅰ）システム論
12	国際関係論の思想と理論（Ⅱ）政策決定論
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際関係の中心課題としての戦争と平和：核兵器出現のインパクト
2	核戦略の発展——「抑止」概念の発展と「相互確証破壊」(MAD)の世界
3	核軍備管理の進展（Ⅰ）核軍備管理・軍縮 部分核禁条約～核拡散防止条約
4	核軍備管理の進展（Ⅱ）SALT-I～II
5	核軍備管理の進展（Ⅲ）START-I～II
6	核軍備管理の進展（Ⅳ）NPT 延長問題、CTBT、MTCR ほか
7	現代の紛争（Ⅰ）ポスト冷戦の国際紛争
8	現代の紛争（Ⅱ）PKO 活動の現実
9	冷戦後の安全保障（Ⅰ）世界秩序と安全保障の枠組み：ASEAN 地域フォーラム
10	冷戦後の安全保障（Ⅱ）国際機関による安全保障
11	まとめ：現代国際関係の課題
12	予備日
備考	

科目名	文化人類学 人類学(旧)	担当者名	井上兼行
-----	-----------------	------	------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。事例を通しつつ、そのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学は西欧社会に形成された。そこでその形成の歴史を通して未開社会の文化に対する態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べ、後半は、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を講じてゆく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	試験を考えているが、登録人数によってはレポート等もありうる。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまで暫定的なものである(もっとも順序はこの通りであるが)ことを念頭においてほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——体どんな学問か
2	形成の歴史—(1) スペイン人のインディオ観(1)
3	" (2) " (2)
4	" (3) 16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5	" (4) 18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6	19C後半 文化人類学の誕生
7	文化人類学の研究対象である“文化”の概念(1)
8	" (2)
9	初期の理論となった“進化”の概念
10	“進化”理論による分析例
11	19C末～20C初 現代の文化人類学へ
12	研究方法としての“実地調査”
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後半は事例研究の講ずる。そのテーマは未定である。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（商法概論）1 商法概論（旧自）	担当者名	明田川 昌 幸
-----	------------------------------	------	---------

講義の目標	株式会社に対する法規制を理解する。		
講義概要	株式会社に対する法規制を、判例や学説をまじえながら解説する。		
使用教材	テキスト	・落合誠一・近藤光男・神田秀樹著『商法Ⅱ―会社（第2版）』有斐閣Sシリーズ	
	参考文献	・鴻常夫・竹内昭夫・江頭憲治郎編『別冊ジュリスト no.116 会社判例百選（第5版）』有斐閣	
評価方法	前期及び後期に筆記試験を行い、その結果により評価する。		
受講者に対する要望など	六法持参（コンパクト六法、ポケット六法等の小型六法でよい）。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	会社の経済的機能と法的規整
2	会社の概念
3	株式会社の特色
4	株式会社の設立
5	発起人
6	株式会社の実体形成
7	設立の無効
8	株式
9	出資単位規制
10	株式の流通
11	株主名簿
12	予備またはまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	所有と経営の分離
2	株式会社の運営機構
3	株主総会
4	総会決議の ^{かし} 瑕疵
5	取締役と取締役会
6	取締役と会社との間の利害関係の調節
7	取締役の責任と経営判断の法則
8	対外的業務執行と取引の相手方保護
9	監査役による監査
10	決算の手続
11	計算書類の内容
12	予備またはまとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（東アジア国際関係分析）2 時事問題研究特殊講義A-1（旧自）	担当者名	阿部純一
-----	---	------	------

講義の目標	現代東アジアの国際関係を扱う。世界で最もダイナミックな経済成長を示す東アジア地域はまた、政治的にもその重要性を増している。東アジア国際関係の主要アクターについてのケース・スタディを中心に、歴史的展開を踏まえた分析を行い、この地域の直面する問題点を明らかにし、将来を展望する。	
講義概要	ポスト鄧小平の時代を間近に控えた中国、金日成亡き後の北朝鮮、「民主化」の名目による事実上の「独立」めざす台湾、経済力を背景に政治的発言力を強めるASEANなど、東アジアの動向に世界の注目が集まっている。本講義では、こうした東アジアの主要アクターを個別に取り上げながらも、地域全般にかかわる国際関係の文脈に留意しつつ、その動態を分析していく。	
使用教材	テキスト	とくに指定しない。
	参考文献	必要に応じてアドバイスする。
評価方法	前、後期とも論述筆記試験。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	東アジアの国際関係——イントロダクション
2	現代東アジア国際関係の形成(1)アジアにおける冷戦の開始と共産中国の成立
3	現代東アジア国際関係の形成(2)朝鮮戦争のインパクト：米中対立、日本再軍備
4	現代東アジア国際関係の形成(3)ベトナム戦争と米中接近、米ソ・デタント
5	ケース・スタディ(1)北朝鮮・金日成体制の成立と発展
6	ケース・スタディ(2)北朝鮮の核開発と対外インパクト
7	ケース・スタディ(3)金正日体制の前途
8	ケース・スタディ(4)韓国政治の発展——李承晩から朴正熙まで
9	ケース・スタディ(5)韓国政治の発展——強権政治から民主化への軌跡
10	ケース・スタディ(6)毛沢東の中国——建国、大躍進から文化大革命へ
11	ケース・スタディ(7)鄧小平の中国——改革・開放政策の展開
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ケース・スタディ(8)鄧小平の中国——天安門事件前後の状況
2	ケース・スタディ(9)ポスト鄧小平の中国——江沢民体制の行方
3	ケース・スタディ(10)民主化を目指す台湾——蔣介石・蔣経国時代
4	ケース・スタディ(11)民主化を目指す台湾——李登輝時代
5	ケース・スタディ(12)民主化を目指す台湾——台湾化・独立と中台関係
6	ケース・スタディ(13)アジア太平洋の時代——ASEANの形成と発展
7	ケース・スタディ(14)アジア太平洋の時代——拡大めざすASEANの現況
8	ケース・スタディ(15)アジア太平洋の時代——APECの形成と発展
9	ケース・スタディ(16)アジア太平洋の時代——APECの可能性と問題点
10	東アジアの現状(1)安全保障からの観点：北東アジアの状況
11	東アジアの現状(2)安全保障からの観点：ASEAN地域フォーラムの可能性
12	予備日
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（教育法）3 教育法（旧自）	担当者名	市川 須美子
-----	----------------------------	------	--------

講義の目標	<p>教育法学の基礎的概念の理解の上に、現代的問題である1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に、教育法の体系的理解を目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。</p> <p>後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を、体罰、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟に分類して、論点と課題を提出する。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神田修編『教育法と教育行政の理論』三省堂、1993年 ・ 兼子仁『入門教育法』エイデル研究所 	
評価方法	<p>前期はレポート。</p> <p>後期は試験</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法とは何か？（教育法の機能的三種別）
2	戦後教育法制の基本的特徴
3	教育法における一般人権と教育人権
4	教師の教育権（法的性質と教育裁判におけるその形成）
5	教師の教育権（勤評・学テ裁判）
6	教師の教育権（学習指導要領の法的性質）
7	親の教育権（法的性質）
8	親の教育権（親の宗教教育権と公教育）
9	子どもの学習権と一般人権保障
10	障害児の学習権
11	国家の教育権と国民の教育の自由
12	子どもの権利条約と教育法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	子どもの人権裁判概説
2	学校事故裁判と体罰・いじめ裁判
3	体罰裁判（水戸五中事件）
4	体罰裁判（風の子学園事件）
5	いじめ裁判（いわきいじめ自殺事件）
6	いじめ裁判（中野富士見中事件）
7	校則裁判（丸刈り訴訟）
8	校則裁判（バイク三ない校則裁判）
9	校則裁判（パーマ退学事件・喫煙退学事件）
10	学校教育措置訴訟（原級留置訴訟）
11	学校教育措置訴訟（エホバの証人退学事件）
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（近代市民社会像の形成と批判）4 社会思想史（旧）	担当者名	市川 達人
-----	---------------------------------------	------	-------

講義の目標	私たちの政治や経済に対する見方・考え方を支配している近代的社会観の生成を、その誕生の地にまでさかのぼって理解することを目的とする。		
講義概要	ルネッサンスを起点として19Cあたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代と社会を代表する人物の思想を振り下げての講義となる。現在、リベラリズムが一つのスポットをあびているが、その形成と限界というのが隠れたテーマとなる。		
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社	
	参考文献	講義で適宜指示	
評価方法	後期の一括試験で評価を与える。場合によっては前期末にレポートの提出を要求する。		
受講者に対する要望など	私語厳禁		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題、講師の問題意識。
2	思想史の方法。社会とは？社会思想の諸類型。
3	近代市民社会について（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市。
5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史。
6	マキャヴェリと『君主論』。
7	ユートピア思想とは？
8	トマス・モアの『ユートピア』。
9	中世の教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
10	ルターの改革運動。神学と政治思想。
11	ルターの職業倫理。カルヴィニズムの二重予定説。
12	カルヴィニズムと近代合理主義。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパにおける自然思想の歴史（古代ギリシャから中世、そして近代へ）
2	ホッブズの人間観と自然権思想。
3	ホッブズの国家論。
4	ロックの市民政府論。
5	ロックの所有権理論とリベラリズムへの道。
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
9	マダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論。
10	社会主義思想の諸潮流。
11	マルクスの社会主義と現代への影響。
12	まとめ。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（文化人類学特殊講義）5 文化人類学（旧自）	担当者名	井上兼行
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	われわれとはひじょうに異なった文化をもつ未開民族が、どのように事物や世界を認識しているか、いくつかの彼らの行動を通して考えようとする。	
講義概要	外界のさまざまなものについての認識は、神話のような形式で言語化されているものもあるが、むしろ人間の行動から考えていかなければならない面が圧倒的に多い。彼らの何ということはない生活行動、信仰、儀礼といった特別な行動からそれを考えていかなければならないことが多いのである。ここでは、神話や昔話に示される世界と人間との関係、生活行動から考えられる空間認識、事物の分類的认识など、具体的な事実に基づいて話を予定である。年間講義予定については第一回目の講義においてその大枠を述べる。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	登録人数によって考える。	
受講者に対する要など	平成6年度以降入学の者は“文化人類学”の単位を取っていることが望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（広告論）6 マスコミュニケーション論特殊講義A（旧自）	担当者名	梶山 皓
-----	--	------	------

講義の目標	<p>広告とは何か、広告の社会的機能、マスメディアと広告、企業経営における広告の役割などについて、マーケティングやコミュニケーションの視点から解説します。また日本とアメリカの広告事例を取り上げ、日米の広告観や広告表現の違いについて考えます。</p>				
講義概要	<p>広告は「広告主」「広告会社」「広告メディア」の3つの機関から成り立っています。講義では、企業や団体が広告をなぜ行か、どのように広告を計画し実施するか、そしてメディアをどのように活用するかについて説明します。広告は、これに接する人の行動に影響を与えます。このため、消費者や事業所など、広告の受け手の認知過程や購買行動についても検討を加えます。広告は社会的に大きな影響を与えるために、広告倫理や法的な面からも取り上げます。広告と社会風俗や価値観の関連なども考えます。なお世界の広告費の半分はアメリカで支出されています。アメリカと日本のCMをVTRで紹介しながら、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探りたいと思います。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・梶山皓著『広告入門（新版）』日経文庫</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所 ・千場英男『アメリカの広告・風と土』電通 ・八巻俊雄編『広告用語辞典』、東洋経済新報社 ・P. コトラー『マーケティング原理』（村田昭治訳）ダイヤモンド社 ・S. W. Dunn: Advertising, Dryden Press. 1994. ・E. Jerome McCarthy: Basic Marketing, Irwin. 1987. ・Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms. </td> </tr> </table>	テキスト	・梶山皓著『広告入門（新版）』日経文庫	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所 ・千場英男『アメリカの広告・風と土』電通 ・八巻俊雄編『広告用語辞典』、東洋経済新報社 ・P. コトラー『マーケティング原理』（村田昭治訳）ダイヤモンド社 ・S. W. Dunn: Advertising, Dryden Press. 1994. ・E. Jerome McCarthy: Basic Marketing, Irwin. 1987. ・Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms.
テキスト	・梶山皓著『広告入門（新版）』日経文庫				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所 ・千場英男『アメリカの広告・風と土』電通 ・八巻俊雄編『広告用語辞典』、東洋経済新報社 ・P. コトラー『マーケティング原理』（村田昭治訳）ダイヤモンド社 ・S. W. Dunn: Advertising, Dryden Press. 1994. ・E. Jerome McCarthy: Basic Marketing, Irwin. 1987. ・Barron's: Dictionary of Advertising and Direct Mail Terms. 				
評価方法	<p>通例、前期・後期に試験をします。他に数回の出席をとります。問題は講義内容とテキストから出し、2～3題の論述形式です。教科書やノート類の持込みはありません。</p>				
受講者に対する要望など	<p>とくになし。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の未来が見えてくる。また物事をポジティブに考える習慣が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Defined) ① : 日本語の広告には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。英語ではそれを分けて使っている。
3	広告の定義 (Ad. Defined) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPなどと広告とは別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のような商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一国で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATVなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるかなどを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（日本経済論）7 日本経済論（旧自）	担当者名	木村健二
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	戦前・戦後の日本経済の構造的特徴をおさえ、そのもとでの対外経済関係や国民生活の変遷、そして移動する人々の特徴をあとづける。		
講義概要	<p>前期では、現代日本経済の原型が成立する第一次世界大戦以降、敗戦までをとりあげ、日本経済の重化学工業化や戦争経済の進行の中で、植民地やアジア諸国との経済関係（貿易、資本輸出、人の移動）がどのように切り結ばれ、またその間に都市と農村との生活格差がどのように生じたかを検討する。</p> <p>後期では、戦後復興から高度成長、オイルショック、円高、バブル景気とその崩壊とたどる過程で、同様に対外経済関係や国民生活がどのように変遷していったかを検討する。</p>		
使用教材	テキスト	とくに定めない。講義の中で指示する。参考資料を配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・森武磨ほか著『現代日本経済史』有斐閣、1993年 ・竹内宏『昭和経済史』筑摩書房、1988年 	
評価方法	出席と簡単な小テスト。前後期の試験の結果を総合して判定する。		
受講者に対する要望など	熱心な学生の受講を期待する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明。第一次世界大戦と日本経済。
2	1920年代の産業構造の変遷。
3	対外貿易、植民地との経済関係。
4	移動する人々。農村から都市へ、農村からブラジルへ、植民地から日本内地へ。
5	国民生活の変遷と国際化。
6	昭和恐慌と日本経済の重化学工業化。
7	農村経済更生運動と満州移民。
8	労働者の構成と中小企業。
9	戦時経済の進行。
10	大東亜共栄圏の経済連関。
11	国民の耐乏生活と朝鮮人強制連行。
12	前期のまとめと試験対策。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	戦後改革と戦後復興。
2	朝鮮特需と対外経済関係。
3	地域経済の復興計画と国民生活。
4	高度経済成長下の産業・貿易・技術構造。
5	企業集団と中小企業。
6	合理化と日本的労使関係。
7	国民生活の変貌と公害。
8	人の移動と過疎・過密問題の発生。
9	オイルショック以降の産業構造と対外経済関係。
10	円高以降の産業構造と対外経済関係、外国人労働者問題。
11	バブル経済とその崩壊、国民生活の国際化。
12	後期のまとめと試験対策。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (マスコミュニケーション論) 8 マスコミュニケーション論 (旧自)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、これらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになる事を目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションの効果およびモデルについて解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、こして後期は、マス・コミュニケーションの影響研究を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「テレビ暴力の視聴者への影響」について時間をかける予定。		
使用教材	テキスト	毎回プリントを配布する予定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎篤郎他編著 1992 『マス・コミュニケーション効果研究の展開』 北樹出版 ・H. J.アイゼンク他著 1982 岩脇三良訳 『性 暴力 メディア』 新曜社 ・山根常男他編 1977 『テキストブック社会学(6)―マスコミュニケーション―』 有斐閣ブックス 	
評価方法	定期試験、レポート又は発表、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など	<p>具体的なマス・コミュニケーション状況を分析する力を養うために、授業ではグループ発表やディスカッションも行い、学生諸君の授業参加を重視する。</p> <p>英語学科学生へ この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マス・コミュニケーションとは
2	コミュニケーションについての基礎知識① ープロセスの概念についてー
3	コミュニケーションについての基礎知識② ー意味はどこに存在するか？ー
4	コミュニケーションについての基礎知識③ ーメディア接触についてー
5	マス・コミュニケーションのモデルについて① ーモデルの長所と短所ー
6	マス・コミュニケーションのモデルについて② ーマス・コミュニケーションの要因ー
7	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
8	マスコミ効果の概念について① ー効果とはー
9	マスコミ効果の概念について② ー順機能と逆機能ー (レポート提出締切り)
10	マス・コミュニケーションと教育①
11	マス・コミュニケーションと教育②
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マスコミの影響研究について① ー弾丸パラダイムー
2	マスコミの影響研究について② ー限定効果パラダイムから適度効果パラダイムへー
3	マスコミの影響研究について③ ー強力効果パラダイムー
4	テレビ暴力研究について① ーカタルシス理論ー
5	テレビ暴力研究について② ー観察学習理論ー
6	テレビ暴力研究について③ ー脱感作理論ー
7	テレビ暴力研究について④ ー教化理論ー
8	4理論のまとめ ー番組のタイプとの関係ー
9	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表)
10	グループ発表①
11	グループ発表② (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (社会思想史) 9 社会思想史 (旧)	担当者名	谷口郁夫
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	論争的な取り上げ方を試みる。すなわち、単に歴史をなぞるのではなく、今日的な問題として取り上げることを通じて、歴史観の構築を目指す。	
講義概要	前後期でそれぞれ異なったテーマを取り上げる。前期は西欧における宗教寛容の歴史を、ルネッサンス・宗教改革以後のイギリス、フランス、ドイツを中心に考察することを通じて、人間の自由について考える。後期は日本における西洋近代思想の受容の過程を取り上げる。急速な近代化政策のもとで、近代科学のみならず、西欧の近代思想も性急に明治の知識階級の人々は取り込もうとして来た。それが行われてきた過程、弊害を見ることを通じて、日本人としての自己同一性の問題をも考える。	
使用教材	テキスト	特に用いない
	参考文献	講義の中で指示する
評価方法	前後期にそれぞれ試験を行う。試験内容については、講義の中で指示する。	
受講者に対する要望など	批判的な態度で臨むこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中世カトリック教会と民衆の生活
2	ルネッサンス
3	ドイツにおける宗教改革とその歴史的背景
4	イギリスにおける宗教改革とその歴史的背景
5	トマス・モアとエラスムス
6	名誉革命とジョン・ロックの宗教寛容論
7	モーテューニュとパスカル
8	ピエール・ペールとルソー
9	レッシングとカント
10	ダーウィンとニーチェ
11	マルクス主義
12	宗教と民族闘争 (パレスティナ、旧ユーゴ、トルコなどの状況)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	明治維新以前における日本と西洋とのかかわり
2	六合雑誌
3	近代科学の受容 特に、東洋学芸雑誌について
4	加藤弘之の人為淘汰論をめぐって キリスト教と国体論との関係について
5	キリスト教と進化論論争 (1)
6	キリスト教と進化論論争 (2)
7	ニーチェとトルストイ
8	イブセンと女性の権利
9	ベルグソン・コント・ジェイムズ
10	マルクス主義
11	予備
12	予備
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（経営学概論）10 経営学（旧自）	担当者名	富田忠義
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は「現代経営学入門」である。</p>		
講義概要	<p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の分野での最新の研究成果の紹介を通して行う。経営学の研究対象が経営であることをまず明らかにして、経営機能を下位機能に区分して概説する。次に企業に注目し、それが時代とともに性格を変えながら、現代企業へと発展してきたことを明らかにする。主体論として、企業の側からは企業家精神とその革新活動を、経営の側からは最高経営の機能と機関について論じる。企業活動の特質として戦略性に注目して、経営環境と経営戦略を取り上げて分析的に検討する。他方では、現代的企業は理念を掲げて行動しているので、経営理念と社会的責任の問題を取り上げ、これらと関連させて日本的経営と経営文化についても論じる。その他、経営組織と組織行動、人材の育成と活用、マーケティング、国際財務と資本調達などについても概説する。</p>		
使用教材	テキスト	工藤達男他編著『現代経営学』白桃書房	
	参考文献	山城章編著『増補改訂・経営学小辞典』中央経済社	
評価方法	後期末定期試験の結果により成績を評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義計画の説明。シラバスを参照しながら、経営学とはどのような学問であるかについて概説する。
2	経営学の研究対象と研究方法。経営学は経営体と経営機能について研究すること、研究方法として科学的方法と実践学的方法があることなどを概説する。
3	経営機能の下位機能としての4つの機能 I. 経営機能を、外向き、前向き、横向き、内向きという4つの下位機能に区分して説明する。
4	経営機能の下位機能 II. 外向き機能は環境適応、前向き機能は創造的破壊としての革新、横向き機能は対境関係の処理に関することなどを概説する。
5	企業体制と現代経営体 I. 支配の見地から企業の形態を吟味するとともに、企業の今日までの発展を企業の性格変化の側面から論じる。
6	企業体制と現代経営体 II. 生業・家業、近代企業、現代経営体の特質について、理念と目的、運営の論理、編成原理などについて概説する。
7	イノベーションと企業家精神 I. ドラッカーの著作の紹介を通して、テーマの解析を行う。企業におけるイノベーションの意味について考える。
8	イノベーションと企業家精神 II. イノベーションの種類と過程について概説する。個人レベルでの決定過程、組織における採用過程について論じる。
9	トップ・マネジメントの機能と機関 I. 株式会社の最高経営と全般管理の機能と機関について概説する。まず株主総会と取締役会から取り上げる。
10	トップ・マネジメントの機能と機関 II. 欧米企業のCEO（最高経営責任者）、わが国企業の社長、常務会などのトップ機関の役割について論じる。
11	経営環境。企業の経営環境について論議する際に役立つ概念として、環境の定義、一般環境とその下位環境、タスク環境、機会と脅威などについて概説する。
12	経営戦略 I. 現代企業における経営戦略の意義、戦略の種類、一般的な策定過程などの基礎的事項について概説する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	経営戦略 II. 競争戦略、成長戦略、多角化戦略、ポートフォリオ・マネジメント、リストラ戦略、国際化戦略について論じる。
2	経営理念と社会的責任 I. 社会性責任、公益性責任、公共性責任に区別して、経営社会責任について吟味する。社会的責任肯定論と否定論についても言及する。
3	経営理念と社会的責任 II. 経営理念の意義、欧米企業の経営理念、わが国企業の経営理念などの吟味を通して、現代企業の経営理念を明らかにする。
4	日本的経営と経営文化 I. 文化、仕事文化、経営文化、企業文化、日本的経営文化としての日本的経営論などについて論じる。
5	日本的経営と経営文化 II. 企業文化の分析的研究の成果を取り上げて紹介した後で、経営戦略の課題としての企業文化の変革について考察する。
6	経営組織と組織行動 I. 公式組織と非公式組織、公式組織の構成要素としての責任と権限、職務、組織編成の原則、基本的な組織形態などについて概説する。
7	経営組織と組織行動 II. 行動科学の研究成果に基づいて、組織における人間行動と、モチベーション現象について概説する。
8	人材の育成と活用 I. 従来の人事・労務管理の分野を人材の育成と活用の見地から考察し、わが国企業の雇用管理の現状について概観する。
9	人材の育成と活用 II. 日本的経営の要素としての企業内教育の現状を概観し、わが国企業の内部では従業員はどのようにして育成されるかを明らかにする。
10	マーケティング。新製品開発戦略、価格設定戦略、広告戦略などを含むマーケティング・ミックス戦略と国際マーケティングの進め方について概説する。
11	国際財務と資本調達。資本の調達と運用を取り扱う企業財務の機能の内容と、財務の国際化といわれている問題について論じる。
12	講義のまとめと定期試験のための説明。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（歴史的に見たパレスチナ問題）11 時事問題研究特殊講義A-3（旧自）	担当者名	奈良本 英 佑
-----	---	------	---------

講義の目標	代表的な長期国際紛争であるパレスチナ問題を取りあげる。この問題の歴史的背景、当面する諸問題を分析し、中東世界の持つ性格と欧米のユダヤ人問題などについて理解を深めることを目標とする。オスロ合意と暫定自治の実施によって、問題解決は間近かになったという楽観論が通用しないこともわかればよい。	
講義概要	前期は、パレスチナ問題にかかわる基本的なターム、およびイギリスの委任統治終了までの歴史を扱おう。後期は、イスラエル建国、イスラエル・アラブ紛争、国際政治とのかかわりなどについて講義する。	
使用教材	テキスト	指定テキストなし。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・木村修三「中東和平とイスラエル」（有斐閣、1992年） ・浦野起央「パレスチナをめぐる国際政治」（南窓社、1985年） ・D. ギルモア「パレスチナ人の歴史」（北村訳、新評論、1985年） ・池田明史編「中東和平と西岸・ガザ」（アジア経済研、1990年） ・A. レオン「ユダヤ人と資本主義」（波田訳、法政大出版、1973年） ・立山良司「イスラエルとパレスチナ」（中公新書、1989年） ・Y. ハルカビー「イスラエル——運命の刻」（奈良本訳、第三書館）
評価方法	前期と後期の定期試験による。	
受講者に対する要望など	現代史、国際問題に興味を持つ諸君の受講を歓迎する。高校の世界史程度の常識を前提に講義する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	[イントロダクション] パレスチナ問題の見取図を描き、参考文献を紹介する。
2	[パレスチナ] 古代から近代に至るパレスチナの歴史を概観し、「文明の十字路」としてのパレスチナの特異性について論じる。
3	[エルサレム] 「文明の十字路」で生まれた、ユダヤ教、キリスト教、イスラームとは何か。これら3つの共通の聖都エルサレムの歴史を概観する。
4	[ユダヤ人] 信徒集団、人種、民族——コンテストによって「ユダヤ人」の意味するものは異なる。今なお論争がつかない「ユダヤ人の定義」について考える。
5	[シオニズム運動] 「ユダヤ人」と呼ばれた人々は、なぜ自分たちが一個の民族(nation)を構成し、自分たちの国を持たねばならないと考えたのか。近代の反ユダヤ主義との関連で論じる。
6	[アラブナショナリズム] 「アラブ意識」は古いが、彼らのナショナリズムは新しい。「アラブ」はなぜ政治的統一と独立を求めるに至ったかを考える。
7	[第一次大戦とイギリスの三重取引] 大戦中にイギリスが3つの当事者(フランス、シオニスト、アラブ)に対して行なった。互いに矛盾する約束は有名。イギリスの動機について考える。
8	[委任統治とシオニストの入植] 委任統治と呼ばれるイギリスのパレスチナ支配の下で、シオニストのパレスチナ移民はいかに行なわれたか。入植による人口動態、土地問題について講義する。
9	[イシューヴの形成] 入植を通じてパレスチナに形成されたユダヤ人社会=イシューヴは、どのように組織されたか。その社会組織、政治機構、軍事組織などについて。
10	[パレスチナ・アラブ社会] 同時期のパレスチナ・アラブ社会はどのような構造を持っていたのか。彼らの宗教コミュニティ、政党などについて。
11	[パレスチナ・アラブの反乱] イギリスの支配とシオニストの入植に反対するアラブの反乱(1936-39)は、いかに開始され、なぜ失敗したのか。
12	[シオニストの反乱] 親シオニスト政策を修正し入植制限に踏み切ったイギリスに対するシオニストの反乱は、なぜ成功したか。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	[冷戦とパレスチナ分割] 第二次大戦後の冷戦開始期において激しく対立した米ソは、競ってシオニストを支援し、イスラエル建国を助けた。米ソのパレスチナ政策の奇妙な一致について考える。
2	[第一次中東戦争——パレスチナ難民の発生] シオニスト=イスラエルはいかに勝利したか。未だ解決の見通しのないパレスチナ難民問題はなぜ発生したのか。
3	[第二次中東戦争] エジプトによるスエズ運河国有化を直接のきっかけとする1956年の戦争は、結果的にアラブ・ナショナリズムの昂揚をもたらした。このパン・アラビズムとパレスチナの関係などについて講義。
4	[第三次中東戦争] アラブ諸国はイスラエルに大敗し、広大な領土を占領され、アラブ・ナショナリズムは吸引力を失なう。1967年のこの戦争がなぜ起こり、中東の政治地図をどのように塗り変えたか。
5	[パレスチナ解放運動の自立] パン・アラビズムの衰退のなかから、いかにしてパレスチナ・ナショナリズムが興り、自立した解放運動がはじまったか。
6	[第四次中東戦争] エジプト主導の限定戦争として始まった1973年の10月戦争は何をもたらしたか。いわゆる「第一次石油ショック」とも関連させて論じる。
7	[政治的解決] 石油の政治的武器としての活用に成功したアラブ諸国とパレスチナ解放運動は、これを背景にどのような政策転換を計ったか。エジプトの対イスラエル講和、ミニ・パレスチナ構想などにも触れる。
8	[レバノン戦争] 建国後はじめて政権をとったイスラエルの右翼政党リクードの主導ではじめられた、1982年のこの戦争は、PLOの壊滅と大イスラエル建設を目指した。リクード政権のもくろみは成功したか。
9	[イスラエルの反戦運動] イスラエル政治の右傾化が進む一方で、これに危機感をいだく平和勢力(Peace Camp)の運動も盛んになる。レバノン戦争反対やPLOとの対話を求めるイスラエル人の運動について。
10	[占領地とインティファダ] レバノン戦争後、パレスチナ解放運動の主体は難民から占領地の住民に移る。インティファダと呼ばれる、低/非暴力の大衆闘争はいかに始まったか。
11	[オスロ合意] オスロで行なわれたイスラエル政府とPLOの秘密交渉で、1993年、約1世紀におよぶ闘争の「停戦協定」が成立。両者の妥協は何を意味するか。
12	[展望——残された問題] オスロ合意で棚あげにされた多くの問題(パレスチナ難民の帰還権、補償、エルサレムの地位、占領地の将来、入植者の扱いなど)の解決は可能か。解決のために何が必要か。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（経済理論の基礎 ——マクロ理論を中心として）12 経済原論（旧自）	担当者名	西村 允 克
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復修しながら学習しなければならない。</p>		
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なミクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をより現実に近いものに拡張し、さまざまな現実経済問題の理解に進む。</p>		
使用教材	テキスト	中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』日本評論社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版 ・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』上下 東洋経済新報社 ・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社 ・スティグラー著 『価格の理論』 有斐閣 	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 経済学を学ぶための基礎 (I) 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格
2	2 経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)
3	3 経済学を学ぶための基礎 (III) 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)
4	4 国民経済計算 (I) 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人当り国内総生産
5	5 国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター) 名目値と実質値 経済成長率
6	6 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用
7	7 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向
8	8 価格決定理論 (I) 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析
9	9 価格決定理論 (II) なぜ価格は変化するのか
10	10 国民所得決定理論 (I) 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国民所得に及ぼす効果
11	11 国民所得決定理論 (II) 貿易を含む場合の国民所得決定理論
12	12 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場操作、予金準備率) 貨幣数量説
2	14 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要
3	15 IS = LM 分析 (I) ——国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とその意味
4	16 IS = LM 分析 (II) 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか
5	17 IS = LM 分析 (III) 安定分析、現実経済への応用
6	18 景気変動 (I) キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資と従属投資
7	19 景気変動 (II) 資本稼働率 バブルと平成不況
8	20 経済成長論 (I) (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率
9	21 経済成長論 (II) なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いながら説明する。
10	22 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件
11	23 インフレーション フィリップス曲線
12	24 まとめと平成7年の日本経済の諸問題
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（国際法）13 国際法（旧自）	担当者名	廣部和也
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	国際法という国際社会の法を通して、国際社会における諸現象をみることができ、国際社会も一定の法（規律）に基づいて諸活動が成り立っていることを知ってもらうこと。		
講義概要	国際社会において、法的規律がどのように行なわれているか、国際法の形成・発展をはじめとして、その基本的事項、特に、国家の活動との関係で国際法の基本的事項を扱う。時には、実際に生じた事件を取り上げ、生きた国際法についても解説する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・寺沢一 他編著『標準 国際法（新版）』青林書院 ・石本泰雄 他編『解説 条約集（新5版）』三省堂 	
	参考文献		
評価方法	筆記試験による。日常点（例えば、出席など）も考える。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明と勉強する場合に心がけておくこと、及び、授業態度などについて述べる。
2	近代国際社会の構造と国際法の出現及び発展について述べる。(教科書、I、pp.3-23)
3	国際法がどのような形式で存在するかについて述べ、特に、国際慣習法を取り上げる。(教科書、II、pp.29-51)
4	前回到引き続き国際法の存在形式について述べ、特に条約を取り上げる。(教科書、VI、pp.337-345)
5	前回到続き、条約を取り上げる。(教科書、VI、pp.356-373)
6	国際法と国内法の関係(教科書、II、pp.58-73)
7	国家とは何か。国家はどのようにして成立するのか。(教科書、III、pp.74-92)
8	国家の権利義務について、特に、国家主権、管轄権などについて。(教科書、IV、pp.105-112)
9	前回到続き、不干渉義務について。(教科書、IV、pp.113-116)
10	国家の領域について、領土とは何か、国境とは何か、また、領域権の性質などについて。(教科書、VI、pp.201-217)
11	海洋の国際法について、領海、経済水域、大陸棚など。(教科書、VII、pp.229-253)
12	海洋の国際法の続き、公海、深海底などを中心に。(教科書、VII、pp.225-228、254-278)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	空の国際法について、航空機の地位、宇宙と人工衛星など。(教科書、VII、pp.222-224、279-283)
2	人の国際的移動と国際法の関連について。国籍、出入国、難民などの問題。(教科書、X、pp.288-298)
3	人権の国際的保護の問題。(教科書、X、pp.306-311)
4	国際犯罪について。
5	外交使節と領事。(教科書、XI、pp.317-331)
6	国際組織の構造と活動、その国際的地位について。(教科書、V、pp.129-156)
7	国際責任の問題、国際違法行為があれば、責任をとらなければならない。(教科書、XIII、pp.373-389)
8	国際環境の保護と国際法。(教科書、XIV、pp.395-420)
9	国際紛争の解決はどのようになされるか。(教科書、XV、pp.421-431)
10	国際裁判について。(教科書、XV、pp.432-450)
11	戦争と国際法について、戦争の法的性質、その違法化の問題。(教科書、XVI、pp.451-466)
12	国際連合と集団安全保障。(教科書、XVI、pp.477-510)
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（政治学原論）14 政治学原論（旧自）	担当者名	深澤民司
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義は、無限に多様な政治をヴィヴィッドに感じとり、それを批判的に理解できる能力を身につけることをめざして、政治学の基本的な概念、論理、視点、問題意識、考え方を習得することを目標にします。したがって、講義の重点は全体的ないし包括的なレベルにおかれますが、それが机上の理解に終わらないようにするためにも、つねに具体的事象との関連に配慮しつつ講義するつもりです。</p>	
講義概要	<p>以下の順で講義を進めていく予定です。第一に、政治・権力・国家といった政治学の基礎概念を解説します。第二に、現代の社会と国家が形成された歴史過程を、政治・経済・文化などの点から多角的に照射することに努めます。第三に、民主主義と自由主義という政治原理の論理と問題を話します。第四に現代の政治機構、第五に政治過程の一般的な理論を解説し、それを踏まえたうえで、第六に、現代日本の政治的特質を他の諸地域との比較を通して論じます。第七に国際政治の歴史的展開を辿りながら、現在の国際政治の動きを把握する視点を抽出するつもりです。なお、年に4回ほど、直前の講義に関連した時事問題ないし具体的な政治的事例を解説する予定ですが、それ以外にも重要な政治的問題が生じた場合は、予定を変更して論じるつもりです。</p>	
使用教材	テキスト	使用しません
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高島通敏『政治学への道案内』（三一書房） ・有賀弘他『政治——個人と統合』（東京大学出版会） ・小笠原弘親他『政治思想史』有斐閣 ・黒川貢三郎他『現代政治過程論』北樹出版 ・松本三郎『テキストブック国際政治』有斐閣ブックス <p>その他は講義のなかで紹介します。</p>
評価方法	後期定期試験のときに試験を行いません。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス：1年間の講義内容の説明、政治学の特徴について
2	I. 政治学の基礎概念－1. 政治とは何か－(1)政治の意味、(2)政治の所在
3	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(1)権力
4	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(1)権力 [続き]
5	I. 政治学の基礎概念－2. 権力と権威－(2)権威と支配
6	I. 政治学の基礎概念－3. 国家－(1)国家の意味、(2)主権
7	特別講義：I. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
8	II. 社会と国家の歴史的展開－1. 前近代－(1)前近代社会、(2)前近代国家
9	II. 社会と国家の歴史的展開－2. 近代－(1)近代社会、(2)近代精神
10	II. 社会と国家の歴史的展開－2. 近代－(2)近代精神 [続き]、(3)近代国家
11	II. 社会と国家の歴史的展開－3. 現代－(1)現代社会、(2)現代国家
12	特別講義：II. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III. 近代政治原理－1. 民主主義－(1)J. J. ルソー、(2)民主主義の論理と問題
2	III. 近代政治原理－2. 自由主義－(1)J. ロック、(2)自由主義の論理と史的展開
3	III. 近代政治原理－3. 近代政治思想の展開
4	IV. 現代政治機構－1. 政治機構の諸形態、2. 議会－(1)議会の歴史、(2)近代議会主義、(3)二院制
5	V. 現代政治過程－1. 政治過程の概念、2. 選挙－(1)選挙の機能
6	V. 現代政治過程－2. 選挙－(2)選挙制度
7	V. 現代政治過程－2. 政党－(1)政党の機能、(2)政党制の諸類型
8	特別講義：III. ～V. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
9	VI. 現代日本の政治－1. 権力構造、2. 金権政治
10	VII. 国際政治の歴史的展開－1. パワー・ポリティクスの成立と展開－(1)絶対主義時代、(2)市民革命時代、(3)帝国主義時代、(4)2つの世界大戦
11	VII. 国際政治の歴史的展開－2. 冷戦とその後－(1)冷戦体制の成立、(2)デタントと多極化、(3)新冷戦から協調へ、(4)ポスト冷戦の世界
12	特別講義：VI. ～VII. に関連した時事問題ないし具体的事例の解説
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（国際貿易と国際収支調整）15 国際経済論（旧自）	担当者名	益山光央
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。	
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。	
使用教材	テキスト	教科書 ・仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991
	参考文献	・渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 ・Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994
評価方法		
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャートリーン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（民法概論）16 民法概論（旧自）	担当者名	松 嶋 由紀子
-----	-------------------------------	------	---------

講義の目標	現代社会の基礎をなす市民生活の紛争解決基準となる民法のしくみを研究すること。	
講義概要	個人や家族関係を規律する親族法・相族法（家族法）と、財産関係を規律する物権法・債権法（財産法）の両サイドから、民法全般を概略する。新しい裁判例にも随時ふれ、必要に応じて外国法との比較も試みるつもりである。	
使用教材	テキスト	追って指定。
	参考文献	追って指定。
評価方法	年度末に筆記試験を行なう。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代社会と民法の成立・民法の意義
2	民法の法源・法の適用（法はどのように現実の生活の中で機能するか）
3	民法の基本原則とその修正・法のしくみの大要
4	総則 私権の種類・主体と客体・法律行為・代理
5	親族法（以下、実体法に入る） 1. 家族に関する法：序説（日本家族の構成と特色・家族の変化・親族法のしくみ・親族とは何か）
6	親族法 2. 婚姻法（婚姻の歴史・婚約と結納・内縁）
7	親族法 3. 夫婦の財産関係と現代的問題（民法改正の動向）
8	親族法 4. 離婚法（離婚原因・財産分与と慰籍料）
9	親族法 5. 親子法（嫡出子と非嫡出子・養子・親権と後見）
10	親族法 6. 扶養法（民法の親族扶養と社会保障・高齢者扶養の現代的問題）
11	相続法 1. 相続に関する法：序説（相続制度の意義と歴史・その社会的問題）
12	相続法 2. 相続人と相続分・相続の承認と放棄
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	相続法 3. 遺産の分割手続
2	相続法 4. 遺言
3	相続法 5. 遺留分
4	物権法 1. 財産法序説（財産権の種類と現代的特質）
5	物権法 2. 物権の通性について・登記制度・物権変動と対抗要件
6	物権法 3. 所有権・用益物権
7	物権法 4. 担保物権
8	債権 1. 債権の種類と性質
9	債権 2. 財産取引の一般法理（財産権の変動と対抗要件）
10	債権 3. 契約の一般法理
11	債権 4. 各種契約（売買契約・賃貸借契約・労務供給契約・金銭貸借契約・その他の契約）
12	債権 5. 不法行為
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (集団と文化の社会心理学) 17 社会心理学 (旧自)	担当者名	三本 茂
-----	--	------	------

講義の目標	<p>—集団と文化の社会心理学—</p> <p>人間は、集団の中に生まれ、その中で生き、行動の結果を次の世代に引き継ぐ、「集団的動物」である。</p> <p>集団の中身としての文化と人間行動のスタイルとしてのパーソナリティとの関連性を考える。</p>		
講義概要	<p>まず、人間行動の入れ物としての社会集団の形成とその特質を取り上げ、次に社会集団の中で行われる活動の結果としての文化について考える。</p> <p>次いで、特定の文化とそこに生きる人間たちのパーソナリティとの関係をパーソナリティ形成の過程を通じて考えてみる。</p> <p>例として、ネパールの高地民族 (シェルパ族) について映像を用いて彼らの「集団的パーソナリティ」について考えてみたい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度紹介する。	
評価方法	レポートの提出と期末の筆記試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	どのようにして集団は出来るのか。
2	人間集団の特質。
3	集団の機能。
4	集団と文化。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文化とは何か。
2	文化の構造
3	人間行動のスタイルとしてのパーソナリティ。
4	集団的パーソナリティ (パーソナリティの共通性)
5	事例研究：ネパール高地民族 (シェルパ) の場合
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (ジャーナリズム) 18 マスコミュニケーション論 (旧自)	担当者名	森 永 京 一
-----	---	------	---------

講義の目標	マスコミの本質・機能などについて考えるとともに、内外マスコミの当面する諸問題などについての理解を深めるのが目的。		
講義概要	講義の時点での最新のニュースや問題を積極的に採り上げていきたいと考えています。従って講義予定表には必ずしも準拠しません。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ニュースとは何か。その本質
3	マスコミの成立と変遷
4	日本のマスコミの特質と歴史
5	海外のマスコミ
6	映像メディアと印刷メディア
7	記者クラブの持つ意味 その功罪
8	報道の自由 「知る権利」
9	マスコミの責任と倫理
10	報道の客観性 「やらせ」の問題
11	マイノリティとマスコミ
12	差別の問題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新聞の制作 取材と編集
2	検閲と圧力団体
3	自主規制はどこまで許されるか
4	プライバシーはどこまで守られるべきか
5	暴力・セックス報道の限界
6	ヒーロー、ヒロイン、アイドル
7	皇室報道
8	選挙報道
9	出版、広告、映画
10	マルチメディア
11	ビジネスとしてのマスコミ
12	マスコミの直面する諸問題
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（世論調査）19 世論調査（旧自）	担当者名	森 永 京 一
-----	-------------------------------	------	---------

講義の目標	世論調査の理論や沿革、問題点についての理解を深めるとともに、実技の習熟を目指します。		
講義概要	受講学生数が多い場合は、どうしても講義中心になりがちですが、なるべく実際に自分の頭で考え、体験できるようにしたいと考えています。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	世論調査の基本的な考え方
3	沿革と問題点
4	選挙と世論調査
5	調査の進め方
6	調査の実施の方法 その種類
7	調査の実施の方法 その長所・短所
8	質問の作り方
9	質問の形式
10	調査票の作成(1)
11	調査票の作成(2)
12	調査票の作成(3)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本抽出の方法
2	乱数表
3	無作為抽出
4	等間隔サンプリング、2段サンプリング
5	層別サンプリング
6	多段サンプリング
7	調査の集計
8	調査の集計 (続)
9	調査の誤差と信頼度
10	調査の読み方
11	調査の処理
12	まとめ
備考	

科 目 名	社会科学特殊講義A (貿易実務) 20 貿易実務 (旧自)	担当者名	山 崎 静 光
-------	----------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	貿易の実務を引合の段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般的な知識を与え、貿易に従事することを志す学生には本格的な企業内研修への順備とする。	
講 義 概 要	取引の前段階として一般的な事項、例えば打切りと代理店商い、買越・売越・現物と先物等の知識を与え、以後引合、契約、受渡、支払、入金 of 段階を追ってそこに出て来る用語・取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実に戻り全体を連関を把ませ。同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まってくるようにする。更に簿記・会計、法律、経済学、歴史、言語等の隣接科学にも触れて興味を起させることを図る。	
使 用 教 材	テ キ ス ト	『貿易実務基礎講座』(物産研修センター)
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・浜谷源蔵『貿易実務』(同文館) ・東京銀行『貿易と信用状』(実業之日本社) ・山崎静光『輸出入手続ハンドブック』(中央経済社)
評 価 方 法	<p>学年試験の成績による。</p> <p>前期終りに簡単なレポートを提出させる。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	貿易取引の前段階
2	引合段階——値段を出す——インコタームズ
3	運賃——海上輸送
4	海上輸送 (つづき)
5	海上保険
6	採算の立て方
7	与信——荷為替
8	荷為替 (つづき)
9	信用状
10	信用状 (つづき)
11	D/P, D/A取引
12	カントリーリスク——貿易制限の諸形態
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オファー
2	オファー
3	契約段階——契約書
4	契約履行の管理
5	為替
6	為替 (つづき)
7	受渡段階——船積書類
8	船積書類 (つづき)
9	通関
10	輸入
11	支払段階——経済協力
12	クレーム
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (会計総論) 21 簿記会計 (旧自)	担当者名	湯田 雅夫
-----	----------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講は、初級簿記の原理と技法を取得するとともに、会社運営に役立つ経理全般を主として制度会計の面から学習する。さらに、企業の公表する財務諸表をひとつおり分析できるよう指導する。</p>		
講義概要	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や営業成績を外部の利害関係者に正しく報告すうえで、欠くことのできない計算技術である。本講では、簿記の計算技術を主として前期でとりあげ、初級簿記を習得できるよう指導する。</p> <p>また、後期においては、企業会計の構造と機能を、会計情報を利用する人々の立場から学習する。</p>		
使用教材	テキスト	湯田雅夫他『演習商業簿記入門』中経；小川冽『会計総論』放送大学教材	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋谷武夫他『日商簿記検定 3 級 初級簿記演習』税務研究会出版局 ・ 渋谷武夫『日商簿記検定 2 級 中級簿記演習』税務研究会出版局 ・ 『日商検定 体系別 商業簿記全出題・解答 1 級』中央経済社 ・ 『会計法規集』中央経済社 ・ 金児昭『ビジネスゼミナール会社経理入門』日本経済新聞社 	
評価方法	<p>当該講義科目の成績評価は、前期・後期の 2 回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、毎回出席をとる。出席回数が授業日数の 2/3 に達しない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>とくに、一、二年生から履修することを希望する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション：講義概要ならびに授業の進め方を明らかにして、勉学姿勢を喚起する。
2	簿記・会計の歴史を辿り、簿記・会計発展に関わる経済社会の背景を学習する；ルネッサンス期の北部イタリア →産業革命→
3	第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・負債・資本と貸借対照表、東京商会の事例；第3章 収益・費用と損益計算書
4	第4章取引；第5章勘定；第6章仕訳と転記
5	第7章帳簿；第8章簿記一巡の手続き
6	第9章現金預金；第10章商品売買
7	第11章有価証券；第12章売掛金と買掛金；第13章その他の債権債務
8	第14章手形；第15章貸倒れと貸倒引当金
9	第16章固定資産；第17章資本金と引出金
10	第18章収益・費用の繰延と見越
11	第19章決算予備手続
12	第20章決算本手続；第21章財務諸表の作成
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	企業活動；企業目的；企業の法的形態；企業規模；経理の役割；制度会計と管理会計
2	企業組織；定款；株主総会；取締役会および代表取締役；監査役；業務監査と会計監査；公認会計士
3	決算発表；株主総会開催・召集通知・利益処分と配当；決算公告および有価証券報告書
4	経理のバイブルとしての企業会計原則：一般原則、貸借対照表原則、損益計算書原則
5	損益計算書の様式・勘定式と報告式；尺度性の利益と可処分利益；損益計算書の6つの利益と利益処分
6	費用・収益の測定；現金主義；発生主義；実現主義；費用・収益対応の原則；販売基準；工事進行基準と工事完成基準
7	貸借対照表の様式；勘定式と報告式；流動性配列法と固定性配列法
8	流動資産：当座資産と棚卸資産；固定資産：有形固定資産、無形固定資産、投資その他資産；繰延資産；引当金；資本の内容
9	ディスクロージャーと監査：株式会社における債権者および株主の保護；商法による財務報告；証券取引法による財務報告
10	財務諸表の見方；財務諸表を利用する立場から；財務諸表分析の目的：収益性分析・安全性分析・生産性分析・成長性分析
11	財務諸表の分析技術：実数分析・比率分析・構成比率分析・超勢分析；決算情報の入手方法
12	簿記・会計の総まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(現代国際社会の統合と分裂)22 国際関係論特殊講義A(旧自)	担当者名	若林 広
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講では、冷戦後の現代世界が直面する、種々の地域紛争、南北格差、先進国間摩擦、環境破壊、国連の強化、経済統合の進展等の問題の理解を目標に、その根本には、近代国民国家とは何かとの理解が必須と考え、国家論の理論的、歴史的な理解の後、個々の地域についても、その歴史的側面に常に言及しながら、検討を加えていく。</p>		
講義概要	<p>東欧の激動、ソ連邦の崩壊と共に、戦後国際政治を特徴づけてきた米ソ中心の二極体制は崩れ去り、世界は二十一世紀の到来を前に新たな時代を迎えつつある。しかしこの新たな時代は、核の脅威こそ大幅に減じたものの、旧ソ連地域、ユーゴ等、世界各地で発生する地域紛争や、エジプト、アルジェリア等におけるイスラム原理主義運動と言った文化的対立の問題、さらには、南北格差の拡大、先進国間の貿易・経済摩擦、エネルギー・地球環境破壊等、多くの経済問題をいまだ抱えている。世界には現在、このように世界を分裂的、破壊的方向へと導く力が存在する一方で、安全保障、環境問題等における国連中心主義への移行、世界貿易機関(WTO)の発足が象徴する国際貿易体制の強化、さらには、EU、ASEAN等の統合の進展や、APECの、首脳会議の定期的開催による強化等、全地球及び地域レベルでの種々の問題解決への模索がなされているのも事実である。本講では、これら諸問題の根本には、国民国家に対する種々の方向からの挑戦があると考え、まず、国民国家概念の理論的側面に検討を加え、現代世界の動きを理解するうえで重要なこれら分裂・破壊的、及び統合・協力的な動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。講義の性格上、以下にあげる年間予定に加え、その時々アップ・トゥ・デートな問題も積極的に取り上げていく。</p>		
使用教材	テキスト	追って指示する。	
	参考文献	細谷千博・臼井久和編『国際政治の世界』有信堂高文社	
評価方法	<p>基本的には、学年度末の試験によるが、場合によっては、各自の関心のあるテーマに関する自由研究レポートの提出による場合もある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業の理解と積極的な参加のために新聞の国際面、経済面には常に目をとっておく事</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 国際関係論とは何か。国民国家とはなにか。
2	第二次大戦後の国際体系(1)
3	第二次大戦後の国際体系(2)
4	グローバル・イシュー(1) 核兵器一軍拡競争から軍縮へ
5	グローバル・イシュー(2) 国際貿易体制と南北問題(1)
6	グローバル・イシュー(3) 国際貿易体制と南北問題(2)
7	グローバル・イシュー(4) 地球環境と人口
8	西ヨーロッパ(1) 欧州連合の統合(1)
9	西ヨーロッパ(2) 欧州連合の統合(2)
10	西ヨーロッパ(3) ベルギー、フランス等における分権化(1)
11	西ヨーロッパ(4) ベルギー、フランス等における分権化(2)
12	旧ソ連・東欧地域(1) ユーゴ、ソ連の分裂(1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	旧ソ連・東欧地域(2) ユーゴ、ソ連の分裂(2)
2	アジア(1) APEC の進展
3	アジア(2) ASEAN の進展
4	北アメリカ(1) 日米経済摩擦
5	北アメリカ(2) NAFTA
6	ラテン・アメリカ(1) 経済リージョナリズム(1)
7	ラテン・アメリカ(2) 経済リージョナリズム(2)
8	中東(1) イスラエル・パレスチナ問題
9	中東(2) レバノン問題
10	アフリカ(1) アフリカの独立とパン・アフリカニズム
11	アフリカ(2) 南ア・アパルトヘイト
12	まとめ
備考	

科目名	数学 数学概論 (旧)	担当者名	福井尚生
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>“1秒間に2倍に増殖する菌が丁度12時に、ある瓶一杯まで増殖しました。この瓶半分まで菌が増殖したのは何時何分何秒でしょう？”『どれどれ』と、この問題に興味を感じた人はもうこの講義の目標に叶った人です。身近な現象を対象に、具体的な数学を目指しているからです。先ず興味を感じてもらった上で、文科的思考方法に長けた皆さんに、敢えてその対極にある数学的思考方法で各自の脳細胞を刺激してもらい、思考の幅を広げて欲しいと思っています。具体的な問題を扱い易い微分・積分を道具に使い、身近な現象を数学的に解折してみましょう。</p>	
講義概要	<p>1.関数：有理関数と無理関数 三角関数と逆三角関数 指数関数と対数関数</p> <p>2.微分：1変数関数の微分 多変数関数の微分</p> <p>3.積分：不定積分</p> <p>4.微分方程式：変数分離形 1階線形微分方程式 2階線形微分方程式</p>	
使用教材	テキスト	<p>プリント テキスト使用は未定</p>
	参考文献	
評価方法	<p>受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。</p>	
受講者に対する要望など	<p>自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時まで直接 福井（中央棟702）に提出して下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備 考	前・後期とも講義は概要に沿い、受講者の思考の幅の広がり工合を見ながら進めます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備 考	

科目名	物理学 物理学 (旧)	担当者名	東 孝 博
-----	----------------	------	-------

講義の目標	現代物理学の基礎である相対性理論と量子力学を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、科学の果たす役割と限界についても考えていきたい。	
講義概要	前期を相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更、等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等）、後期を量子論（ミクロの世界、粒子の波動性、不確定性原理、状態と観測、粒子の生成・消滅、ブラックホールの蒸発、宇宙の進化等）に充てる。	
使用教材	テキスト	テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。
	参考文献	
評価方法	前・後期各3回の課題と学年末試験で評価を付ける予定。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ—現代物理学を学ぶ意味
2	飛行機中でもワインが注げるわけ—相対性原理
3	光の速度で走りながら光を見たら—光速一定の原理
4	時間は遅れ、空間は縮む—時間・空間の相対性
5	18歳の少女に恋した47歳の科学者の戦略—「浦島効果」
6	エレベーターの綱が切れたら—等価原理
7	空間も曲がる—重力の幾何学化
8	光も出られない蟻地獄—ブラックホール
9	宇宙の将来はどうなるの?—膨張宇宙
10	始めに光ありき—ビックバン宇宙
11	暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙—現代宇宙論の諸問題
12	宇宙人さん、こんにちは—地球外文明探査
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とは何か?—光の波動説と粒子説
2	物は何からできているのか?—ミクロの世界へ
3	光は粒子?—光量子仮説
4	電子は波?—物質波
5	確率の波—波動関数
6	何処にいるのか分からない—不確定性原理
7	量子論と相対論の結婚—相対論的量子力学
8	点の自転?真空の穴??—スピンと反粒子
9	シュレーディンガーの猫—観測の問題
10	現実の世界は対称性の破れた世界—素粒子論
11	宇宙は“無”から生まれた—量子宇宙論
12	エピローグ—再び、現代物理学を学ぶ意味
備考	

科目名	地学 地学(旧)	担当者名	福井尚生
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>地学とは地球科学の略です。そこで地球を自然(科学)の枠内で理解することに努めます。その為には、地球を天体という側面から見ることになります。空を見上げると、月・太陽を始め異なったスケールの天体が輝いています。広い宇宙の中で我が地球が時間的・空間的にどんな位置・状態にあると理解されているか、天文学の世界を垣間見ることにしましょう。出来る丈ホットな話題で興味を鼓舞しながら、実はこの宇宙を支配している筈の自然法則について、天文屋の理解が今のところどの程度まで進んでいるか、知ってもらおうと思います。</p>		
講義概要	<p>1. 恒星：太陽(系) 連星 散開星団 球状星団 2. 銀河：銀河(系) 銀河群 銀河団 超銀河団 3. 見える限りの宇宙：宇宙の構造 宇宙の起源</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント 視聴覚教材</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>受講者数・学習態度(出席重視)を見て決めます。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接 福井(中央棟702)に提出して下さい。</p>		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、ホットな話題を提供しながら進めます。

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生物学A 生物学A (旧)	担当者名	加藤 僖重
-----	------------------	------	-------

講義の目標	近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。 必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。	
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	受講生は新聞・雑誌等をよく読むこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	人口増加 今1秒間に3人増加し続けているヒトが地球に及ぼす影響についてを説明。
3	食糧危機 人口増加に対するだけの食糧は確保されているか否かを国連等で出されている資料を基に説明。
4	トピックス① 人口問題に関しての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	生態系① 1941年に A. G. Tansley が提唱した Ecosystem を説明。
6	生態系② 1941年に A. G. Tansley が提唱した Ecosystem を説明。
7	生態系を乱す例① 現在、問題になっている環境破壊の具体例を説明。
8	生態系を乱す例② 現在、問題になっている環境破壊の具体例を説明。
9	トピックス② 環境破壊例に関しての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読みレポートを提出。
10	森の分布 地域によって異なる森林に共通する法則を説明。
11	トピックス③ 自然環境に関する新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
12	自然保護学の基礎① 各自の故郷の自然環境を知るための基本知識を論じ、併せて夏休みのレポートのまとめ方を説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 講義後期の進め方を説明。
2	照葉樹林文化 ヒマラヤから日本にかけての森の特徴を説明。
3	夏緑林文化 北半球令温帯に広く分布している森の特徴を説明。
4	トピックス④ 森林と文化に関する記事を読み、レポートを提出。
5	対応種とは① 黒船が持ち出した標本が明らかにした日本の特徴を説明。
6	対応種とは② 太平洋型植物と日本海型植物の意味を説明。
7	自然保護学の基礎② 国立公園の始まりを例に我々のなすべきことを説明。
8	絶滅の危機に瀕している生物① バイソンの興亡を歴史を追って説明。
9	絶滅の危機に瀕している生物② ゾウと象牙を例に経済活動の制限を説明。
10	絶滅の危機に瀕している生物③ 日本特産の植物の保護例を説明。
11	トピックス⑤ 森林と文化に関する記事を読み、レポートを提出。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	生物学B 生物学B (旧)	担当者名	加藤 億重
-----	------------------	------	-------

講義の目標	身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。		
講義概要	普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。	
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	受講生は新聞・雑誌等をよく読むこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選によって受講生の確定、実験室での座席の決定を行う。
2	実験室内における心得 実験室の器具等の扱い方を説明。
3	キャンパス・ウォッチング① 種を区別するポイントを説明。
4	身近な植物の観察① 見慣れた花の構造を観察。
5	顕微鏡の使用法① 実際の顕微鏡に慣れてもらう。
6	顕微鏡の使用法② ミクロメーターの使用法。
7	顕微鏡の使用法③ 単位面積当りの細胞数を数える。
8	キャンパス・ウォッチング② 五感を働かせる。
9	身近な植物の観察② 見慣れた果実の解剖。
10	トピックス① 新聞・雑誌等の記事を読む。
11	身近な植物の観察④ 見慣れた種の葉の形態を観察する。
12	身近な自然 夏期休暇のレポートを書くための説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 夏期休暇のレポート回収と後期の説明。
2	種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	身近な植物の観察⑤ スイカズラ科の特殊の形態を観察する。
4	身近な植物の観察⑥ 身近なブナ科植物を観察する。
5	ワシントン条約 身近かな“絶滅の危機に瀕している動植物”の観察をする。
6	身近な植物の観察⑦ 秋の果実を観察する。
7	身近な植物の観察⑧ 生産構造図を描く。
8	身近な植物の観察⑨ 紅葉・黄葉の観察。
9	分類に使われるキー・キャラクターとは デンドログラムを描く。
10	レポートの整理 観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。
11	トピックス② 新聞・雑誌の記事を読む。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学概論 自然科学概論 (旧)	担当者名	福井尚生
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>昨年10月30日、米CBSテレビがドラマの中で『世界中に小惑星が落下』のニュースを流しました。全米は一時パニック状態になったそうです。ハロウィンのいたずらニュースでした。でも小惑星の地球衝突の可能性は天文屋も示唆していますし、ゼロではありません。そうした環境の中でのいたずらニュースは効果抜群です。人間は環境に左右され勝ちです。その中で自然科学が自然の本質をどう見ようとして来たか、又理論をどうより普遍的に改良して来たか、“地球外文明”に焦点を合わせて探ってみようと思います。</p>		
講義概要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 思想 多数世界論と唯一世界論 2. 進化 利用するエネルギーに依る文明の段階 3. 探査哲学 平凡性の原理、人間原理 4. 探査計画 SETI 5. 効能 		
使用教材	テキスト	<p>視聴覚教材 テキスト使用は未定</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は、本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接 福井（中央棟702）に提出して下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、環境に対応しながら進めます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（東洋の健康論）1	担当者名	青柳多恵子
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	日本・中国の古典的書物に見られる「健康観」や「養生訓」の中に、現代の我々が抱えている多くの問題の解決策を見出だす事ができると思われる。健康を害する環境問題・ストレス・栄養・休息等について、現代と対比しながら問題点について考察出来る事を目的とする。		
講義概要	日本の文化遺産、中国の古書を健康観の面から分析・検証していく。特に民族特有の生活状況から基本的な健康意識を検索し、現代の我々の生活との関わりを考える。また、生活習慣・行事・式典・祭り等々に現れている健康への祈りと希望、または生命への無限の表出と現代生活の対比と共に自然界の一部としての人間の在り方を今一度反省しつつ、理想的な生き方や、現代人が忘れてしまった自然との融合を、先人の残した言葉の中から民族・生活・文化を検証しながら、健康であることの意味や、大切さを考える。		
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・支那人の古典とその生活 ・現代スポーツの社会学 ・論語からみたビジネス生活の方法 ・生涯教育と学校教育 ・奥の細道 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川幸次郎著 佐伯 聡夫著 青柳洋次郎著 森 隆夫著 松尾 芭蕉著
評価方法	前期・後期にレポート提出と出席状況による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要の説明と「気」概念について
2	中国古典文献に見られる健康の基本的な考えかた
3	「論語」の中にある「気」の取扱いについて
4	「孔子」の生き方にみられる人生哲学と宇宙観
5	浩然の気と「孟子」について
6	道家の基本典籍「老子・荘子」に於ける養生訓について
7	日本の儒学とその健康観について
8	「気」・「経絡」・「黄帝内経」について
9	中国の文献にある「気」の概念と日本の文献にある「気」の概念の違い
10	俳句や浮世絵に現れる日本人の自然観について
11	日本人の健康意識と現代文明の功罪について
12	まとめ レポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のレポート講評 現代日本の「健康観」について
2	老いと心の様相について考え、健康を疎外する要因を検証する
3	歴史の中の健康意識の変化とその社会状況について
4	世界の健康意識について
5	現代日本の健康意識について (NHK 調査結果)
6	日本のラジオ体操・中国の対極拳・ドイツのトリム運動等の意味するもの
7	現代社会の健康を疎外する問題点
8	運動不足のもたらす個人的・社会的問題と健康について
9	現代社会の中での健康の価値とその経済的背景
10	健康への関心と健康への配慮と日常生活の在り方
11	原始生活への回帰の意味することとは
12	まとめ レポート提出
備考	

科目名	自然科学特殊講義A (トレーニング論) 2	担当者名	梶野克之
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>競技スポーツから健康づくりにまで必須とされているトレーニングについて、定義からはじめて筋の組成についての理解を深め、筋の収縮によって発揮される筋力について考察する。筋の力強さやねばり強さについての理解とともに、そのエネルギー源についても理解を深める。さらにトレーニングで培われた体力について、その維持の重要性を理解するとともに、その具体的な方法について考えることにより、現代社会と体力について理解し、これからの生活に役立てることを目的としたい。</p>		
講義概要	<p>トレーニングの定義からはじめ、トレーニングを実施する時期について又発達段階に応じたトレーニングについて考察する。筋の収縮によって起る動作様式の習得について考える。続いて筋力について発揮される力や筋活動の様式について理解する。筋肉と神経について、筋活動と神経支配について、又筋肉の活動のためのエネルギーについて理解する。筋線維の組成について理解し、力強さやねばり強さと筋について理解する。体力測定の意義とその方法について理解する。力強さ、ねばり強さを鍛える条件について考える。エネルギー源となる栄養について理解するとともに、トレーニング効果を高めるための栄養について考察する。さらに体力の維持について重要性を理解する。</p>		
使用教材	テキスト	宮下充正著『トレーニングの科学的基礎』1993年、ブックハウス・エイチディ	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加態度等によって決定する。 前期レポート提出日：7月22日 後期レポート提出日：1月13日</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の授業概要の説明を行い、トレーニングという言葉の意味、生物の適応能力などについて考え、トレーニングの定義について解説する。(教科書第1章)
2	第2回目の授業ではトレーニング実施の時期について考える。長い成長段階に応じたトレーニングについて考える。又身体発達にかかわる要因について理解する。(教科書第2章)
3	第3回目の授業ではトレーニングを考える前に、いろいろな動作様式がどのように習得されるかを考え、基本動作を身につける必要性について理解する。年齢に応じたトレーニングについても考える。(教科書第2章)
4	第4回目の授業では筋肉について、運動を引き起こす力としてその構造と活動のメカニズムを理解し、エンジンとしての筋肉の特性について考える。(教科書第3章)
5	第5回目の授業では前回にひきついで筋肉について、関節角度と発揮される力の関係及び、筋活動の様式についての理解を深める。(教科書第3章)
6	第6回目の授業では筋肉と神経について、特に筋活動と神経支配について運動調整として理解する。筋肉の発揮する力を調節する仕組みについて理解する(教科書第4章)
7	第7回目の授業では前回に続いて筋肉と神経について、筋肉の活動のためのエネルギーについて、その補給という視点から ATP や ADP などについて理解する。(教科書第4章)
8	第8回目の授業では力強さとは何かについて考え、筋の組成を理解し筋線維組成と筋出力について考える。筋線維組成とスポーツ種目とのかかわりについても考える。(教科書第5章)
9	第9回目の授業では前回につづいて筋線維について、力強さのもととなる速筋線維について遺伝的要因と後天的なトレーニングの影響によるものなのかについて考える。(教科書第5章)
10	第10回の授業ではねばり強さとは何かについて考え、筋の組成と筋線維の代謝の特徴について理解し、運動強度と酸素摂取量について考察する。(教科書第6章)
11	第11回目の授業では前回に続いてねばり強さのもととなる遅筋線維と、呼吸機能や循環機能の影響について考える。(教科書第6章)
12	第12回目の授業では前期授業のまとめと、前期提出レポートのテーマの発表を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では前期レポートの講評を行う。筋肉の活動能力と競技成績の関係について考え、体力と技術にみられる相関について体力の測定の必要性を理解する。(教科書第7章)
2	第2回目の授業では体力測定について、その実際の方法を理解するとともに、意義についても考える。トレーニングの経過と体力測定の結果について理解する。(教科書第8章)
3	第3回目の授業では力強さを鍛える、すなわちハイ・パワーを増大させる条件について考える。さらにハイ・パワー・アップの方法について理解を深める。(教科書第8章)
4	第4回目の授業では前回に続いて、ハイ・パワーを増大させる条件について考える。具体的なトレーニングの方法を理解して、実践上の注意点をも理解する。(教科書第8章)
5	第5回目の授業では力強さを持続させることについて考える。ハイ・パワーの持続能力を向上させる条件について考える。(教科書第9章)
6	第6回目の授業では前回に続いてハイ・パワーを持続させる条件について考える。ハイ・パワーの持続力を高めるトレーニングについて考える。(教科書第9章)
7	第7回目の授業ではねばり強さについて考える。ロー・パワー向上のためのトレーニングとその発展について考察する。ロー・パワー向上の条件について考える。(教科書第10章)
8	第8回目の授業では前回に続いて、ねばり強さを鍛える条件について考える。いろいろなトレーニングについて考察するとともに、その限界についても理解する。(教科書第10章)
9	第9回目の授業ではエネルギーの補給について考える。トレーニングと栄養についての視点から考える。運動強度と利用されるエネルギー源について理解する。(教科書第11章)
10	第10回目の授業では前回につづいてトレーニング効果を高めるための栄養について考える。スポーツ選手の実際の食事例をとりあげながら栄養についての理解を深める。(教科書第11章)
11	第11回目の授業ではトレーニングで培われた体力について、年齢にともなうその維持の重要性と方法について考える。(教科書第12章)
12	第12回目の授業では後期の授業のまとめと、提出レポートの課題を発表する。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（植物と人間）3	担当者名	加藤 僖重
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として人類の交流を想像してみたい。	
講義概要	身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、様々な文献を参考に講義を進めたい。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう。	
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。	
受講者に対する要望など	受講生は新聞・雑誌等にまめに目を通してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現代の課題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	遺跡から出た植物遺骸① ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
3	遺跡から出た植物遺骸② ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
4	遺跡から出た植物遺骸 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する。
5	トピックス① 英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
6	栽培植物の起源① 何を植栽したか、民族による違いを説明する。
7	栽培植物の起源② 何を植栽したか、民族による違いを説明する。
8	日本文化の基盤をなす植物① 縄文時代を特徴づける植物は。
9	日本文化の基盤をなす植物② 弥生時代を特徴づける植物は。
10	日本文化の基盤をなす植物③ 古墳時代を特徴づける植物は。
11	日本文化の基盤をなす植物④ 奈良・平安時代を彩る植物は。
12	トピックス③ 自然環境に関する新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
備考	前期のまとめ 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートのを説明する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 講義後期の進め方を説明。
2	日本文化の基盤をなす植物⑤ 鎌倉時代を特徴づける植物は。
3	日本文化の基盤をなす植物⑥ 南蛮人の持ってきた植物。
4	トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	日本文化の基盤をなす植物⑦ 日光御成街道沿いの植木村。
6	日本文化の基盤をなす植物⑧ 菊人形。
7	日本文化の基盤をなす植物⑨ 朝顔。
8	トピックス⑤ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
9	日本文化の基盤をなす植物⑩ ケンペル、ツェンベリー、シーボルト。
10	日本文化の基盤をなす植物⑪ ソメイヨシノ。
11	トピックス⑥ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（化学）4 化学（旧）	担当者名	杉浦 三千夫
-----	-------------------------	------	--------

講義の目標	この講義は、化学一般を年間を通じて基本的な事項について平易にのべることを最大の目標としている。専門に偏することは少く、知識の習得によらず、経験がいかに学問になったかを述べる。
講義概要	自然科学の一つの要素である“化学”の重要性はたとへ人文科学専攻の学生としても今更こゝで述べるまでもなく必要なことである。教養課目として定まっている以上不可欠のことである。目標として記したごとく、成因があり、その結果をいかに役立てるかが学問でもある。したがって入学前に理科系の考へ方を学んでいない諸兄弟のために限られた時間内に立案し講義を行ふつもりである。大きく分ければ前半に、化学の成り立ち、分類としては物質のなり立ち、それに基づく理論、法則、化合物の分類、資源とその活用、工業のなり立ち、後半には生命に關与する化合物（有機化合物）それらの合成法と活用、それから生ずる生活環境に対応する事柄を述べることを予定している。
使用教材	テキスト 目でみる化学 培風館（山本・前川他共著）改訂版
	参考文献 プリント、および、磯・富田共著、ケミストリー（東京教学社刊）
評価方法	授業についての熱意度（出席）、前後期の筆記試験、レポートについて（提出課題、試験等）の評価を行う。
受講者に対する要望など	まず出席、対話、創立諸先生方の教育に対する精神を把握すること。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	化学とはなにか、西洋と東洋圏とで、物質創造についての相違などを化学史の立場より比較しながら述べる。
2	原子と分子の考え方と化合物、物質にいたる過程について述べる。
3	周期律表の成立とその活用、元素の類似性
4	原子と原子核、電子配置、化学結合論その（一）
5	化学結合論のつづき 電子対結合 配位結合、錯塩について
6	その他の化学結合、金属結合、結晶、液晶、巨大分子について
7	物質の3態と基本法則
8	化学反応とエネルギー、熱化学と燃料
9	大気、水、地下資源、それからの無機工業化学その（一）
10	無機工業化学のつづき、主として電気化学に関する化学工業
11	生活環境と化学物質の関連性について（公害問題）
12	公害問題のつづき環境基準
備考	3, 11, 12週はプリントを配布して説明する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	無機化合物と有機化合物の相違、有機化合物の官能基による分類について考える。
2	炭化水素と石油、精製と石油工業、および石油工業
3	有機化合物の反応性、および不飽和炭化水素
4	有機化合物の反応性のつづき、置換反応・付加反応について
5	有機化合物の反応性（三） 高分子化合物生成反応
6	ベンゼンから出発した誘導体についての物質と物性
7	有機工業化学（一） コロイド化学の概念 それからの製品について述べる。
8	高分子化合物と有機工業化学、合成樹脂と合成繊維
9	生活関連有機化合物 生物化学
10	化学材料から見た先端技術、品質管理の初歩
11	有機物質から発生した公害とその環境保全
12	環境問題と化学の面からみた安全工学の概念について述べる。
備考	10, 11, 12週はプリントを配布して説明する。

科目名	自然科学特殊講義A (宇宙論) 5	担当者名	福井 尚生
-----	-------------------	------	-------

講義の目標	<p>子供の頃『宇宙の果て』を思い悩んで以来、今もその事ばかり考えています。まだよく分かりません。自然を科学的に解析して行く過程を、特に相対論的宇宙論に的を絞って殊更現場の主観的自然観を交えながら講義します。理論が観測との相互作用で自然の本質に向けてどう改良・発展されて来ているかを上手く伝えられればと思います。</p> <p>尚、本講義は昨年度まで『地学』で行って来た内容を特殊講義用に衣替えしたものです。カリキュラムの見直しという暗中模策の中での対応と理解して下さい。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宇宙観の変遷：古代の宇宙観 中世の自然観 近代的宇宙観 2. 「光」に依る宇宙観 3. 空間とは？時間とは？ 4. 相対性理論：特殊相対性理論 一般相対性理論 5. 相対論的宇宙論：構造論 起源論 	
使用教材	テキスト	<p>プリント 視聴覚教材</p>
	参考文献	
評価方法	<p>受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。</p>	
受講者に対する要望など	<p>自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時まで直接 福井 (中央棟702) に提出して下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、研究会等の話題も交えながら進めます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学特殊講義A（体力トレーニング論）6	担当者名	松原 裕
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>身体運動に関する種々の現象についての最近の科学研究の進歩、発展は著しい。このような現代社会にあって、健康で文化的な生活をおくるためには、身体運動にかかわる様々な科学的知識をもつことが極めて重要である。身体運動科学とは人間の身体運動に関する科学的分析と統合とを目的とする学問領域である。</p>		
講義概要	<p>身体運動にはスポーツ活動や身体トレーニングをはじめ、日常生活動作、労働活動、健康の維持増進、及び運動機能回復や障害予防のための運動等が含まれる。</p> <p>この授業では、身体トレーニングを中心に講義を進める。</p>		
使用教材	テキスト	『身体運動科学』 東京大学教養学部保健体育研究室編	
	参考文献		
評価方法	<p>毎時間の出席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講でない場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通してトレーニングの一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成(写真添付) ○授業実施上の諸注意 ○前期授業テーマ「スピード」
2	前期テーマに沿って進める。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○後期授業テーマ「持久性」
2	後期テーマに沿って進める。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	コンピュータ概論 コンピュータ概論(旧)	担当者名	東 孝 博
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	コンピュータ初心者のために、コンピュータによる読み書き算盤教育を行う。これからの大学生活・社会生活に必要なコンピュータ利用のための基本や、コンピュータが人間の生活・社会に及ぼす影響について学ぶ。		
講義概要	1人1台のパーソナルコンピュータで、日本語ワープロ・英文ワープロ、表計算ソフト・データベース機能の使い方、コンピュータによる検索、通信を実習する。		
使用教材	テキスト	文書と資料を配布。	
	参考文献		
評価方法	授業中に出す課題で評価。		
受講者に対する要望など	遅刻は他の人の迷惑になるので厳禁。やむを得ず欠席した場合も、自習して遅れを取り戻すこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータに触れる／Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門—文書の編集(1)
5	ワープロ入門—文書の編集(2)
6	ワープロ入門—文書の編集(3)
7	ワープロ入門—文書の印刷
8	ワープロ入門—英文ワープロ(1)
9	ワープロ入門—英文ワープロ(2)
10	表組みからグラフを作成する
11	グラフを文書に貼り付ける
12	課題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算入門—表の作成・編集
2	表計算入門—表計算
3	表計算入門—グラフの作成
4	表計算入門—表・グラフの装飾と印刷
5	データベースの取り扱い—データベース作成・整備
6	データベースの取り扱い—データの検索
7	データベースの取り扱い—データの抽出
8	データベースの検索利用
9	BITNET—メールの送信・受信
10	BITNET—メールの整理
11	BITNET—ファイルの送信・受信
12	課題
備考	

科目名	コンピュータ概論 コンピュータ概論 (旧)	担当者名	金子 憲一
-----	--------------------------	------	-------

講義の目標	<p>現在、膨大な情報の中から自らに必要なものを捜し出し、効率的に活用する場合の中心になるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本的な操作や利用、及び情報処理の考え方や人間とコンピュータとの関係を学んでいく。</p> <p>特に、大学生活で実際的に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>	
講義概要	<p>1人1台でパーソナルコンピュータを利用し、実習を中心として授業を進める。具体的には、日本語ワープロ・英文ワープロ、表計算ソフト、データベース操作、コンピュータによる情報検索・パソコン通信の活用法を学ぶ。</p> <p>(初心者を対象に、ていねいに説明を行うが、積極的にメモを取りまじめに取り組むように。「ゆっくりでよいから正確に」操作すること。)</p>	
使用教材	テキスト	文書と資料を配布。
	参考文献	授業中、随時紹介する。
評価方法	授業中に示す課題の作成と平常点（特に出席を重視）で総合評価。	
受講者に対する要望など	毎回の授業は前回迄の積み重ねである。欠席や遅刻は厳禁とする。欠席した場合は、必ず自習して遅れを補っておくこと。「はじめ」と「自分の責任」を自覚して、自主的に取り組むように。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータに触れる／Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門—文書の編集(1)
5	ワープロ入門—文書の編集(2)
6	ワープロ入門—文書の編集(3)
7	ワープロ入門—文書の印刷
8	ワープロ入門—英文ワープロ(1)
9	ワープロ入門—英文ワープロ(2)
10	表組みからグラフを作成する
11	グラフを文書に貼り付ける
12	総合課題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算入門—表の作成・編集
2	表計算入門—表計算
3	表計算入門—グラフの作成
4	表計算入門—表・グラフの装飾と印刷
5	データベースの取り扱い—データベース作成・整備
6	データベースの取り扱い—データの検索
7	データベースの取り扱い—データの抽出
8	データベースの検索利用
9	BITNET—メールの送信・受信
10	BITNET—メールの整理
11	BITNET—ファイルの送信・受信
12	総合課題
備考	

科目名	コンピュータ概論 コンピュータ概論 (旧)	担当者名	高柳敏子 前田功雄
-----	--------------------------	------	--------------

講義の目標	本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラシ教育を目的とする。以降の大学生活で必要な情報利・活用のための基本を習得する。		
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、MS-Windowsのもとでワープロソフト MS-Word、表計算ソフト MS-Excel を使用しながら、ワープロを中心に簡単な表とグラフを含めた総合的な文書編集の基礎を学習する。</p> <p>後期は、MS-Excel による表計算の応用およびデータベースの取扱い、また大学内で利用できる図書館等のデータベースの検索、さらに BITENT によるメール、ファイルの送受信等を学習する。</p>		
使用教材	テキスト	未定、必要な資料は随時配布する。	
	参考文献	参考書については随時紹介する。	
評価方法	前・後期各1回の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	実習を中心とした授業なので、欠席をしないこと。年間を通じてデータや文書を記録するためのフロッピー (3.5インチ2HD) を3枚用意すること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	パソコン入門(1):マウス操作 コンピュータに触れる。
3	パソコン入門(2):ウィンドウ操作 ウィンドウの扱い方とフロッピーの初期設定を学ぶ。
4	キーボードとタイピング タイピングソフトの解説とタッチタイピングの練習をする。
5	ワープロ入門(1):文書の編集(1) 日本語入力の基礎を学ぶ。
6	ワープロ入門(2):文書の編集(2) コマンドのメニューや機能ボタンの使い方を学ぶ。
7	ワープロ入門(3):文書の編集(3) 文書の表組みを学ぶ。
8	ワープロ入門(4):文書の編集(4) 文書の段組みを学ぶ。
9	ワープロ入門(5):文書の印刷 印刷の設定や仕方を学ぶ。
10	ワープロと表計算の統合(1):表計算入門(1) 表組みからグラフを作成することを学ぶ。
11	ワープロと表計算の統合(2):表計算入門(2) グラフの作成と、グラフの文書への貼り付けを学ぶ。
12	ワープロと表計算の統合(3):統合編集 段組み、表組み、グラフ等の総合的な編集と印刷を学ぶ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算の応用(1):ワークシート(1) 連番をつける、セルの複写と移動、計算式とその複写等を学ぶ。
2	表計算の応用(2):ワークシート(2) セルの相対番地指定、絶対番地指定の違い、関数の利用等を学ぶ。
3	表計算の応用(3):ワークシート(3) セルの書式、ワークシートの印刷の設定等を学ぶ。
4	表計算の応用(4):データベースの取扱い(1) データ入力、追加、削除等を学ぶ。
5	表計算の応用(5):データベースの取扱い(2) 項目によるデータベースの並べ替えを学ぶ。
6	表計算の応用(6):データベースの取扱い(3) 項目による条件検索や条件抽出を学ぶ。
7	表計算の応用(7):データベースの取扱い(4) 項目によるクロス集計やデータベース関数の使用を学ぶ。
8	表計算の応用(8):統合練習 レポートの作成。
9	データベースの検索利用:図書館の検索 図書館の検索および検索結果を資料にまとめる。
10	パソコン通信:パソコン通信のデモンストレーション 電子掲示板、電子メールの送受信、チャット等を学ぶ。
11	BITNET(1):ホストコンピュータとネットワーク ホストへの logon、logoff とメールの送受信を学ぶ。
12	BITNET(2):パソコンとホストコンピュータ ファイルのアップロードとダウンロード、ファイルの送受信を学ぶ。
備考	

科目名	情報論 情報論 (旧自)	担当者名	前田 功雄
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>	
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をとうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、獨協大学BBS、コンピュータ・ネットワーク、BITNET、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>	
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。
	参考文献	授業中に述べる。
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局（含獨協大学BBS局）に接続して実演。 キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト-端末、LAN、コンピュータ間通信、BITNET、Internet
4	BITNETの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるBITNETの仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5	BITNETの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	BITNETによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルのBITNET上での転送 FDのファイルをBITNET経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
12	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測り方（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
10	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
11	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
12	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	言語学 一般言語学 (旧)	担当者名	新里博樹
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>言語は、人間にとって、その存在の基盤であり、また、人間のあらゆる営みの様相としての文化の根幹をなすものである。本講義では、そうした言語の本質や一般的特性を追究する学問領域としての“言語学”に対する基礎的な理解を深めることを目標とする。言語の一般的特性の諸点や言語観といった、言語学上の知見を知識として習得するばかりではなく、そうした知見をもとに、自己の内部や周囲における様々な言語事象に注意を払い、自分なりに考えていこうとする姿勢を涵養することを目指す。人間と言語との関わりに想いを到す態度を養いたい。</p>	
講義概要	<p>言語学の諸領域や関連領域を概説しているテキストを横軸とし、また研究史の流れに沿って言語学を概観する授業内容を縦軸として、可能なかぎり立体的に言語学のアウトラインを講じていく。前期は、主として古代から近代、特にソシュールに至る言語学の発展の流れを概観し、言語に対して人間がどのような関心を抱いてきたか、という問題を論じ、後期は、主としてソシュールによって提示された言語観、および言語の一般的諸特徴を講じ、さらに、ソシュール以後の言語学の発展を概観しながら、人間と言語との関わりを論じる。なお、後期においては、いくつかの言語事象をとりあげ、言語の一般的特質や機能に照らして考察し、発表する討議形式も導入する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・『言語学入門』 田中春美・五十嵐康男・中村完・家村睦夫・倉又浩一・樋口時弘 共著、大修館書店</p>
	参考文献	<p>話題が多岐にわたるため、詳細はその都度、提示・紹介するが、基本的なものとして、次のものを提示しておく。</p> <p>・『一般言語学講義』 ソシュール、岩波書店</p> <p>・『ソシュール小事典』 丸山圭三郎、大修館書店</p> <p>・『言語理論小事典』 デュクロ/トドロフ、朝日出版社</p>
評価方法	<p>前期・後期のレポートが中心となるが、出席状況も考慮する。ただし単に出席すればよいということではなく、授業への参加（質問や発言、授業内に実施される小レポートなど）の度合により評価する。その際、最も重要なのはオリジナリティである。</p>	
受講者に対する要望など	<p>特別な予習は必要としないが、授業で提示される諸問題に対する真剣な思考と活発な論議とを求める。自ら求め、自ら考え、自らの発見を大切にする姿勢が望まれる。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学とはどういう学問か」ということについて論じる。
2	言語学の領域と方法/言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その方法を概観し、隣接諸領域との関わりを、テキストの構成を解説しながら論じる。
3	言語学の歴史と発展（第1回）/「言語学以前」 人間の言語に対する関心の在り方と言語観を、始原の段階における神話的前研究に見る。
4	言語学の歴史と発展（第2回）/「古代の言語研究Ⅰ」 古代における言語研究を、ギリシア・ローマについて概観する。特に、哲学的言語論や形態分析としての文法論の発展について論じる。
5	言語学の歴史と発展（第3回）/「古代の言語研究Ⅱ」 古代における言語研究を、インド・中国について概観する。特に、音韻論や文字論の発展について論じる。
6	言語学の歴史と発展（第4回）/「中世の言語研究Ⅰ」 中世における言語研究を、ルネッサンス前後のヨーロッパにおけるキリスト教との関連において概観し、国家語の意味を論じる。
7	言語学の歴史と発展（第5回）/「中世の言語研究Ⅱ」 中世における言語研究を、東アジアにおける仏教との関連において概観し、日本における言語研究（伝統的な）について触れる。
8	言語学の歴史と発展（第6回）/「近代の言語研究Ⅰ」 近代前期（17～18世紀）の言語研究を、「言語起源論」を中心に概観する。特に、認識論的言語観や経験論的言語観について論じる。
9	言語学の歴史と発展（第7回）/「近代の言語研究Ⅱ」 近代後期（19世紀）の言語研究を、「比較・歴史言語学」を中心に概観する。特に、言語系統論や言語類型論の考え方について論じる。
10	ソシュールの言語理論Ⅰ/「現代言語学の夜明け」 ソシュールの言語理論のうち、通時論と共時論、ラングとパロール、構造と体系、統語関係と連合関係などの基礎的な概念を解説する。
11	ソシュールの言語理論Ⅱ/「記号論的言語研究」 言語の記号としての特質についてソシュールの理論を概観する。特に、線状性と分節性、恣意性、聴覚映像などの基礎的な概念を解説する。
12	前期の総括と後期の展望 前期レポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期レポートの返却と講評 後期予定の確認
2	ソシュールの言語理論Ⅲ/「ソシュールの位置と影響」 ソシュールの言語理論の背景と、その後への影響について整理し、理解を深める。
3	言語の一般的特性（第1回）/記号的特質 ソシュールの言語理論Ⅱをもとに、言語の一般的特性を復習整理し、特に記号性や体系性について考察する。
4	言語の一般的特性（第2回）/言語の単位とその構造 言語における構造上の特性を、構造主義言語学の考え方を概観しつつ考察する。
5	言語の一般的特性（第3回）/言語の定型性と生産性 言語運用能力の獲得（言語習得）の根源となる一般的特性を、生成論（変形文法）の考え方を概観しつつ考察する。
6	言語の機能Ⅰ/言語における伝達機能 外的言語の機能のうち、伝達に直接関わる働きの種々相について考察し、コミュニケーションの機構について論じる。
7	言語の機能Ⅱ/言語における非伝達機能 外的言語の機能のうち、伝達に直接関わらない働きの種々相について考察し、言語表現における美について論じる。
8	言語の機能Ⅲ/言語と認識 内的言語の機能としての、認識に関わる働きの種々相について考察し、認知主義言語学の考え方を概観する。
9	言語の機能Ⅳ/言語と深層心理 外的言語と内的言語の関わりを考察し、言語とそのイメージを手掛りに言語の人間内部の深層に与える影響の種々相を論じる。
10	言語と社会 言語と社会との関わりについて、位相語・差別語などを中心に論じる。併せて、言語地理学・社会言語学の考え方を概観する。
11	言語と文化 言語と文化との関わりについて、サピアニョーフの仮説や文化記号論の考え方を概観しながら考察する。
12	年間の総括 後期レポート提出
備考	

科目名	言語学 一般言語学 (旧)	担当者名	城田 俊
-----	------------------	------	------

講義の目標	言語学の諸分野の輪郭をつかみ、各分野の歴史と現在の展望を行い、日本語および学習する外国語がいかなる言語であるかを考える基礎を得ることを目的とする。	
講義概要	テキスト『言語学入門』に従って、言語の音声・音韻・文法（形態論・構文論）・意味論・比較言語学等の基礎概念、基本的考え方を解説する。ただし、テキストの第9章に当る方言学、10章にある文体論に関する説明は省略し、外国語学習・外国語教育等で現在注目をあびている語彙や意味や慣用をとらえる新しい理論「語彙函数（レキシカル・ファンクショ）」に関し、7週をさいて解説し、「応用言語学」の立場からその応用を考える。	
使用教材	テキスト	・田中春美・五十嵐康男等『言語学入門』 大修館書店
	参考文献	・田中春美・樋口時弘等『言語学演習』 大修館書店 ・城田俊 『ことばの緑—構造語彙論の試み』 リベルタ出版
評価方法	試験ないしレポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論(1) 幼児の言語獲得、動物と言語、記号学。テキスト 3—11頁
2	序論(2) 言語学と関連諸科学、言語の特徴、言語の変異。テキスト 11—32頁
3	言語の音(おと)(1) 音声学と言語学、音韻論、調音器官 等。テキスト 11—42頁
4	言語の音(おと)(2) 母音、子音、長さ、アクセント、回化と異化。テキスト 42—60頁
5	形態論(1) 言語の分節性、二重分節、形態素、異形態。テキスト 60—72頁
6	形態論(2) 文法カテゴリー性(ジェンダー)、数、格、アスペクト、肯定・否定、時制、相、法、態。テキスト 78—97頁
7	構文論 構文論とは、主語・述語、支配と一致等。テキスト 97—113頁
8	文の生成 生成文法の発展。テキスト。117—139頁
9	意味論(1) 意味とは何か。テキスト。142—149頁
10	意味論(2) 意味論の変遷。テキスト。149—170頁
11	文字論(1) 文字体系 表記体系。テキスト 171—185頁
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	比較言語学(1) 言語の変化、体系の矛盾、音韻変化。テキスト 186—195頁
2	比較言語学(2) 文法・語彙・意味の変化、言語の地域差、祖語の再構。テキスト 195—211頁
3	比較言語学(3) 研究の歴史、日本語の系統。テキスト 211—216頁
4	補遺
5	語彙論と語彙函数、語は何によって結びつくか、慣用、コロケーション。
6	語彙函数(1) 強調語、称讃語、真正語
7	語彙函数(2) 動詞化動詞、開始語、終止語、完了語、継続語等
8	語彙函数(3) 充たし語、生成語
9	語彙函数(4) 調べ語、無化語、悪化語、攻撃語、成果語、鳴き声のオノマトペ
10	語彙函数(5) 構成者名詞、舞台だて名詞
11	語彙函数(6) 助数詞、集合語、集団語、成員語、頭目語、同義語、類義語、敬語、反義語、反転語、総括語等
12	試験
備考	

科目名	情報科学特殊講義A (コンピュータプログラミング論) 1 コンピュータプログラミング論 (旧自)	担当者名	高柳敏子
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p>		
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。</p> <p>続いて、CASL シミュレータを利用して、架空のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングおよび実習を通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL の応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコンの言語としてコンパイラ言語の C を取り上げ、プログラミングの入門から、情報処理の基本的な技法までを、Turbo C++ for Winsows を使用して実習しながら勉学する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>随時必要な資料を配布</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社 1993 ・『CASL Programming』ITEC (情報処理技術者教育センター) 1994 ・河西朝雄著『Turbo C 初級コンピュータ』(上) 技術評論社 1992 ・『岩波 情報科学辞典』岩波書店 1990 	
評価方法	<p>前・後期各1度の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3度程度のレポートおよび出席を加味して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論 (経済学部、法学部)、またはコンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理 I (英語学科) を既修のこと。</p> <p>実習用にフロッピー (3.5インチ 2HD) を3枚用意すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1) ハードウェア：ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子
2	コンピュータの歴史(2) ソフトウェア：コンピュータ言語、オペレーティングシステム
3	コンピュータの構成：中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置
4	COMET の処理装置(1) 語構成とビット構成：アドレスとアドレッシング、制御方式、命令語、プログラムカウンタ (PC)
5	COMET の処理装置(2) レジスタ：汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)
6	情報の表現(1) 数値の内部表現：整数と2の補数表記、16進表現
7	CASL プログラミング(1) CASL の命令：疑似命令、マクロ命令、機械語命令、命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈
8	CASL プログラミング(2) 加減算処理：CASL プログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保
9	CASL シミュレータとその実行：プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、プログラムのディスクからの呼出し
10	CASL プログラミング(3) 乗除算処理：シフト演算命令
11	CASL プログラミング(4) 乗除算処理：比較演算命令とフラグレジスタ、分岐命令
12	CASL プログラミング(5) 繰り返し処理：指標レジスタの使用
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASL プログラミング(6) 情報の表現(2) 文字の内部表現：ASCII コード
2	CASL プログラミング(7) 入出力処理：コード変換と論理演算
3	CASL プログラミング(8) サブプログラム(1) 引き数の受け渡しと汎用レジスタ
4	CASL プログラミング(9) サブプログラム(2) 引き数の受け渡しとスタック：プッシュ、ポップ、スタックポインタ
5	アセンブラとコンパイラ プログラムの翻訳と実行：アルゴリズムとコンパイラ言語
6	Cプログラミング入門(1) C言語とは、C言語の基本事項：例題と Turbo C++ for Windows の操作
7	Cプログラミング入門(2) 最大値を求める：整数データとその宣言、入出力とその形式指定、繰り返し、条件分岐
8	Cプログラミング入門(3) 量の多いデータを扱う：配列の扱い、ファイルの入出力とその宣言
9	Cプログラミング入門(4) 数値データを大きさの順に並べる：ソートアルゴリズム、実数データとその宣言、入出力とその形式指定
10	Cプログラミング入門(5) 文字列データの扱い：文字列データとその宣言、入出力とその形式指定
11	Cプログラミング入門(6) 文字列データとポインタ
12	Cプログラミング入門(7) 構造体、検索アルゴリズム
備考	

科目名	情報科学特殊講義A (コンピュータサイエンスと自然言語処理) 2 情報論特殊講義A (旧自)	担当者名	工藤育男
-----	---	------	------

講義の目標	機械で自然言語（英語や日本語などの言語を指す）を処理する方法について学ぶことにより、言語の持つ特質（複雑さ、困難さ、効率性など）への理解を深める。同時に、コンピュータに慣れ親しむことを目標とする。	
講義概要	我々の身の廻りにも自然言語を処理する技術が使われ始めている。例えば、ワープロ・スペルチェッカー、機械翻訳システム、音声認識装置など。本講義では、自然言語を処理する基本的原理を解説する。最近の言語理論、意味解析、文脈処理について分かりやすく解説する。また、プログラムを使用して、統計量を測ったり、構文解析、翻訳などを行う。コンピュータ予備知識のない学生でも受講できるよう配慮する。	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	必要な時に紹介する。
評価方法	評価は、前後期各1回のレポートによって決定する。 前期レポート提出日：7月22日 後期レポート提出日：1月13日	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要を説明する。自然言語処理、コンピュータの基礎をつかむ。
2	統計言語学について説明する。世界の言語や文字がどのくらい存在し、計算機でどのように入力したり、出力しているのかについて解説する。
3	Zipf の法則に代表される統計量を実際のテキストについて調べてみる。計算機を利用するメリットを理解する。
4	ワードプロセッサに触れてみる。身近な日本語処理の実例に慣れ親しむ。
5	ワードプロセッサの基本的原理となっている形態系解析技術について解説する。日本語の品詞のあいまいさについて理解を深める。
6	文を解析するとはどういうことなのか考える。統語理論について解説する。文法を形式的に定義する。
7	形式言語の一つである文脈自由文法について解説する。簡単な文法から統語構造を作り出し、文脈自由文法による文の解析への理解を深める。文法的あいまいさについても話をする。
8	80年代に提案された言語理論について紹介する。ユニクエーション文法と機械処理の関係を考える。
9	Prolog という言語を用いて文解析する。構文解析を簡単な文について行う。
10	意味解析について解説する。格文法、結合価文法について講義する。
11	シソーラス、意味素性について解説する。機械で意味を扱うことへの理解を深める。
12	文脈処理について考える。文脈しなければいけない現象に何があるか、どうやって判断するか、どう扱うべきかについて考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	機械翻訳システムの原理について解説する。変換処理の問題を考える。構文構造や語彙の変換についてのべる。
2	言語を生成することについて解説する。
3	機械翻訳システムに触れて、その操作に慣れ親しむ。
4	機械翻訳システムの翻訳結果について考察する。また、処理能力について評価することを考える。翻訳システムの持つメリット・デメリットについて考える。
5	自然言語処理システムを評価する上で重要となるコーパスについて解説する。KWIC、関係データベースについて説明する。
6	自然言語理解について解説する。言語を理解することはどういうことなのかについて考える。質問応答システムや対話システムについて紹介する。
7	知識表現手法について勉強する。コンピュータ上で推論することについて説明する。
8	コンピュータを用いた教育システムについて紹介する。
9	音声認識技術、音声合成について講義する。機械で音声を扱うことについて考える。
10	文字認識、手話認識について講義する。
11	ソフトウェアの作り方（設計、コーディング、デバッグ、単体テスト、結合テスト）について概説する。コンピュータを理解する上で役に立つであろう。
12	マルチメディアを含め、コンピュータの未来について、ハードウェア、ソフトウェアについて解説する。知的財産権をめぐる法律問題についても解説する。
備考	

科目名	言語学特殊講義A (音の構造) 1 一般音声学 (旧)	担当者名	伊豆山 敦子
-----	--------------------------------	------	--------

講義の目標	人間の言語音の調音機構を観察し、その聴取の訓練を行なう。そして、その表記の方法を習得する。更に、音声はその言語で果たしている機能はどのようなものか、日本語を例として考える。この授業により、無意識に習得した自国語の音声に対する客観的な認識が得られることを期待する。	
講義概要	国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行なう。更に自国語の音声面に対する観察をし、音声の果たす機能に着目し、音韻論の基礎を学ぶ。各人が音声学的知識を持ち、音韻解釈ができるように、訓練を中心とした授業である。	
使用教材	テキスト	・風間喜代三、上野善道他『言語学』(1993) 東京大学出版会
	参考文献	・服部四郎『音声学』(1984) 岩波書店 ・川上泰『日本語音声概説』(1977) 桜楓社 ・城生伯太郎『音声学』アポロン工業社
評価方法	授業中に行なう単音聴取テストへの参加 前期・後期各一回の聴取テスト 後期末の筆期試験 以上の総合により評価する。	
受講者に対する要望など	実際の音を聴き取り発音するのは、一人ではむずかしい。授業で聴けばわかるものが休んでは教科書を読んでもわかりにくい。休まないことを要望する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明。言語音が同じとか違うとかいうのは何を意味するか。音声面の研究とはどのようなことか。
2	音声と音声学。音声学の分野。(p. 193—196)
3	音声器官と気流のおこし手。(p. 199—202)
4	発声と調音。(p. 202—207)
5	国際音声字母の母音の調音。(p. 218—220)
6	国際音声字母の子音の調音点と調音法。(p. 209—212) わたりと持続部。(p. 214—215)
7	両唇音
8	唇歯音
9	歯音
10	破擦音
11	硬口蓋音
12	復習とテスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期テストの発表と講評
2	軟口蓋音
3	口蓋垂音
4	ふるえ音、はじき音
5	側面摩擦音、側面接近音
6	鼻母音、接近音
7	日本語の音声表記。(p. 220—222)
8	音声表記の問題点。(p. 222—226)
9	日本語の音素体系。(p. 226—229)
10	音素設定の作業原則(1)。(p. 230—234)
11	音素設定の作業原則(2)。(p. 234—236)
12	復習とテスト
備考	

科目名	言語学特殊講義A (意味論) 2 言語学特殊講義A-1 (旧自)	担当者名	宗 宮 好 和
-----	-------------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>例えば、英語 must の「ねばならない」「にちがいない」といった「義務」や「確信」は意味論的カテゴリーであるモダリティ (modality) の例である。本講義では、モダリティとその言語表現手段 (法 mood、(話) 法助動詞 modals, Modalverben その他) について理解を深めることを目標とする。何やら難しい話のように思われるかもしれない。その通り、確かに理論的には難問である。しかし、英・独・仏そして日本語を使用する際にはかならず出くわす馴染みの現象である。参加者からの積極的な意見や質問を歓迎する。</p>	
講義概要	<p>文の意味は performative (行為遂行)、epistemic (認識)、propositional (命題) の3成分 (components) および前提と含意からなる。さまざまなモダリティの表現手段は3成分のどれかに位置づけられる。一方、命題に対する話し手その他の心的態度 (Einstellung) は (認識的) モダリティとは別のカテゴリーであり、認識部の他、前提や含意にも位置づけられる、とする。これを本講義の基本的コンセプトとして、これまでのモダリティに関する議論を批判的に概観する。そして、法、法助動詞、法副詞、(ドイツ語の) 心態詞、(日本語の) 陳述の副詞、終助詞などを考察する。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Die deutsche Sprache</i> (Das Modalsystem の章)、H. Brinkmann. (1962). Schwann. ・ <i>Semantics 2</i> (Chap. 16, 17), J. Lyons. (1977). Cambridge Univ. Press ・ <i>Modality and the English modals</i>, F. R. Palmer. (1979). Longman. ・ 『モダリティ』、山田小枝、(1990)、同学社
評価方法	<p>評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加度による。</p> <p>前期のレポート提出日：9月26日</p> <p>後期のレポート提出日：1月13日</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	モダリティとは何か、モダリティの言語表現にはどんなものがあるか、概略を示し、1年間の講義内容を説明する。
2	文意味論(1) G. フレーゲの意味論から今日の意味論にいたる文意味論を通観する。前提と含意の概念にも触れる。
3	文意味論(2) M. ビアヴィッシュの意味論の図式を示し、語の意味、文意味、発話意味、伝達意義の関係を説明する。
4	文意味論(3) 文の内容(命題)に対する(多くの場合話し手の)心的態度(Einstellung)といわれる概念とその具体的な例を説明する。
5	モダリティ(1) H. ブリンクマンの理論を概説する。命題内容の実現(Realisierung)に関わるRモダリティ(義務、許可等)と情報(Information)の確実性(断定、推測等)に関わるIモダリティについて説明する。
6	モダリティ(2) F.R. パーマーの義務モダリティ、認識モダリティ、起動的モダリティについて説明する。
7	モダリティ(3) J. ライオンズの行為遂行分析をふまえたモダリティの文意味論的記述方法を説明する。
8	モダリティ(4) 様相論理学(Modallogik)におけるモダリティの扱いをS. クリプキにみる。
9	モダリティ表現の統語論(1) 生成変形文法について概説し、諸理論における法(mood, Modus)、(話)法助動詞(modals, Modalverben)の扱いをみる。
10	モダリティ表現の統語論(2) (1)の続き。
11	モダリティの文意味論 performative, epistemic and propositional componentsの設定とモダリティに関わる文意味、発話意味、伝達意義を考える。
12	前期のまとめと課題の提示。後期の具体的事例の分析との関係を述べる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	法 (Modus) (1) ドイツ語の法 Modi (直説法 Indikativ, 命令法 Imperativ, 接続法 Konjunktiv I, II) をもとにして法の歴史を概観し、英・独・仏・日本語の Modus の比較対照をおこなう。
2	法 (Modus) (2) 法とモダリティの関係を概説する。
3	(話)法助動詞(1) G. ベッヒの Modalverben 論とパーマーの modals 論を紹介し、法助動詞の「語彙構造」をみる。
4	(話)法助動詞(2) J. ラインヴァインの Modalverb-Syntax の理論を解説する。
5	(話)法助動詞(3) 法助動詞とモダリティの関係を概説する。
6	法副詞(1) ドイツ語の wohl, vielleicht 等、法副詞の研究状況を紹介します。英・仏語の相当語および日本語の「陳述の副詞」を検討する。
7	法副詞(2) 法副詞とモダリティの関係を概説する。
8	心態詞(1) ドイツ語の doch, denn, nur 等、心態詞 (Abtönungspartikel) と呼ばれる語類を解説し、英・仏・日本語の相当表現を検討する。
9	心態詞(2) M. ドハティの心態詞の分析と意味記述の方法を解説する。
10	心態詞(3) 日本語の助動詞および終助詞を取り上げ、モダリティおよび心的態度の関係を検討する。
11	モダリティ表現の文意味論的記述をまとめる。
12	全体のまとめと課題の提示。
備考	

科目名	言語学特殊講義A（統語論）3 言語学特殊講義A-2（旧自）	担当者名	J. Whitman
-----	----------------------------------	------	------------

講義の目標	本講義では、生成文法の枠組の中の統語論・意味論について考えながら、学問的議論の組み立て方について学ぶことを目標とする。題材として主に英語と日本語からの統語論的現象を取り扱うが、両言語の data を通じて自然言語の普遍的性質について考える。		
講義概要	原則として英語と日本語を対比しながら話をすすめていくので、英語に関する講義と日本語に関する講義を交替で行う形となる。検討する言語現象の中、句構造、語順、代名詞の解釈、受け身文、関係節、疑問文、数量詞の解釈などが含まれる。		
使用教材	テキスト	Radford, A. (1988). Transformational Grammar Cambridge University Press. Whitman, J. and Yoshida, K. (in prep.) Introduction to Japanese Syntax and Semantics.	
	参考文献		
評価方法	1. 宿題 (problem sets) 2. 期末試験		
受講者に対する要望など	受講者は毎週かなり大量 (平均 60 ページ) を読まなければならない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1学期間の講義概要の説明をする外に、「文法規則」「文法理論」「文法制約」などの概念を紹介する。教科書：Radford 第1章
2	第2回目の授業では「文法規則」「文法制約」を、日本語からの例を以ってさらに追究する。
3	第3回目の授業では句構造における主な語い範ちゅう・句範ちゅうを分類し、文法範ちゅうの心理的現実性について考える。教科書：Radford 第2章
4	第4回目の授業では日本語の句構造の構成素を検討し、句構造の概念について理解を深める。教科書：Whitman and Yoshida 第1章
5	第5回目の授業では句構造規則を紹介し、句範ちゅうの内部構造、それから範ちゅうの一般性を考える。教科書：Radford 第3章
6	第6回目の授業では言語学で用いられる論理学について考える。
7	第7回目の授業では英語の名詞句構造について考える。教科書：Radford 第4章
8	第8回目の授業では、英語と対比しながら、日本語の名詞句構造について考える。教科書：Whitman and Yoshida 第2章
9	第9回目の授業では英語の動詞句・その他の句範ちゅうについて考え、句構造にかかるいくつかの制約を定義する。教科書：Radford 第5章
10	第10回目の授業では日本語における動詞句の存在、又動詞句その他の句範ちゅうで見られる英語との相異・類似点について考える。教科書：Whitman and Yoshida 第3章
11	第11回目の授業では英語の文（主文・埋め込み文）の構造について考える。不定詞節・定動詞節の違い、主語の省略などの現象を考える。教科書：Radford 第6章
12	第12回目の授業では、英語と対比しながら日本語の文構造を考える。教科書：Whitman and Yoshida 第4章
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では語い部門 (lexicon) の役割を検討し、語い間の意味論的關係について考える。教科書：Radford 第7章
2	第2回目の授業では日本語の複合動詞などの構造と派生について考える。教科書：Whitman and Yoshida 第5章
3	第3回目の授業では、英語・フランス語の動詞の移動、受け身文などの派生を調べて、変形規則の概念を紹介する。教科書：Radford 第8章
4	第4回目の授業では、日本語における変形規則の有・無について考える。動詞の位置、受け身文などを調べる。教科書：Whitman and Yoshida 第6章
5	第5回目の授業では、英語の疑問文や関係節などの構造・派生について考え、いわゆる wh 移動規則を紹介する。教科書：Radford 第9章
6	第6回目の授業では日本における「かけまぜ規則 (Scrambling)」を紹介し、日本語の語順について考える。教科書：Whitman and Yoshida 第7章
7	第7回目の授業では英語の変形規則 (移動現象) にかかる文法的制約について考える。教科書：Radford 第10章
8	第8回目の授業では日本語の疑問文と関係節の構造と派生について考える。教科書：Whitman and Yoshida 第8章
9	第9回目の授業では日本語と英語の数量詞の意味と文法について考える。
10	第10回目の授業ではさらに数量詞を調べながら、否定 (negation) とのかかわりについて考える。教科書：Whitman and Yoshida 第9章
11	第11回目の授業では日本語と英語を対比しながら両言語の疑問文について二度考える。教科書：Whitman and Yoshida 第10章
12	第12回目の授業では日本語と英語から見た言語の普遍性について考えて、1学期のまとめを行う。
備考	

科目名	比較文化論 比較文化論 (旧自)	担当者名	町田喜義
-----	---------------------	------	------

講義の目標	日本とカナダの社会や文化について、人々の様々な存在様式・行動様式や社会的事象を体系的に比較検討して、その差異と類似とを明らかにする。そして、近未来の日本における様々な異民族間の相克(?)を予測し、その解決策を探る。		
講義概要	<p>異民族・異人種が移り住んで理想の国家建設を目指して128年。カナダは今、自らが抱える異文化に悩んでいる。多文化主義を標榜し、『るつぼ』という神話を否定し、『モザイク』社会を採用した実験国家の過去と現在を知る。</p> <p>また、カナダがどのように日本をとらえているかを、ノースヨーク市(トロントに隣接)が開発した‘Cross-Cultural Communication through Japanese’を参照しながら日本の社会と文化について再検討する。</p>		
使用教材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	開講時に別紙配布する。	
評価方法	<p>試験(前期) : 30%</p> <p>グループ・リサーチ・プレゼンテーション(前期) : 20%</p> <p>グループ・リサーチ・プレゼンテーション(後期) : 20%</p> <p>グループ・リサーチ・ペーパー(後期) : 30%</p>		
受講者に対する要望など	<p>☆受講生数によって講義計画を変更することがある。</p> <p>☆グループ・リサーチやディスカッションを成功させるためには各自の責任と義務が要求される。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：講義概要説明（シラバス参照）、受講生調査：「異文化接触について」
2	グループ・プロジェクトおよび討議
3	「文化」、「社会」について
4	「比較」の概念、比較文化論の諸側面
5	諸文化の相互嵌入：接触・交流・伝播・変容
6	諸文化の相互嵌入：討議
7	日本文化（社会）論：異文化学習の理論的枠組み
8	日本文化（社会）論：文化形成の制約、文化とその表出
9	日本文化（社会）論：価値の葛藤、日本語と英語の比較および討議
10	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
11	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カナダ文化（社会）への誘い：「カナダについて」受講生調査など
2	カナダ人とアメリカ人の価値観：自由・多元主義・相対主義・個人主義
3	討議：「坩堝」と「モザイク」、自由・多元主義・相対主義・個人主義
4	カナダ文化（社会）の諸側面
5	カナダ文化（社会）の諸側面
6	カナダ文化（社会）の諸側面
7	討議：日本・カナダ比較
8	グループ・プレゼンテーション
9	グループ・プレゼンテーション
10	グループ・プレゼンテーション
11	グループ・プレゼンテーション
12	エピローグ：自文化の最確認
備考	

科目名	地域文化研究（現代英米社会研究）1	担当者名	有吉広介
-----	-------------------	------	------

講義の目標	英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。	
講義概要	かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて英国社会を生みだした。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー層である。この層の中核をなす人びとは、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送りだされて英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってもらいたい。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時指示する。
評価方法	前・後期の終りに求めるレポートにて評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英国におけるミドルクラスの現状
2	産業革命前後のミドルクラス
3	古典的ミドルクラスの性格
4	前回に続く
5	古典的ミドルクラスの文化
6	新しいミドルクラスの出現
7	現代におけるブルジョア階級の衰退
8	専門経営層の確立
9	前回に続く
10	中間管理者層の出現と社会的地位
11	前回に続く
12	新旧の専門家層
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前回から続く
2	実業家層の現状
3	事務労働者の階級状況
4	前回に続く
5	ミドルクラスの家生活
6	前回に続く
7	ミドルクラスと教育
8	前回に続く
9	ミドルクラスと余暇
10	ミドルクラスの政治的関心
11	ミドルクラスと政治リーダー
12	まとめ
備考	

科目名	地域文化研究（熱帯雨林の生態と開発問題）2 人文地理学（旧）	担当者名	犬井 正
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならぬ。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか、なにが適切な解決策かなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR、スライドなども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』（1994、農林統計協会）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』（1993、築地書館） ・ジョン・C・クリッチャー著：『熱帯雨林の生態学』（1992、どうぶつ社） ・四手井網英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』（1992、人文書院） ・環境庁「熱帯雨林保護検討会」編『熱帯雨林をまもる』（1992、NHK ブックス） 	
評価方法	前期、後期1回ずつの定期試験による。		
受講者に対する要望など	特になし		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊的か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	熱帯雨林破壊による生物学的多様性の損失。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科 目 名	地域文化研究（ラテンアメリカ歴史文化論）3 比較文化論特殊講義A-1（旧自）	担当者名	清 水 透
-------	---	------	-------

講義の目標	この講義には主として2つの目標がある。そのひとつは、わが国ではいまだ未知の分野に もちかいラテンアメリカ世界の歴史に接近し、新たな価値を発見すること。もうひとつは、 その発見をつうじて、私達が無意識のうちにかんじがらめになっている価値観・歴史観を、 根底から問いなおすことである。		
講義概要	コロンブスの「発見」を近代世界の成立の原点としてとらえ、その「発見」から現代にい たるラテンアメリカの歴史から、いくつかのテーマを選び出し、近代世界を逆照射する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義初日に参考文献一覧を配布	
評価方法	講義に関するコメント（毎回提出・字数内容は自由・用紙B5） レポート（前・後期各1回・400字×5～10枚・用紙B5） 筆記試験（学年末）		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	I 今なぜラテンアメリカか ① 自分史と「地域研究」：a)「客観性」と西欧〈知〉 b)研究者と研究対象
2	② 現代を捉える視点：a)1970年代と「近代」 b)差異化の実相 c)歴史主体の再検討
3	③ ラテンアメリカ研究の現状 ④ ラテンアメリカの地域区分
4	II 「発見」の世界史的意味・現代的意味 ① ヨーロッパの自己発見：「中心」の自然観・野蛮観の成立
5	② 外延的他者化と内延的他者化：世界システム論・近代化論再考
6	③ アメリカ大陸と重層的他者化の構造
7	III 征服と植民地社会 ① 植民地都市の形成と空間再編の実相 a) 征服以前の中心＝周縁関係と征服
8	b) インディオ社会の再編と「エスニック集団」の創造
9	c) インディオ社会の再編とカトリック教会
10	d) 都市空間＝再編インディオ社会空間＝未征服空間
11	② 抵抗の諸形態と意識集団の自己再編 a) 武力による抵抗：インディオ反乱／黒人奴隷の反乱
12	b) “逃亡社会”の拡大：未征服空間の拡大／逃亡奴隷社会 c) 「共生」という名の抵抗：カトリシズムの再編と神意識の変容
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	IV 「近代化」とエスニシティー ① 統合と「野蛮」の脅威：シモン・ボリバルの独立思想を手がかりに
2	② 近代化法制と秩序意識 a) 近代化法制と「村」の秩序意識
3	b) 権威の崩壊とインディオ反乱
4	③ 国家領域の確定とエスニシティー a) 外資・外国人移民によるクリアランス
5	b) 資本の論理・祭りの論理：ドイツ系コーヒー・プランテーションと季節労働者
6	④ 「国民国家」の形成とエスニシティー
7	V 現代のラテンアメリカから見えるもの ① 統合化の自己矛盾 a) 行政村化と〈村〉空間
8	b) 文化的統合化と〈村〉の自己再編 ② 移動と都市の〈インディオ化〉 a) 日常的移動と非日常的移動
9	b) プロテスタントの流入とインディオの移動
10	c) プロテスタントとカルゴ・システム d) 都市にとってのインディオ、村にとっての離村インディオ
11	③ 境界領域（フロンティア・スペース）としての移動集団 a) 移動集団の自律性・主体性：〈村〉〈都市〉を規定する移動集団
12	総括 一年間の講義の論点のまとめ
備考	

科目名	地域文化研究（ヨーロッパ近代とイスラーム世界）4 比較文化論特殊講義A-2（旧自）	担当者名	奈良本 英 佑
-----	--	------	---------

講義の目標	<p>危機の時代ともいべき現代においてイスラーム世界が直面している諸問題の理解を目指す。とくに、近代ヨーロッパと、同時代の中東イスラーム世界を対比し、後者が前者からの挑戦に対してどのように応答したかを見る。このようにして、近代合理主義と呼ばれる文化のシステムと、イスラームと呼ばれるそれとの間の相異、相互関係が分かってくるだろう。そうすれば、今日のいわゆる「イスラーム原理主義」と呼び慣されているもののすべてが、必ずしも狂信者の迷いごとばかりとは限らないことも理解されよう。</p>	
講義概要	<p>前期は、主として、オスマン帝国の成立から解体までに至る中東の歴史と、西ヨーロッパの近代史を講義する。中東世界とヨーロッパ世界の力関係が逆転するのは17C末だが、この逆転によって「東方問題」と総称される一連の国際紛争が発生する。前期の講義は、この東方問題を軸とした東西関係史という性格を持つだろう。後期は、この2つの世界の思想、イデオロギーを取り扱おう。近代合理主義とは何か、それはいかにして生まれ発展したのか。それがイスラーム世界の思想にどのようなインパクトを与えたのか、イスラーム世界のエリートたちはどのように反応したか。こうしたことが講義のテーマとなるだろう。</p>	
使用教材	テキスト	とくに指定しない。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・秀村欣二編『西洋史概説』（東京大学出版会） ・ S. J. Shaw, <i>History of the Ottoman Empire and Modern Turkey</i> (2 vols), Cambridge UP, 1976~7. ・ B. Lewis, <i>The Emergence of Modern Turkey</i>, Oxford UP, 1961. ・ A. Hourani, <i>Arabic Thought in the Liberal Age, 1798-1939</i>, Oxford UP, 1962. ・ N. Berkes, <i>Development of Secularism in Turkey</i>, McGill UP, 1964.
評価方法	<p>評価は、前期と後期各1回の試験による。場合によっては、後期1回、レポート提出を求める。</p>	
受講者に対する要望など	<p>世界史について、高校生程度の常識があることを前提に講義する。異文化に対する興味を持つ諸君の受講を歓迎する。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	〔イントロダクション〕地中海をはさんだヨーロッパと中東との間の交易・文化の伝播について。
2	〔オスマン帝国の発展〕13世紀末、アナトリアの一角に生まれた、イスラーム戦士集団の小侯国が、いかにして世界最強国に発展し、ヨーロッパを脅かしたか。
3	〔オスマン帝国の衰退〕このイスラーム帝国は16Cを絶頂期として、以後は衰退に向かう。その政治的・経済的諸原因について論じる。
4	〔オスマン帝国の社会構造〕異教徒から改宗したエリート奴隷たちが文武の支配機構の中枢を占めた、ユニークな帝国の組織と構造について。
5	〔産業革命〕ヨーロッパにおける農業革命、商業革命、産業革命の関係。ヨーロッパ近代の経済基盤は如何に形成されたか、イギリスを中心に論じる。
6	〔産業革命②〕同上。他地域への伝播などにも触れる。
7	〔市民革命〕ヨーロッパにおける経済発展、都市の形成、絶対主義を経て市民革命に至る政治過程について、フランスを中心に論じる。
8	〔帝国主義と東方問題〕産業革命と市民革命を経て力を蓄えたヨーロッパ列強と、衰退期のオスマン帝国との関係について。
9	〔オスマン帝国の近代化①〕スルタン、セリムⅢ、マハムートⅡによる近代化の着手について。
10	〔オスマン帝国の近代化②〕“Tanzimat”と呼ばれる、エリート官僚主導の近代化改革について。
11	〔青年トルコ革命〕さらなる近代化によりオスマン帝国の再生を目指したこの革命が、なぜ帝国の分解をもたらしたかについて。
12	〔ケマリスト革命〕オスマン帝国の腐蝕のなかから、近代的な国民国家建設を目指して創られたトルコ共和国について、それを指導したケマリストたちの政治思想と政策を論じる。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	〔ルネサンスと宗教改革〕復古運動としてはじまったルネサンスと宗教改革が、なぜ「近代」の萌芽をつくり出したのか。
2	〔近代合理主義①〕理神論を中心に、「神」観、宗教観の転換がいかにして近代的な自然観・社会観を導いたかについて論じる。
3	〔近代合理主義②〕近代自然科学、社会科学はいかに生まれたか。
4	〔ナショナリズム〕近代ヨーロッパが生み出した、非合理的なイデオロギーであるナショナリズムとは何か。
5	〔イスラームとは何か〕イスラームは、どのような政治的・文化的背景から生まれたか。預言者・政治家としてのムハンマドの役割、イスラーム法の成立などについて。
6	〔イスラーム改革運動①〕近代イスラーム改革運動の特徴は何か。復古運動として始まった改革は、新しい思想を生み出したのか。改革者たちは、理性と啓示の関係をどのように捉えたかなどについて。
7	〔イスラーム改革運動②〕先駆者としての at-Tahtawi, Khayr ad-Din, al-Afghani の思想と行動。
8	〔イスラーム改革運動③〕Muhammad Abduh と Rashid Rida について。
9	〔イスラーム改革運動④〕イスラーム近代主義 (tajdid) と青年オスマン人運動について。
10	〔アラブ・ナショナリズム〕イスラーム改革運動とアラブ・ルネサンスの結合から、いかにして新しいナショナリズムが生まれたか。
11	〔トルコ・ナショナリズム〕オスマン帝国の中央集権化を目指した改革運動から、聖俗分離の原則に立つ新しいナショナリズムがいかに生まれたか。
12	〔近代化とイスラーム復興運動〕中東イスラーム世界における近代化の実験は成功したのか。現代のイスラーム復興運動は何を目指しているのか。
備考	

科目名	地域文化研究（戦後冷戦史の展開）5 国際政治史（旧自）	担当者名	深谷満雄
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	戦後国際政治を長期にわたって支配した東西「冷戦」の実相を明らかにし、「冷戦」の発生と消滅の意義についての正しい理解を目指す。	
講義概要	冷戦の起源に関する解釈から説き起こし、NATO、ワルシャワ条約機構の成立により戦後のヨーロッパが東西に完全に分断されるまでの経緯について概観する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	講義の都度指示する。
評価方法	原則として学年末の論文形式の筆記試験による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要と授業方針について説明する。
2	「冷戦」の起源に関する三つの解釈——「正統的」、「修正主義的」、「中間派的」——を扱う。
3	「冷戦発生史におけるポーランド問題」として、ソ連と亡命ポーランド政府との関係が断絶した1943年4月までの時点を扱う。
4	同じく、1945年2月のヤルタ会議での討議と決定を扱う。
5	同じく、ヤルタ会議後この問題をめぐりアメリカの対ソ態度が硬化しはじめた模様について述べる。
6	「冷戦」発生のもう一つの大きな原因としてのドイツ問題につき、戦後ドイツが米英ソ仏4カ国によって分割された事情について述べる。
7	ポツダム会議および管理理事会で決定・作成された「ドイツ産業水準計画」を取り上げる形で、米ソ関係変化の推移を追う。
8	第7週と同じ。
9	第7、第8週と同じ。
10	第7、第8、第9週と同じ。
11	第7、第8、第9、第10週と同じ。
12	レポートの課題、提出期限等について説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「冷戦」を公式に宣言したとされる1947年3月のトルーマン・ドクトリンを取り上げ、その内容、意義づけ、宣言が出された背景について述べる。
2	第1週と同じ。
3	対ソ「封じ込め」の意義をもったヨーロッパ復興計画＝マーシャル・プランの発表経緯、およびその具体化について述べる。
4	第3週と同じ。
5	東側に対抗的な軍事同盟として1948年3月結成されたブリュッセル条約の締結経緯およびその内容について述べる。
6	第5週と同じ。
7	西側12カ国による一大軍事同盟機構 NATO（＝北大西洋条約機構）の成立事情について述べる。
8	第7週と同じ。
9	「ベルリン封鎖」危機の発生、その進行、およびドイツ分裂を取り上げる。
10	東西ドイツの成立から1950年代半ばに至る西ヨーロッパ統合の動き、および東側におけるワルシャワ条約機構結成の動きについて概観する。
11	第10週と同じ。
12	一年間の授業についての「まとめ」を行い、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考	

科目名	地域文化研究 (中洋 (ネパール・インド・チベット) の社会と文化) 6	担当者名	三本 茂
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	最近では、地域や異なった文化の間でひとの交流が盛んである。体験を基にして地域に特有の文化のあり方と相互の交流について考えたい。		
講義概要	<p>地域としてネパール・インド・チベットを主に取り上げ、これらの地域と西洋文化との交流のありようを探検の歴史とからめて取り上げる。</p> <p>また、アジアと呼ばれている地域の文化的特徴はどんなものであるかを考えてみる。</p> <p>こうした知識を得るための方法としてフィールドワークの技術について述べ、各自で実際にレポートを作成する。</p> <p>最後に、いくつかのレポートを報告してもらい、授業の参加者相互で討議をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義の途中でその都度紹介する。	
評価方法	レポートの提出、期末の筆記試験により行なう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ネパール・インド・チベットで考えたこと。
2	ネパールの社会・文化・人間(1)
3	ネパールの社会・文化・人間(2)
4	ネパールの社会・文化・人間(3)
5	ネパールの社会・文化・人間(4)
6	ネパールの社会・文化・人間(5)
7	ネパールの社会・文化・人間(6)
8	インドの社会・文化・人間(1)
9	インドの社会・文化・人間(2)
10	インドの社会・文化・人間(3)
11	インドの社会・文化・人間(4)
12	インドの社会・文化・人間(5)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チベットの社会・文化・人間(1)
2	チベットの社会・文化・人間(2)
3	チベットの社会・文化・人間(3)
4	チベットの社会・文化・人間(4)
5	文化交流としての探検(1)
6	文化交流としての探検(2)
7	文化交流としての探検(3)
8	課題についての報告(1)
9	課題についての報告(2)
10	課題についての報告(3)
11	東と西をつなぐ中間地域(1)
12	東と西をつなぐ中間地域(2)
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（日本の民俗芸能）1 日本文化特殊講義A-1（旧自）	担当者名	飯島一彦
-----	---	------	------

講義の目標	日本人の生活の中に息づく芸能、すなわち民俗芸能は、現在でも日本の各地で伝承され演じられている。そこでは、長い年月の中で培われた日本の民衆の生活感覚や価値観が、現在でも濃厚に感じ取れる。表面的にはアメリカナイズされたごとくに見えて、モダンな我々日本人の生活は、実は、一皮めくれば千数百年以前の日本人の精神生活と同質の原理によって、多くは支配されているのだが、それを体感的知識として手に入れ、考えることを目標とする。	
講義概要	私が現地で取材し、実写したビデオを中心にして、民俗芸能の映像を見ながら、それを題材とした講義を進める、常日頃のフィールドワークの成果をもとにするので、扱う民俗芸能自体は未定である。できれば、クラスでフィールドワークを行ないたい。また夏期休暇中には各自のフィールドワークを課する。後期は、それをもとに発表形式の授業をする。	
使用教材	テキスト	・『日本の伝統芸能』錦正社
	参考文献	・『日本の歴史と芸能』平凡社 ・その他、教室で指示する。
評価方法	夏期休暇中のフィールドワークのレポート、及び冬期休暇中の課題レポート。提出しない者は評価の対象としない。	
受講者に対する要望など	授業の一環として行なうクラスのフィールドワークに必ず参加すること。もちろん各自のフィールドワークもしなければならぬので、手間暇を惜しまず身体を動かし、文献を読み、調査する根気と体力が必要。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス、民俗芸能とは①
2	民俗芸能とは②
3	
4	
5	
6	
7	時宜に応じて、ビデオを用いて講義。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期中に1回、課外でフィールドワークを行なう。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期課題（各自のフィールドワーク）について、各自報告。
2	
3	
4	
5	
6	時宜に応じて、ビデオ等を用いて、講義又は発表。
7	
8	
9	
10	
11	
12	一年間のまとめ。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（カリブ海の民族と文化）2	担当者名	井上兼行
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	日本からは、政治・経済・文化などあらゆる面で最も遠いカリブ海域の民族と文化について、その特質を概略知る。		
講義概要	カリブ海域は他地域には類を見ない独特の歴史をもち、それを基礎に民族と文化が築かれている。そこでまずその歴史をある程度時間をかけて明らかにし、その上に築かれた民族及び言語について述べ、その後いくつかのテーマでその文化の特質を述べる。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	登録人数による。		
受講者に対する要望など	私の専門は文化人類学であり、したがってカリブ海域についてもそれに基づいた講義をおこなっている。その意味で“文化人類学”の単位を取っていることが望ましい。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	序—カリブ海域概観
2	カリブ海域小史 (1)コロンブス到来。スペイン人による支配
3	カリブ海域小史 (2)16C後半英・仏などの新興勢力の侵入、植民地化。 アフリカ黒人奴隷の労働による砂糖 きびプランテーション経営を通しての繁栄
4	カリブ海域小史 (3)砂糖貿易衰退、奴隷の勢力増加。その一つの象徴としてのハイチ独立。
5	カリブ海域小史 (4)19C前半～奴隷制廃止、外国からの労働力輸入。そして複雑な民族社会へ。
6	民族構成からみたカリブ海域社会 (1)
7	(2)
8	(3)
9	(4)
10	(5)
11	複雑な言語、また複雑な言語構成 (1)
12	(2)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	(3)
2	カリブ海域社会で最もにぎやかな場所=マーケット (1) } (2) } (3) } ジャマイカ及びセントルシアについて (4) } (5) }
3	
4	
5	
6	
7	社会の基礎としての“家族”——その特色である母中心家族について (1)
8	(2)
9	(3)
10	最も興奮する行事=祭について (1) } (2) } カーニバルほか独特の祭について (3) }
11	
12	
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（日本古代文学）3 日本文化特殊講義A-2（旧自）	担当者名	北村 進
-----	--	------	------

講義の目標	わが国の古典作品を読み味わうことによって、当時の人たちのものの考え方や感じ方を理解する。その当時の文化を知るにはその当時書かれたものを読むのが一番だからである。本講座では主として上代の文学作品を取り上げる。上代の文学は文学の始原である。洗練されない生の部分が多く含まれている。飾らない人間の姿がそこにある。		
講義概要	主として上代の文学作品を江戸時代の版本で読む。版本には活字本には無い暖かさがあるように思われる。具体的には古事記（上巻）は本居宣長『神代正語』、万葉集は賀茂真淵『萬葉考』・加藤千蔭『萬葉集略解』、伊勢物語は北村季吟の『伊勢物語拾穂抄』、古今集は本居宣長『古今集遠鏡』などである。いずれも変体仮名で書かれているので、変体仮名を読む勉強にもなるはずである。		
使用教材	テキスト	なし。その都度プリントして渡す。	
	参考文献	『変体かな字典』 榑おうふう	
評価方法	未定。出席を重視する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明し、取り上げる文献について解説する。
2	古事記神代の巻を『神代正語』によって読む。第一回目は「神世七代」から「国生み」までを読み、解説する。日本の国の誕生について考察する。
3	第二回目はひき続き「黄泉国訪問」を読み、解説する。説話の型について考察する。
4	第三回目は「八俣の大蛇退治」を読み、解説する。大蛇退治の意義について考察する。
5	第四回目は「木花之佐久夜毘売」を読み解説する。一夜妊み、火中出生について考察する。
6	第五回目は「海宮訪問」を読み、解説する。異郷訪問、失われた釣針について考察する。
7	万葉集を取り上げる。『萬葉考』によって万葉集を概観する。
8	『萬葉集略解』によって万葉集の歌を読む。初期万葉の歌。
9	『萬葉集略解』によって万葉集の歌を読む。宮廷歌人の歌。
10	『萬葉集略解』によって万葉集の歌を読む。大伴旅人・山上憶良の歌。
11	『萬葉集略解』によって万葉集の歌を読む。大伴家持の歌を中心に。
12	『常陸国風土記』を読む。那賀郡茨城里に伝わる話を取り上げ、異類婚説話について考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	『出雲国風土記』の「国引き」の条を読む。「国引き」と巨人伝説について考察する。
2	伊勢物語を『伊勢物語拾穂抄』によって読む。「初冠」の段。
3	伊勢物語を『伊勢物語拾穂抄』によって読む。「東下り」の段。
4	伊勢物語を『伊勢物語拾穂抄』によって読む。同上。
5	伊勢物語を『伊勢物語拾穂抄』によって読む。「筒井筒」の段。
6	伊勢物語を『伊勢物語拾穂抄』によって読む。同上。
7	古今集を『古今集遠鏡』によって読む。四季の歌。
8	古今集を『古今集遠鏡』によって読む。恋の歌。
9	古今集を『古今集遠鏡』によって読む。その他の歌。
10	百人一首を『宇比麻奈備』によって読む。
11	百人一首を『宇比麻奈備』によって読む。
12	百人一首を『宇比麻奈備』によって読む。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（東西文化比較）4 西洋文化特殊講義A-1（旧自）	担当者名	近衛秀健
-----	--	------	------

講義の目標	<p>地上の生活がおしなべて均質化している現代、ことさらに西洋文化をあげつらう必要はない。しかし今日のわれわれの繁栄も動乱もその遠因は植民地主義華やかなりし19世紀、先進国と称していた西欧諸国の独善的な政策にあったことは明らかである。いたずらにその後追いつくのが日本のとるべき道ではない。彼等の正体を客観的に分析、覇者のいなくなった21世紀に対処するのが急務ではあるまいか。</p>		
講義概要	<p>今、われわれは情報過剰の状態にいる。毎日報道されるのは面白おかしく誇張された最新ニュースであるが、これはものの結果なので、そこから原因を読みとれないと次の手がうてない。西洋を識ることによってこの真相を割り出そうとするものである。</p>		
使用教材	テキスト	必要なれば配布する。	
	参考文献	特に用意しなくていい。	
評価方法	<p>レポートを課す。20才前後は人間の精神の開花期である。周囲の状況を見つめ、これを自分に反映された時、若い新鮮な思想が生れる筈である。他人の猿マネでない文章が紙面に躍るような個性あふれたものを期待する。題目は社会情勢をみて各期末に出す。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	その折々の Hot な話題、又日本人が誤解しやすい、或いは誤解している事柄をとりあげ一回完結の講義を行なう。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(南から見る南北アメリカ関係)5 時事問題研究特殊講義A-2(旧自)	担当者名	佐藤 勘治
-----	---	------	-------

講義の目標	(新) 比較文化論特講(副題: 南からみる南北アメリカ関係) 第一の目標は、ラテンアメリカ・カリブ海域の現状をその歴史的背景とともに知ることである。高校で世界史および地理を学ばなかった学生がいること、およびその内容の偏重を考慮して、ラテンアメリカに関する基礎的知識の習得に重点を置く。第二の目標は、米国とラテンアメリカがぶつかりあう地域「米・メキシコ国境地帯」について現状と歴史を学び、北米自由貿易協定時代における多民族・多文化社会の今後を考えていきたい。米・ラテンアメリカの外交関係を論じるのではないので注意していただきたい。	
講義概要	米国もラテンアメリカも、その歴史をたどれば、植民地として成立し、30年から40年の差があるものの同時期に独立を果たしたなど、多くの共通性がある。しかし、我々の常識では米国とラテンアメリカが本質的に共通な性格を持つものとは理解されていない。ラテンアメリカ、特にカリブ海・中米地域から北のラテンアメリカは19世紀半ばから米国の圧倒的な影響下に置かれた。現在のラテンアメリカは、米国の影響を無視して理解することはできない。一方、米国もラテンアメリカの存在と切り放して理解することはできない。後者に関して一般的には無視されることも多いが、米・メキシコ国境地帯に焦点をあてることでラテン化が進む米国についても再考する。	
使用教材	テキスト	特に指定しない。プリントを配布する予定である。
	参考文献	
評価方法	出席と授業での発言を重視する。レポートを前後期二回提出してもらう。	
受講者に対する要望など	一方的授業にはしたくないと考えている。学生の積極的参加を望む。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	NAFTA時代のラテンアメリカと米国 /北米自由貿易協定NAFTAとは/サパティスタ国民解放軍の意味するること/米国における多文化主義の見直し
2	民族の誕生(1)インディオとメスティーソ+クレオール /リゴベルタ・メンチューー/民族とはなにか/植民地社会、19世紀および現代におけるインディオとメスティーソ/クレオール
3	民族の誕生(2)ラティーノ /米国におけるラティーノの形成過程/現代米国でのラティーノの位置/アストラン
4	米メキシコ国境の町 /ティファナ/シウダ・ファレス 以上4回が導入である
5	ラテンアメリカの独立 /ハイチの独立/グアダルーベの聖母とメキシコの独立/サンマルティン/ボリバル/ブラジルの独立
6	ラテンアメリカの19世紀 /保守派と自由主義派/輸出経済の形成/自由貿易帝国主義
7	現代のラテンアメリカ /軍政の時代/チリ革命/民主化へ 以上3回でラテンアメリカ史の概観をつかむ
8	米・メキシコ関係史(1) テキサス共和国の独立
9	米・メキシコ関係史(2) 米墨戦争
10	米・メキシコ関係史(3) メキシコ革命 国境地帯のメキシコ革命 ビージャ
11	日本におけるラテンアメリカ研究の現状 主要文献の紹介
12	予備：レポートの課題について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	米国の裏庭(1) 中米・カリブ海地域の形成と米西戦争
2	米国の裏庭(2) キューバ革命とプエルトリコ
3	米国の裏庭(3) パナマ建国の経緯 ニカラグア革命
4	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(1) 1906年カナネア銅山ストライキ
5	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(2) ジェロニモ追討 カヘメとヤキ戦争
6	世紀転換期の米メキシコ国境地帯(3) メキシコ自由党とカリフォルニア半島
7	米墨国境地帯への人の移動 マキラドーラ 「世界都市」の形成と生産の国際化(サッセン)
8	メキシコ体制の形成 コーポラティズム国家とは
9	NAFTA時代のメキシコ メキシコ体制は崩壊するのか
10	まとめ 南北アメリカの総合的理解をめざして
11	予備：後期レポートの課題について
12	予備
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（能楽における中世武士の諸像）6 日本文化特殊講義A-3（旧自）	担当者名	瀬尾菊次
-----	---	------	------

講義の目標	<p>日本の古典芸能である『能楽』を、歴史・能舞台・作品・役割・能装束などに分けて解説し、その実際を理解していく。</p> <p>また、昔より伝わる生活行事・しきたりなどを通して、日本人の風習を考えてみる。</p>		
講義概要	<p>舞台芸術である『能楽』を単に文書で理解するのではなく、悲劇の英雄としていろいろな伝説を生んだ『源義経』の生涯にそくした曲目（ドラマ）を題材として、ビデオ・舞台を鑑賞しながら解明していく。</p>		
使用教材	テキスト	<p>関連資料のコピーを授業時に配布する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前・後期各1回のレポートで決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間講義のあらまし。
2	能楽を演じる流儀・各役について。
3	能の現行曲・五番立てと『義経』の関連曲について。
4	五節句のはなし、そのⅠ
5	能舞台について。
6	義経の伝記・幼少年時代。『鞍馬天狗』を題材として。
7	各役の登場のしかた、舞事について。
8	能の作品の構成 夢幻能と現在能
9	義経の伝記 はじめての奥州下り。『烏帽子折』を題材として。
10	義経の伝記 弁慶との出会い。『橋弁慶』を題材として。
11	現代の能役者・薪能について。
12	前期のまとめ、レポート課題発表。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	能の題材について。
2	義経伝記 平家追討、『八島』を題材として。
3	ころもがえについて。
4	義経の伝記 西国への逃避行。『舟弁慶』を題材として。
5	五節句のはなし、そのⅡ
6	冠婚葬祭に関するしきたり。
7	能の歴史について。
8	能の装束について。
9	人生行事に関するしきたり。
10	義経伝説 奥州への逃避行 『安宅』を題材として。
11	舞台鑑賞するにあたって。
12	前・後期のまとめ。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（ユダヤ教の歴史）7 西洋文化特殊講義A-2（旧自）	担当者名	高橋正男
-----	---	------	------

講義の目標	<p>唯一神ヤハウェ信仰を民族共同体存続の基本原理とするユダヤ人という名を冠せられる宗教的・民族的共同体は紀元前6世紀のバビロニア捕囚をとおして初めて成立し今日に至っている。したがってバビロニア捕囚前のヤハウェ信仰（古代イスラエルの宗教）をユダヤ教と呼ぶことは誤りである。本年度はユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を多面的・立体的に理解させることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>ユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を時間の許す範囲で古代から現代までを扱う。講義は平明・概説的・重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義概要は別紙シラバスを参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・滝川義人著『ユダヤを知る事典』東京堂出版、1994年 ・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』（第2刷）時事通信社、1994年 	
	参考文献	<p>随時紹介する</p>	
評価方法	<p>学年末のレポートもしくは筆記試験および出席回数によって決める。少人数の場合はゼミナール形式で行う。</p>		
受講者に對する要望など	<p>*在外研修のため5月第2週から開講</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本人とユダヤ人
2	日本におけるユダヤ教史研究瞥見
3	ユダヤ教史研究の基本史料(1)
4	ユダヤ教史研究の基本史料(2)
5	儀礼とユダヤ教暦(1)
6	儀礼とユダヤ教暦(1)
7	古代イスラエルの宗教(1)
8	古代イスラエルの宗教(2)
9	ヤハウェ信仰の継承—ユダヤ人共同体の成立—(1)
10	ヤハウェ信仰の継承(2)
11	ラビのユダヤ教(1)
12	前期のまとめ・VIDEO
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラビのユダヤ教(2)
2	ユダヤ教の諸党派(1)
3	ユダヤ教の諸党派(2)
4	ユダヤ教の展開(1)
5	ユダヤ教の展開(2)
6	ユダヤ教の展開(3)
7	現代ユダヤ教の諸問題(1)
8	現代ユダヤ教の諸問題(2)
9	儀礼とユダヤ教暦(3)
10	儀礼とユダヤ教暦(4)
11	ユダヤ人の食文化考
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（比較教育）8	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	-------------------	------	---------

講義の目標	<p>本講義は自然観の相違が宇宙観・世界観や人間観、ひいては教育観にどのような違いをもたらすかを、教育思想の観点から比較的に考察する。この考察を通して、現在の教育にも通底する自然観を明らかにし、かつ変化する地球環境の中での人間の教育を方向づける新しい自然観を探究することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>西欧文化の源流である古代ギリシアの思想から、自然科学が支配的な現代思想に至る歴史的過程の中に、代表的な自然観をとり挙げてその変遷を概観する。同時にそれぞれの自然観を代表する教育思想について考察し、教育思想における自然主義の教育についての理解を深めたい。</p> <p>進化論が登場したことで「生命」という概念が導入された19世紀以後の自然観や地球環境との「共生」をさぐる自然観から支持される教育についても考察し、理解を深めたい。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『自然の観念』、R、G、ユリングウッド著 みすず書房 ・『いま自然をどうみるか』 高木仁三郎著 白木社 ・『教育思想史』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ 上智大学中世思想研究会編、東洋館出版 	
評価方法	<p>評価は、定期試験とレポート提出の二種類で決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方と参考文献について説明する。自然観を考察する今日的意義と重要性について述べる。
2	古代ギリシアの自然観と教育 (1)神話にみられる自然観……ゼウスとプロメテウスの対立について
3	(2)イオニアの自然哲学における自然観……自然の事物と自然界
4	(3)ピュタゴラス学派の自然観……自然における質的な相違と幾何学的構造の相違
5	(4)プラトンとカリクレスの自然観の比較……「自然に従って」と「自然に反して」
6	(5)「模倣」(ミメシス)と「分有」(メテクシス)について……「バラ」はそれ自身の中に赤をもつことによるのみ赤を模倣しうる
7	(6)プラトンの教育論……『国家』編から
8	(7)アリストテレスの自然観……自然それ自体は過程であり、変化であり、成長である。
9	(8)アリストテレスの教育論……「すべての人間は、自然によって(生れつき)知ることを欲する」
10	古代キリスト教の自然観と教育 (1)ユダヤ思想にみられる自然観
11	(2)アウグスティヌスの自然観……「三位一体論」について
12	(3)アウグスティヌスの教育論……「ペルソナ」について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ルネッサンス期の自然観と教育 (1)コペルニクスの自然観……世界は中心をもたない
2	(2)南イタリアの自然哲学者にみられる自然観……不動の動者としての超越的な神ではなく、内在的動者としての神性の発見
3	(3)ルネッサンス期における教育と自然観
4	17世紀の自然観と教育 (1)ガリレオとデカルトにおける近世機械論的自然観……科学的知識の対象としての自然と主観としての人間
5	(2)リアリズムの教育と自然観……「客観的自然」と汎知学
6	18世紀の自然観と教育 (1)ルソーにおける自然観とフランス啓蒙思想……「心理的自然」について
7	(2)ルソーの教育論……「自然主義」の教育思想
8	(3)カントにおける自然観……科学的認識の根拠づけと目的論について
9	(4)カントの教育論……「強制」において「自由」を養う
10	現代の自然観と教育 (1)生物としての自然……生命は新しいものの出現に至る創造の過程
11	(2)ゲーレンの人間学における自然観
12	(3)現代教育思想の課題としての自然観
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (パロディーが作り出す日本文学の伝統) 9 日本文化特殊講義A-5 (旧自)	担当者名	中村文
-----	--	------	-----

講義の目標	<p>平安時代後期に成立したとされる『堤中納言物語』を読んで、慣習、行事、人々の交流のあり方など、日本の王朝的な生活様式に触れるとともに、それまでに成立していた物語や和歌との影響関係を検討して、先行作品を引用することにより伝統を継承しつつ発展してきた日本の古典文学の特性について考え、さらに摂関体制の崩壊に伴う王朝的価値観の変化と文芸との関連についても考察を深めたい。</p>		
講義概要	<p>『堤中納言物語』に収められる十編の短い物語の内、五編を選び、王朝的な雰囲気の色濃く漂わせる描写の丹念な読解を通して、王朝時代の人々の生活様式や考え方を理解するとともに、それぞれの話を短編物語として成立させている、構成や展開上の工夫について考える。また、この作品には物語の骨格や主人公の性格に於いて、『伊勢物語』『落窪物語』『源氏物語』等の先行作品からの影響が顕著であるが、これらの作品との比較や、和歌を踏まえた叙述の分析を通して、摂関体制も全盛期を過ぎ価値観の変動した時代の文学が、前代までの文学的達成をどのように受けとめ、また変容させていったかについて考察する。</p>		
使用教材	テキスト	三角洋一『堤中納言物語 全訳注』(講談社学術文庫)	
	参考文献	随時、プリントを配布する。	
評価方法	<p>前期・後期の終わりにそれぞれ一回、レポートを提出してもらう。授業中の発言内容や回数も重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>引用やパロディが文学作品にどのような効果をもたらすかについて、高い意識を持って、積極的に授業に関わってもらいたい。私語は厳禁。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス。『堤中納言物語』についての概要と、授業の進め方の説明。
2	このついで(1)
3	このついで(2)
4	このついで(3)
5	ほどほどの懸想(1)
6	ほどほどの懸想(2)
7	ほどほどの懸想(3)
8	貝合(1)
9	貝合(2)
10	貝合(3)
11	貝合(4)
12	貝合(5)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	はいずみ(1)
2	はいずみ(2)
3	はいずみ(3)
4	はいずみ(4)
5	はいずみ(5)
6	はいずみ(6)
7	花桜折る中将(1)
8	花桜折る中将(2)
9	花桜折る中将(3)
10	花桜折る中将(4)
11	花桜折る中将(5)
12	花桜折る中将(6)
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (現代スペインの社会と文化) 10	担当者名	野々山 ミチコ
-----	------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>スペインの現状について正しい理解を持つためのコース。</p> <p>前期はジャーナリズムをにぎわせるリーダー的役わりを果たす人々をとりあげ、その生き方を追う。</p> <p>後期はスペインの社会が持つさまざまな問題をとりあげ、日本がかかえる同じ問題について考える指針としてもらいたい。</p>	
講義概要	<p>前期はスペインの有名人たちの人物像を通して現代スペイン像を浮き彫りにすることを試みる。</p> <p>後期は私が直接取材したスペイン社会の諸問題を提起してゆく。(詳細はシラバスのとおり)</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『スペイン、ポルトガル現代史』 齊藤孝編 (山川書店) 1982
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『あまりにスペイン的な男と女』 野々山真輝帆 毎日新聞社1992 ・『スペイン辛口案内』 野々山真輝帆 晶文社 1992 ・『すがおのスペイン文化史』 野々山真輝帆 東洋書店 1994
評価方法	授業への参加度と試験によって評価	
受講者に対する要望など	<p>スペインの問題としてパッシブに聞くだけでなく、自分の生き方、日本の問題を考えるために役立ててほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	スペインの特質
2	スペイン内戦
3	スペイン現代 (1) フランコ体制
4	スペイン現代 (2) 民主化のプロセス
5	現代スペインをリードする人々 フェリーペ・ゴンサレス首相
6	現代スペインをリードする人々 ファン・カルロス国王
7	現代スペインをリードする人々 ノーベル賞作家カミロ・ホセ・セラ
8	現代スペインをリードする人々 マリオ・コンデ
9	現代スペインをリードする人々 ニコラス・レドンド
10	現代スペインの女性 イサベル・ブレイスレル
11	現代スペインの女性 アルバ公爵夫人
12	現代スペイン社会の特質
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	麻薬問題
2	ジプシー
3	老人問題(1)
4	老人問題(2)
5	カタルニア・ナショナリズム
6	バスク・ナショナリズム
7	観光
8	スペインの女性 セクハラ
9	スペインの女性 中絶
10	スペインの女性 教育における差別
11	スペインの女性 言語に見る差別
12	浮浪者問題
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (古代ギリシア社会における日常生活) 11 西洋文化特殊講義A-3 (旧自)	担当者名	古川 堅治
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>——古代ギリシア社会における日常生活——</p> <p>紀元前5世紀の都市国家アテネの直接民主制に焦点を当て、その文化的・社会的意味を探る。文献、建造物、美術品、碑文などの幅広い史料を扱う学際的なコースをめざしている。古代社会・文化と現代社会・文化の異質性と類似性に興味・関心が湧いてくるようにして行きたい。</p>	
講義概要	<p>はじめの数回は導入部(「入門」コース)として講義中心に説明をし、その後、30分ほどにまとめられたビデオを毎回(ないし隔週)に上映して、説明や討論をして、それぞれの問題について考察を深めていくものとする。授業はアト・ホームな感覚で進めて行きたい。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない
	参考文献	テキストは使わないので、必要なぎりその都度、参考文献を提示して行く。
評価方法	<p>前・後期各1回ずつのレポート提出により判断。テーマ、メ切日、枚数等は授業中に提示する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受身ではなく、積極的に対論、考察する姿勢を期待する。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	「はじめに」 古代ギリシア社会素描 (VIDEO・ギリシア——古代と現代——)
2	「アテネ民主制」(I) その変遷(アテネ民主制の成立と展開をあとづける)
3	「アテネ民主制」(II) その構造(アテネ民主制の構造とその特質をさぐる)
4	「プロメテウス神話」(VIDEO) プロメテウス神話の意味とは何か、をさぐる。
5	「ギリシア古典劇の現代的意味」① (VIDEO) ギリシア古典劇を現代に上演するにあたってのジレンマ、すなわち考古学的な真正さと劇のもつ現代的意味のどちらを優先するか。
6	「ギリシア古典劇の現代的意味」② (VIDEO) ギリシア古典劇を現代に上演するにあたってのジレンマ、すなわち考古学的な真正さと劇のもつ現代的意味のどちらを優先するか。
7	「ギリシア演劇はいかに上演されたか」① (VIDEO) ギリシア演劇は、いかに演じられ、当時のギリシア人にとってどのような意味があったのか。
8	「ギリシア演劇はいかに上演されたか」② (VIDEO) ギリシア演劇は、いかに演じられ、当時のギリシア人にとってどのような意味があったのか。
9	「銀：アテネ繁栄の礎」① (VIDEO) 銀山からの余剰収益がアテネの繁栄の基礎をつくったという説を考古学的に検証。
10	「銀：アテネ繁栄の礎」② (VIDEO) 銀山からの余剰収益がアテネの繁栄の基礎をつくったという説を考古学的に検証。
11	「ギリシアの神殿」① (VIDEO) パルテノン神殿は国家のプロパガンダのためのモニュメントだったのか、それとも聖なる場所だったのか。
12	「ギリシアの神殿」(II) (VIDEO) 古代ギリシア神殿の意味を探る。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	「ソクラテスはなぜ有罪となったのか」① (VIDEO) ソクラテスの真の罪状とは何か、かれの有罪判決は民意を表わしているのだろうか、などソクラテス裁判の経緯を考える。
2	「ソクラテスはなぜ有罪となったのか」(II) アテネ裁判制度と民主制との関わりについて。
3	「神と人間を結ぶ場所」① (VIDEO) スニオン・エレウニス・アクレポリス周辺の宗教的遺跡から古代ギリシア人の宗教観を考察。
4	「神と人間を結ぶ場所」② (VIDEO) ギリシア人の理性と非理性の考察を通して合理性と非合理性の相矛盾する人間の本質に迫る。
5	「ギリシア美術」(I) (VIDEO) 大英博物館所蔵のギリシア美術を通してギリシア文化の本質をさぐる。
6	「ギリシア美術」(II) (VIDEO) 大英博物館所蔵のギリシア美術を通してギリシア文化の本質をさぐる。
7	「ポリス社会の終焉」① (VIDEO) アレクサンドロスのマケドニアの興隆とアテネとの攻防を通じて、ポリス社会の衰退の問題を考える。
8	「ポリス社会の終焉」② (VIDEO) アレクサンドロスのマケドニアの興隆 アテネとの攻防を通じて、ポリス社会の衰退の問題を考える。
9	「過去への問いかけ」① (VIDEO) 歴史とは何か、現実と歴史家の関係を通じて過去を問うことが現在を照射することを示す。
10	「過去への問いかけ」② (VIDEO) 歴史とは何か、現実と歴史家の関係を通じて過去を問うことが現在を照射することを示す。
11	「総括」 アテネ民主制の現代的意義を考察する。
12	「ギリシアの魅力」(VIDEO) 現代のギリシアを紹介しながら、ギリシアの魅力を考える。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（アラブ文化・芸術）12	担当者名	本田孝一
-----	------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義ではアラブ文化、特にアラブの芸術について映像（ビデオ、スライド等）を多く使って紹介し、アラブ文化の特性ならびに日本のそれとの違いについて考えます。その講義によってアラブに対して親近感を持てるようになることが基本的な目標です。</p>	
講義概要	<p>講義では、特にアラブの人々の考え方を文化、芸術、宗教などの面を通じて見ていきます。しかし講義ではシラバスにとらわれずその時その時の up to-date な話題や私が感じたり考えている問題などを適宜選択し、生きのよさを前面に出していきたいと思えます。</p>	
使用教材	テキスト	特に使用しません。
	参考文献	その都度お知らせします。
評価方法	<p>初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	アラブ全般について。「アラブとは何か。」ということを考えます。
3	アラビア語とその周辺の言語について紹介し、アラビア語の特性を考えます。使用予定ビデオ：『アラブ』（B-BC 製作）
4	イスラム教について紹介し、その発生の意味や教義を考えます。使用予定ビデオ：映画“The Message”
5	イスラム教の聖典、『コーラン』を取り上げ、他の宗教の聖典との違いなどを検討します。使用予定ビデオ：シリア放送など
6	アラビアンナイト（千夜一夜物語）について、そのさまざまな背景をさぐります。エジプト映画やビデオを紹介。
7	アラブの美術についてその特性を考察します。エジプト・カイロのイスラム芸術博物館にあるアラブ美術の傑作を鑑賞しながら日本などの美術との違いをさぐります。
8	アルハンブラ宮殿、イスラム建築の傑作である同宮殿に使われている装飾文様や文字の芸術など、そのディテールに迫ります。
9	ペルシャの詩人、特にオマル・ハイヤームの4行詩の詩集『ルバイヤート』を読み、その思想を考えます。
10	アラビアのロレンス(1)、その映画を鑑賞しながら時代的背景などについてさぐり、アラビアのロレンスという人物の存在の意味を考えます。
11	アラビアのロレンス(2)、この映画を通してアラブ人の物の考え方、特に砂漠の民、ベドウィンの世界観などについて考えます。
12	アラビアのロレンス(3)、現代的個性をもったロレンスという人物に焦点を当て、その当時のアラブ対ヨーロッパの図式を考えます。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アラビア語の書道(1)、講師が専門としている同書道の全般的イントロダクション。
2	アラビア語の書道(2)、アラビア語書道の名品の鑑賞。それによってアラビア人、ペルシャ人、トルコ人などの美意識を探ります。スライド使用。
3	アラビア音楽。いくつかのアラビア音楽を紹介し、ヨーロッパ音楽や日本音楽の相違点や特徴を考えます。ビデオ使用。
4	アラブの舞踊。アラブ人の生活の中で身近な存在である舞踊芸術をビデオを通して紹介し、その特徴を考えます。
5	アラブ人の衣装文化について。現在でも日常生活の中で民族衣装を着用しているアラブ人の衣装文化を取り上げ、その意味を探索。
6	アラブの食文化について。アラブ人の独得な食文化に焦点を当て、彼らの生活、習慣などを考えます。
7	レバノン生まれの詩人であり小説家でもあるジブラーン・ハリール・ジブラーンの代表作、『プロフェット』（預言者）をとりあげ、その思想を考えます。
8	アラブの各国紹介。ビデオを通して、アラブ諸国の事情を学びそれらの国々がかかえている問題を考えます。
9	エジプト映画『バイナル・カスライン』(1)（エジプトのノーベル文学賞受賞作家の代表的小説）を鑑賞しながら、エジプト社会のあり方をさぐります。
10	エジプト映画『バイナル・カスライン』(2)、同映画を通してアラブ人の家族問題、男女問題などを取りだし考えます。
11	エジプト映画『バイナル・カスライン』(3)
12	まとめ、講師のアラブとの関わりを話します。
備考	

科目名	日本語教育概論 日本語教育概論(旧自)	担当者名	井口厚夫
-----	------------------------	------	------

講義の目標	日本語教育とは何か、今日本語教育に何が起きているかを理解する。		
講義概要	このコースでは、日本語教育がどのようなものなのかを紹介し、概観する。併せて日本語教育に関連した諸々の問題にも触れる。		
使用教材	テキスト	石田敏子著『日本語教授法』大修館書店 ¥2,266	
	参考文献		
評価方法	前期試験・夏期レポート・後期試験に3つによって評価する。		
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育
3	日本人なら日本語が教えられるか
4	君の日本語は大丈夫か/日本語教育能力検定試験について
5	辞書の話/日本語学習者の姿
6	日本語授業の実際
7	日本語教育の歴史 1
8	日本語教育の歴史 2
9	教授法あれこれ——その歴史的発展と特長
10	日本語教育の現状 1
11	日本語教育の現状 2
12	日本語教育の抱える問題点
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のテストの解答・解説
2	質問に答える
3	海外で教える
4	今日本語教育で何が起きているか
5	日本語と外国語
6	外国人の日本語
7	日本語教師論 1
8	日本語教師論 2
9	日本語教育の将来 1
10	日本語教育の将来 2
11	まとめ
12	(予備)
備考	

科目名	日本語教授法Ⅰ 日本語教授法（旧自）	担当者名	井口厚夫
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	日本語を教える上での具体的な知識・技能を習得する。		
講義概要	日本語を教えるための基礎理論及び実践的な指導法を習得し、その技能を身につけることを目的とする。指定教科書以外に様々なテキストを随時指定し、読み、それについて発表することが要求される。また、教材の作成も行う。課題は多い。		
使用教材	テキスト	茅野直子・中西家栄子著『実践日本語教授法』（バベルプレス）	
	参考文献		
評価方法	発表・授業への参加態度・夏期レポート・後期レポートによって評価する。		
受講者に対する要望など	日本語教育実習を希望するものは、この単位をとること。『日本語教育概論』『日本語音声学』『日本語文法論』を履修済みであることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教授法 1
3	教授法 2
4	シラバス・カリキュラム/日本語教科書の比較
5	導入の実際 1
6	導入の実際 2
7	練習 1
8	練習 2
9	コミュニケーションに教えるということ
10	その他の教室内活動 1
11	その他の教室内活動 2
12	教案の書き方
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期レポートに対するコメント
2	技能別指導の方法——発音 1
3	技能別指導の方法——発音 2・聴解
4	技能別指導の方法——話し方
5	技能別指導の方法——文字・語彙
6	技能別指導の方法——読解
7	技能別指導の方法——文法
8	技能別指導の方法——作文
9	誤用とその指導
10	テストの作成と評価の方法 1
11	テストの作成と評価の方法 2
12	日本語教師論
備考	

科目名	日本語教授法Ⅰ 日本語教授法(旧自)	担当者名	中西 栄子
-----	-----------------------	------	-------

講義の目標	言語学習・習得理論の理解に基づいて、日本語教育に必要な日本語の知識及び日本語教育のための実践的能力と技術の養成		
講義概要			
使用教材	テキスト	・『実践日本語教授法』バベル・プレス	
	参考文献	・『言語心理学』D.Steinberg 研究社 ・『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』名柄・茅野・中西・アルク出版 ・『日本語と日本語教育』教授法 明治書院 ・『にほんごのきそ』教師用指導書Ⅰ、Ⅱ	
評価方法	1) 中間・期末テスト 2) 教材開発(レポート): 1課相当のものの作成とそのテスト 3) 出席率(minim 80%) 4) 日本語授業の見学(最低1コマ)の報告書 5) 指定の文献を読み、それに対する"Reaction Paper"の提出		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の Variables
3	言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
4	教材——1.教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2.その他の専門教材
5	同上
6	教室活動と授業分析・教案の書き方
7	同上
8	音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
9	聴解の教材作成と指導 1.初級 2.中級 3.上級 同上
10	文字表記の指導と教材 1.平仮名・片仮名の導入 2.漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	読解力の養成——精読・スキミングと教材作成 1.初級 2.中級 3.上級
2	同上
3	文法の指導と教材 意味と文型の導入 1.ドリルから応用へ 2.絵教材・その他の教材の作成と検討
4	同上
5	同上
6	会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
7	同上
8	Video 教材の紹介とその使用方法
9	同上
10	作文の指導法と評価の方法
11	同上
12	評価とテストの作成法
備考	

科目名	日本語教授法Ⅱ 日本語学特殊講義A-2 (旧自)	担当者名	中西 栄子
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	前期目標は日本語教育実習への準備として、導入から練習までの教案を作成し、模擬授業をする。後期目標は実習での経験を踏まえ、外国語としての日本語表現・文法の導入・説明を行うための方法を考え、教材作成を行い、発表する。		
講義概要			
使用教材	テキスト	・『日本語初歩』	
	参考文献		
評価方法	教案提出・模擬授業・教材発表 ①模擬授業 ②教材の提出 ③模擬授業の反省と自己分析 ④テストは無し		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教材の研究・検討
3	教案の書き方とオブザベーション
4	模擬授業
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	実習経験の報告と反省
2	初級・中級における文法・表現項目の確認と問題点
3	文法・表現の導入・練習のための教材開発と発表
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	日本語文法論 日本語文法論 (旧自)	担当者名	城田 俊
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。しかし、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という明確な語形を混在させる「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快で、より統一性を持ち、より体系的で、小・中学生および外国人学習者に理解しやすい文法が現出する。その新しい等身大の文法の構築を目標とする。</p>		
講義概要	<p>まず、用言（動詞・形容詞）・体言（状詞—形容動詞語幹・名詞）の類別を行い、最も形態の豊富な動詞から記述を開始する。その成果はたやすく他の品詞の形態把握にひろげられるからである。</p> <p>語尾形・語幹形・語的つらなり・文形の四つの水準を区別し、日本文法の厳密な形態論的記述を行う。そのために、子音語幹、母音語幹、結合子音、結合母音という概念を導入する。</p> <p>まず、語尾形を終止形・連用形・不定形に分け、その外容・内容を統一的に捕え込む。ついで、語幹形を基本語幹と二次語幹に分けて把握する。語的つらなりを不定形ベースのものと接続形ベースのものに分けて解明する。文形が示す話法と待遇のカテゴリーを記述する。</p>		
使用	テキスト	特になし。	
用	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』 くろしお出版 ・鈴木重幸『日本語文法形態論』 むぎ書房 ・村木新次郎『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房 ・城田俊『語の活用と文の活用』 『国語学』164集、1991・3・43—55頁 ・井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』 バベル・プレス 	
評価方法	試験ないしレポート		
受講者に対する要望など	<p>シラバスを見ると見慣れぬ用語がめだつかもしれないが、それらと伝統的概念や一般に流布する考えとの異同は講義の途上でやさしく解説する。シラバスに記したものと講義では多少前後するところがある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望（ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用—語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり）
2	文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者—行為者・対象等、話とその構成者—話し手・聞き手・第三者、語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等
3	語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用、語尾形：終止形—伝達話法と呼掛け話法、伝達話法—叙述語法と推量話法、叙述語法—現在形と過去形、推量話法
4	呼掛け話法—命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）
5	不定形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる不定形、語的つらなりのもととなる不定形、語形成を行う不定形—複合動詞、名詞形成、否定不定形）
6	語幹形：基本語幹形（受身態の形成・意味・用法、使役態の形成・意味・用法、いわゆる自発、尊敬、肯定と否定）、複合語幹（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）
7	二次語幹形：動詞語幹—過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ+不定形+ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ
8	傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相—段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オワル、ヤメル、ヤム、サス等）
9	様態相動詞の形成・意味・用法（統ケル・統ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マワル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加エル、タリル、ツカレル等）
10	将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ）、関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等
11	語的つらなり、不定形ベースの語的つらなり—形成・意味・用法、尊敬不定形ベースの語的つらなり、接続形ベースの語的つらなり：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイク/クル、テミル等
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文形、文の活用、語法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のパラダイム、文形の語形変化、語法体系、語法—叙述語法と推量話法、叙述語法—平叙語法と既定語法（いわゆるノダ文）
2	平叙語法（形成・意味・用法・待遇）、既定語法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ+主文とカラ+主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態不定形、語的つらなり—ノデアル、ノデナイ、スコープ）
3	推量話法、無確信話法—無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモンレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）
4	確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、語的つらなり）
5	準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法・語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化）、外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり等）
6	待遇—通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文+デスの使用制限、デスとマス、語活用、デシタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デシヨウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）
7	主語撲滅論について、主語と述語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト(1)、ト(2)、へ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格
8	副助詞、完全副助詞、不完全副助詞
9	体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞
10	日本文法への形態音素論的注解
11	文法論（語論と文論）、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か、
12	試験
備考	

科目名	日本語音声学 日本語音声学 (旧自)	担当者名	城田 俊
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>日本語音声の実践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としていることを忘れてはならない。</p>		
講義概要	<p>調音音声学の基礎を講じ、その基礎の上に立って日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。</p> <p>第二部としてある音素論では、位置の差に著目しつつ、そこに現出する子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。そこにおいても常に基本体系と第二体系の差に留意する。ついで弁別要素（素性）によって日本語音声を記述する道筋をあきらかにする。</p>		
使用教材	テキスト	城田俊 『日本語の音（おと）—音声学と音韻論』 ひつじ書房（ペーパーバックで再版予定）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』 5 『音韻』 岩波書店 	
評価方法	試験、ないし、レポート		
受講者に対する要望など			

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅰ部 音声学、単音 ことばの音(おと)、1単音か2単音か、発音記号、調音器官、子音と母音。(テキスト 1—25頁)
2	子音(I)。子音の分類 調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音、非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音、子音の調音、閉鎖音・弱い閉鎖音、摩擦音。(テキスト 26—52頁)
3	子音(II)。弱い摩擦音、破擦音、鼻音、はじき音、ふるえ音、側面音。(テキスト 52—64頁)
4	母音 母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」、母音の調音、長母音、無声化母音、鼻音化母音。(テキスト 65—79頁)
5	音節(I)。日本語の音節 基本体系(伝承された体系、閉鎖体系)[e][i]に関する規制、[t][ts][d]に関する規制、[h][ϕ]に関する規制、[w]に関する規制、第二体系(革新体系、開放体系)、両体系の差
6	音節(II)。結合表、基本体系における結合則、第二体系における結合則、長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語音節の特徴。(テキスト 5・6併せて80—112頁)
7	アクセント 共通語のアクセント、他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセント、意味機能、アクセント核。(テキスト 113—124頁)
8	第Ⅱ部 音韻論、音素論(I) 母音音素 音素の定義、母音の分布、母音音素、第二体系の母音の分布、第二体系の母音音素。(テキスト 127—146頁)
9	音素論(II) 子音の分布と子音音素、1.[a]位置、2.[o]位置。(テキスト 146—155頁)
10	音素論(III) 3.[u]位置、4.[e][i]位置。子音音素まとめ。(テキスト 156—163頁)
11	音素論(IV) 第二体系の子音の分布と子音音素、1.[a]位置、2.[o]位置、3.[u]位置。(テキスト 163—169頁)
12	試験
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	音素論(V) 4.[e]位置、5.[i]位置、第二体系の子音音素まとめ、基本体系と第二体系の比較、第二体系が目指すもの。(テキスト 169—181頁)
2	音素論(VI) 特殊音素。(テキスト 182—192頁)
3	弁別要素(素性)(I) 音素から弁別要素へ、ljの仮構。同じ音素か違う音素か、音素より小さな単位、弁別要素の簡単な解説。
4	弁別要素(II) 弁別要素の簡単な解説(続き)、音声の弁別要素による特徴づけ。(テキスト 2・3併せて 193—206頁)
5	弁別要素(III) 音節の各部分における弁別要素。(テキスト 206—216頁)
6	音節図素、特殊音の図表化。(テキスト 217—226頁)
7	第二体系の一般音節。(テキスト 226—233頁)
8	無声化母音 基本体系と第二体系、文化の問題、「開れた受容性」と「同化による閉鎖性」
9	補遺(I)
10	補遺(II)
11	補遺(III)
12	試験
備考	

科目名	対照言語学 対照言語学（旧自）	担当者名	中西 栄子
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	二言語間（日本語と他の言語）の様相を体系的に対比することによって、二言語及び言語の背後にある文化を理解すること、及び、第二言語としての日本語習得への干渉とその問題点を探る。		
講義概要			
使用教材	テキスト	無	
	参考文献	『英語の論理・日本語の論理』大修館（安藤貞雄）	
評価方法	1) 夏期の提出課題（レポート） 9月20日提出 2) 後期におけるレポートの（中間）発表 3) 同レポートの最終稿の提出 4) 前期・後期テスト 5) 出席		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：対照と誤用分析
2	対照と誤用分析
3	音声・音韻の比較 1、
4	音声・音韻の比較 2、
5	語構成・造語法・語彙体系
6	語構成・造語法・語彙体系
7	語彙・意味の比較 1、(意味分析の方法)
8	語彙・意味の比較 2、(意味分析) presentation
9	語彙・意味の比較 3、(意味分析) presentation
10	文構成の比較
11	文法性・数・人称・文字
12	こそあど・は・が (旧情報・新情報)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期に行った学生の研究課題発表とそれに付随する講義
2	主たるテーマ 言語生活に関するもの：ことわざ・ジェスチャー・謝罪等の比較
3	テンス・アスペクト・法・ヴォイス・動詞・連体修飾・待遇表現・て-いく・くる (ダイクシス)
4	形式名詞・助詞・婉曲表現・省略・推量表現・形容詞と感情表現等
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	日本語史 日本語史(旧自)	担当者名	小島幸枝
-----	------------------	------	------

講義の目標	日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度は語彙をとりあげ、その史的変遷を辿ることを目的とする。	
講義概要	講述にあたって時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。	
使用教材	テキスト	国語学会編：国語史資料集（武蔵野書院）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀井孝他編『日本語の歴史』1～7（平凡社） ・ 永山勇『国語史概説』（風間書房） ・ 国語学会編『国語の歴史』（改訂版）（刀江書院） ・ 講座解釈と文法1～7（明治書院） ・ 山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』（宝文館） ・ 土井忠生編『日本語の歴史』（至文堂） その他
評価方法	前期・後期にレポート各1本	
受講者に対する要望など	日本史の基礎知識をもって受講することがのぞましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語史のための時代区分
2	国語史の資料
3	国語史の概要 音韻史(1)
4	国語史の概要 音韻史(2)
5	国語史の概要 文字史(1)
6	国語史の概要 文字史(2)
7	国語史の概要 文字史(3)
8	国語史の概要 文法史(1)
9	国語史の概要 文法史(2)
10	国語史の概要 外来語
11	語彙史概要
12	上代の語彙(1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	上代の語彙(2)
2	中古の語彙(1)
3	中古の語彙(2)
4	中古の語彙(3)
5	中世の語彙(1)
6	中世の語彙(2)
7	中世の語彙(3)
8	中世の語彙(4)
9	近世の語彙(1)
10	近世の語彙(2)
11	近代の語彙(1)
12	現代語の展望
備考	

科目名	日本語学特殊講義A（日本語ケーススタディ） 日本語学特殊講義A-1（旧自）	担当者名	井口厚夫
-----	--	------	------

講義の目標	日本語に対する理解を深める。日本語を客観的に分析する能力を身に付ける。	
講義概要	指定テキストの中からいくつかをピックアップして論ずる。従って、日本語教育に必要な文法知識を広く網羅するものではない。テキストをもとにクラスで立てた仮説を生データの検証する。学生は必ずそのどれかについて発表をしなければならない。発表は指定教科書の他の関連した参考書や論文を含む。概論的知識からもう一步踏み込んで例外的なデータも扱いたい。コトバはなまものであるので、探せばいろいろと出て来るものである。じっと座って人の話を聞くのではなく、議論に積極的に参加してもらいたい。なお、ここでは外国人に日本語を教えるための実際の指導法などには触れない。	
使用教材	テキスト	未定（講義初日に学生と相談の上決定）
	参考文献	
評価方法	発表・授業への参加態度・夏期レポート・後期レポートによって評価する。	
受講者に対する要望など	『日本語文法論』を履修済みであることが望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	～未定
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰ(旧自)	担当者名	山路朝彦
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>第三国語としてドイツ語を学んでみようと思う人のために開講します。既に知っている英語とフランス語(スペイン語)を基にして、ドイツ語の特性を大きくつかみましよう。</p> <p>学んだ文章がスラスラと出るようになるまで聞き取り・暗記・反復練習をくり返します。</p>	
講義概要	<p>文法のアウトラインを説明した後に、基本的な文章がアクティブに使える様になるまで練習します。基礎的文法項目について一応全て触れるつもりです。</p>	
使用教材	テキスト	平高史也『ドイツ語きいてはなして』白水社
	参考文献	
評価方法	<p>出席を重視します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>同時に「ドイツ語Ⅱ」(学部共通・大串先生担当・口頭訓練中心)もできるだけ併せて履修して下さい。</p>	

科目名	ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅱ(旧自)	担当者名	大串紀代子
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語専攻以外の学生対象なので、単にドイツ語習得のみならず、広くドイツ語文化圏に関する興味を喚起する。 ・ドイツ語によって書かれた諸分野の文章に触れる。 ・読解のみに重点を置かず、「話す」「聞く」能力を向上させる。 		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト音読と発音練習 2. テープの聞きとり 3. 文法事項説明 4. 文章理解 5. 文化的背景理解 		
使用教材	テキスト	乙政 潤 著『日頃のドイツ文法』朝日出版	
	参考文献		
評価方法	期末テストと普段点		
受講者に対する要望など	テープを聞き、自分で必ず発音して下さい。		

科目名	フランス語Ⅰ フランス語Ⅰ(旧自)	担当者名	松橋麻利
-----	----------------------	------	------

講義の目標	フランス語の基本的な発音、文法を習得し、ある程度の読解力を身につけること、要するに初歩的な知識のすべてに通じることを一年間の目標とする。	
講義概要	テープを聞いて発音練習をするとともに、文法事項に合わせて文章を読んでいく。それらの練習はすべて必ず受講者に実践してもらう。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	前期・後期の終わりに各1回の試験をし、その成績に平常授業時の出来ぐあいを加味して評価する。	
受講者に対する要望など	初歩的な知識をすべて得ることは、年間の授業回数からしてもかなりハードな進度になるので、毎回きちんと予習・復習(とくに予習)をすること。	

科目名	フランス語Ⅱ フランス語Ⅱ (旧自)	担当者名	田中成和
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>ある外国語を学ぶという作業は、決して単語を丸おぼえしたりすることではありません。フランス語の初歩を学ぶこの授業を通して、たとえば日本語や英語と、フランス語はどこが違うのか、またその理由はなぜなのかを、受講者自身、自分の頭で考える契機となればと思います。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	スペイン語Ⅰ（総） スペイン語Ⅰ（総）（旧自）	担当者名	各担当教員
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問と依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>	
講義概要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。できれば直説法単純過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは Unit1 から Unit6 あるいは Unit7 までである。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語ⅠLが用意されているので、同時履習を要望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅰ(L) スペイン語Ⅰ(L)(旧自)	担当者名	各担当教員
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総を補う授業である。テキストに準拠したテープ教材を使って、自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅰ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語Ⅰ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅰ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ教材も使って、耳からだけではなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語Ⅰ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>原則としてスペイン語Ⅰ総との組み合わせで受講すること。</p>		

科目名	ロシア語Ⅰ ロシア語Ⅰ(旧自)	担当者名	井上幸義
-----	--------------------	------	------

講義の目標	<p>ロシア語は、単語の活用が多く、取っつきにくい言語だと言われていますが、その取っつきにくさを親しみに変えるには、少しでも慣れることが必要です。本講義ではロシア語の骨組みをつかみ、少しでもロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としており、アルファベット、発音から始めます。最も基礎的な文法書を教材として使い、名詞の格変化、動詞の現在人称変化及び過去時称形などを中心に学び、最も基本的な構文が理解でき、使えるようにします。</p>		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』(桑野隆著、白水社)	
	参考文献	博友社ロシア語辞典	
評価方法	<p>前後期それぞれ1回ずつの試験を行い、それに基づき評価を下します。尚、参考として出欠を取ります。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	ロシア語Ⅱ ロシア語Ⅱ（旧自）	担当者名	井上幸義
-----	--------------------	------	------

講義の目標	ロシア語Ⅰで学んだロシア語の基本的な構文を、会話を通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰを昨年履修した学生、あるいはロシア語文法の初歩的知識をひと通り持っている学生を対象とします。日常的な会話を中心に、あいさつの表現、様々な動詞を使った表現（過去、現在、未来時称など）を学んでいきます。		
使用教材	テキスト	狩野亨、A. アキーシナ共著『新ロシア語教程』ナウカ株式会社	
	参考文献	博友社ロシア話辞典	
評価方法	前後期それぞれ1回ずつ、簡単な会話とディクテーションの試験を行い、それに基づき評価を下します。尚、参考として出欠を取ります。		
受講者に対する要望など			

科目名	中国語Ⅰ 中国語Ⅰ(旧自)	担当者名	秦 敏
-----	------------------	------	-----

講義の目標	はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で基本的な会話と平易な文章が読めることを目標とする。		
講義概要	講義の内容は発音、文型、文法です。発音は声調から母音・子音の発音と組合せまで、文型は挨拶、買物、旅行など初級段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深めます。		
使用教材	テキスト	相原 茂・玄 宣青『リピート中国語』朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。		
受講者に対する要望など			

科目名	中国語Ⅰ 中国語Ⅰ(旧自)	担当者名	張 繼 賓
-----	------------------	------	-------

講義の目標	発音からはじめて、読み、書き、聞き、話すの基礎力の養成を目的とする。	
講義概要	<p>第一段階では発音の練習をする。</p> <p>第二段階では、基礎的な文法を説明しながら、平易な文章を読み、書き、やさしい会話と聞きとりの訓練を行う。</p>	
使用教材	テキスト	最初の授業に指示する。
	参考文献	
評価方法	出席状況、授業中の態度、前・後期の試験などを総合して評価する。	
受講者に対する要望など	自分での毎週の復習と予習することを望みます。	

科目名	中国語Ⅱ 中国語Ⅱ(旧自)	担当者名	秦 敏
-----	------------------	------	-----

講義の目標	中国語Ⅰと昨年履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。授業は基礎的な文法を習得します。その後、辞書を使って平易な文章を作成し、基本的な単語が会話で使えることを目標とする。	
講義概要	講義は理解し得る範囲内で中国語を行う。また、中国の文化・習慣・ものの考え方などを紹介したいと考えています。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。	
受講者に対する要望など		

科目名	朝鮮語Ⅰ 朝鮮語Ⅰ(旧自)	担当者名	井上和枝
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>朝鮮語は日本語と語順が同じなので日本人には非常にマスターしやすい外国語です。ただ発音がやや難解なのが問題ですが、この点は簡単な文を暗誦することで乗り切ることができます。本授業は朝鮮語の文字(ハングル)を覚え、簡単なあいさつ、数字の言い方を通して読み方を習得し、辞書が引けるようにします。すぐ使える会話文を中心に勉強し、ごく簡単な日常会話ができるようにします。</p>	
講義概要	<p>簡単な単語と文の反復練習の積み重ねによって自然に覚えてもらうようにする。テキストの短い文章は暗誦し、言い換え方式の練習問題によって定着させる。</p> <p>ハングル文字と発音、現在形・過去形・未来形、用言の変則活用、尊敬形、数字の言い方(お金の勘定、時間)、会話で普通使われる2種類の終止形(上称形と略待丁寧形)</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『한국어』(韓国語) ソウル大学校語学研究所
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 『ハングル講座①～⑤』大修館書店 『道—朝鮮語への道—』同朋出版
評価方法	出席と毎回出す簡単な宿題による。定期試験はなし。	
受講者に対する要望など	熱意のある学生	

科目名	朝鮮語Ⅱ 朝鮮語Ⅱ(旧自)	担当者名	朴 聖 雨
-----	------------------	------	-------

講義の目標	<p>日常の朝鮮語会話を正確に聞きとれるようにし、多様な状況、場面に応じて適切な会話表現が可能になるべく指導する。また辞書を使用しながら長い文章を読み、書くことができるようにする。</p> <p>映画やテレビ、ラジオ等の朝鮮語を聞いて理解できるようにし、実際にドラマの脚本等によって実演することを通して生きた会話ができるように練習する。</p>		
講義概要	<p>日常生活で遭遇する多様な状況を教室に設定し、実体験にみあう会話を身につけるようにする。</p> <p>新聞の論説や記事等を読み理解できるようにし、また自分の考えを要約して書き表すことができるように指導する。</p> <p>また朝鮮語は単なる意思疎通の用具にとまらず、朝鮮人の習俗や伝説や文化の結晶体であることを実感させ、朝鮮の歴史や文化や生活の諸相について関心を高め、理解を深めて行く。個別指導を基本とし、自学自習が可能なテキストによって講義を進めて行く。</p>		
使用教材	テキスト	朴 湧俊 編著『韓国語の活用』 韓国出版 平成7年3月出刊	
	参考文献	朴 聖雨・金 貞淑 編著『韓国語の完成』 同文書院、1988年	
評価方法	前・後期各1回の定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。		
受講者に対する要望など	はじめは、出来なくても、継続すれば必ず上達するので積極的に取り組むこと。		

科目名	アラビア語Ⅰ アラビア語Ⅰ(旧自)	担当者名	本田孝一
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>アラビア語は、世界的に見るといろいろな意味で重要な言語の1つです。またアラビア語は1国の言葉ではありません。中東20ヵ国の母国語です。最近の世界情勢の流れの中で、良きにつけ悪きにつけ中東が登場しない日はないでしょう。でも私たちにはなかなか理解できない部分が多いようです。言葉はすべての文化の基礎です。特にこのことは中東諸国を研究しようとする時にあてはまります。歴史や宗教などをはじめとする中東へのアプローチにはアラビア語は不可欠だからです。その意味から、みなさんのアラビア語に対する認識を変えてもらうことがこの講義の基本的目標です。</p>	
講義概要	<p>この講義では、単に語学だけでなく、みなさんがアラブ諸国に関心を増すことができるようにアラブに関わるいろいろな側面を扱います。例えば、アラブ人の文化・習慣、ものの考え方など基本的に理解できるようにスライドやビデオなどを使って、幅広く紹介していこうと考えています。またこの機会にみなさんの既習の外国語をアラビア語との比較によって新たに別の角度から見直すこともよいかと思えます。</p>	
使用教材	テキスト	『アラビア語の入門』 本田孝一、白水社
	参考文献	
評価方法	<p>学期末に簡単な会話をしてもらい予定。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	アラビア語Ⅱ アラビア語Ⅱ(旧自)	担当者名	本田孝一
-----	----------------------	------	------

講義の目標	<p>昨年アラビア語Ⅰを受講した人を対象に前年度の進度の続きを勉強します。講義の目標は、みなさんに少しでもアラビア語に対してのアプローチを確実なものにしてもらいたいことです。</p>	
講義概要	<p>授業は会話中心です。私は教室の中で得た知識をそのまま終わらせてしまうのではなく、みなさんがヨーロッパへ旅行や留学で行く途中や帰りに中東の国々、たとえばエジプトのカイロや、モロッコのカサブランカに寄って、アラビア語を実際に使ってアラブの人々と直接交わってもらいたいのです。</p> <p>また授業では、私が専門として進めている「アラビア語の書道」についても紹介しようと考えています。</p>	
使用教材	テキスト	『アラビア語の入門』 本田孝一 白水社
	参考文献	
評価方法	<p>学期末に簡単な会話をしてもらう予定。</p>	
受講者に対する要望など		

科 目 名	古典ギリシヤ語 古典ギリシヤ語 (旧自)	担当者名	古 川 堅 治
-------	-------------------------	------	---------

講義の目標	<p>現代のヨーロッパ諸語の中にたくさんの古典ギリシア語に由来する言葉が含まれている (たとえば、「デモクラシー」=「デモス」(民衆) + 「クラトス」(権力)、「バイオテクノロジー」=「ビオス」(生命) + 「テクネ」(技術) + 「ロゴス」(理法) など) が、そのような言葉の広がりや古典ギリシア文化の理解のために、古典ギリシア語をその基礎から学ぶことを目標とする。</p>	
講義概要	<p>テキストに従って、基本的文法事項の解説、練習問題を丹念にやっけて行くが、音読を繰り返すことによって自然とギリシア語が口からついて出るようにするためにも、各人あるいは全員のギリシア語文章の読みも徹底して行なう。受講者には毎週、予習をしてもらうことが義務づけられる。授業は、時には古代ギリシアに関するビデオを上映して興味を深めることをはじめ、現代ギリシアの事情なども随時紹介するなど全体として at home な雰囲気で行われる。進行ペースは、はじめの比較的やさしい部分は一日2課ずつ、後半部のやや難しい部分では一日1課ずつの予定である。</p>	
使用教材	テキスト	田中利光著『新ギリシヤ語入門』大修館書店、1994年、¥3502
	参考文献	
評価方法	<p>授業中に時々出す課題の達成度、日々の練習問題での理解度、出欠状況などを総合して、平常点で判断する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>必ず最初の授業日に出席すること、出来るだけ早目にテキストを購入しておくこと</p>	

科目名	ラテン語 ラテン語 (旧自)	担当者名	松田 治
-----	-------------------	------	------

講義の目標	ラテン語を読みとき、簡単な文章をラテン語でつづれるようにしたい。		
講義概要	名詞の変化、動詞の活用を中心に勉強し、語の構造、文の構造を把握するような形で進める。練習問題をこなす過程で古典ラテン語の様々なアスペクトを観察する。とりわけ近代語とのつながりを重視し、近代語の語源考察に時間を割く。		
使用教材	テキスト	『詳解ラテン文法』(樋口・藤井共著、研究社)	
	参考文献	・『ローマ神話の発生』(松田著、社会思想社、教養文庫) (後期レポートで使います)	
評価方法	どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。前期は試験、後期はレポート提出。		
受講者に対する要望など	精神的かつ時間的にユトリのある諸君を歓迎。つまりは予習できる人です。古典語での単位狙いはムリですよ。		

科目名	総合講座A 総合講座A (旧自)	担当者名	清水 透
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>急増するヒスパニックが、アメリカの言語地図を塗り替えてしまった。かつて東北の出稼ぎ労働者であふれていた新大久保一帯の風景が、外国人労働者によって一変する。沖縄のリズムが全国ネットのメディアによって流れはじめる。こうした現代世界のさまざまな現象は、私達の文化・社会認識に多くのことを問いかけている。</p> <p>この講座では、こうした現状認識に基づいて、〈揺れ動く文化の領域〉をテーマに、私達の従来の文化認識を問いなおしてみたい。</p>	
講義概要	<p>講義は、以下のテーマを柱に、学内外の講師のかたがたによる連続講演の形式をとる。</p> <p>第1の柱は、人の移動と都市文化・都市空間の成立</p> <p>第2の柱は、人の移動と文化の移動</p> <p>第3の柱は、揺れ動く文化の領域</p> <p>なお具体的な日程は、学期はじめにお知らせします。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	学期はじめに指示します。
評価方法	各講師の出題による筆記試験。	
受講者に対する要望など		

科目名	総合講座B-1 総合科目B-1 (旧)	担当者名	青柳多恵子
-----	------------------------	------	-------

講義の目標	<p>—民族と文化について—</p> <p>人間が誕生してから営々と築いてきた民族の固有の文化を知ることは、現代社会の急速な変貌と発展に、ともすれば見失う未来社会への予測に大きく役立つであろうと思われる。科学技術の発展が交通・通信の著しい発達を促し我々の世界を小さくし、今や地球は一つのメカニズムと化している。未来社会の予測において、もはや過去の延長線上に未来はなく過去における数値は恐らく参考にならないだろう。参考になるとすれば人間や社会が歩んできたビヘイビア・パターンや文化の類型でしかならなう。歴史の教訓は典型的に意味を持つものである。</p>	
講義概要	<p>(祭りを通して文化を考える)</p> <p>世界の民族の歴史と共にいろいろな祭りが催されている。世界各地の祭りを検証しながら民族の築いてきた生活文化や生活様式を知ることができる。祭りが及ぼす影響は元より、はるか昔の民族のたどった過程を「祭り」の中に見出だして、なお具体的な祭りとしての継承の経過を知るとは現代生活・民族の文化を考える上で参考になるといえる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>各担当者ごとに指示される（レポート等）と出席を重んじる。</p> <p>実地見学を予定（実費経費かかる）</p>	
受講者に対する要望など	<p>各学期ごとに完了 前・後期の重複履修可</p>	

年 間 講 義 予 定

4 / 12	青 柳	講座ガイダンス	6 / 7	三 本	ネパール 2
/ 19	飯 島	祭りと芸能の心 1	/ 14	中 西	スペインと祭り
/ 26	飯 島	祭りと芸能の心 2	/ 21	清 水	メキシコの祭りと生産
5 / 10	外来講師		/ 28	清 水	メキシコの祭りと生産
/ 17	鳥 谷 部	子育てと祭り 1	7 / 5	青 柳	日本の祭りと芸能
/ 24	鳥 谷 部	子育てと祭り 2	/		
5 / 31	三 本	ネパールの生活と祭り 1	/		

科目名	総合講座B-2 総合科目B-2 (旧)	担当者名	青柳多恵子
-----	------------------------	------	-------

講義の目標	<p>—民族と文化について—</p> <p>人間が誕生してから営々と築いてきた民族の固有の文化を知ることは、現代社会の急速な変貌と発展に、ともすれば見失う未来社会への予測に大きく役立つであろうと思われる。科学技術の発展が交通・通信の著しい発達を促し我々の世界を小さくし、今や地球は一つのメカニズムと化している。未来社会の予測において、もはや過去の延長線上に未来はなく過去における数値は恐らく参考にならないだろう。参考になるとすれば人間や社会が歩んできたビヘイビア・パターンや文化の類型でしかならぬ。歴史の教訓は類型的に意味を持つものである。</p>	
講義概要	<p>(文化・芸能・民族)</p> <p>日本文化の変容について、ことば・文字・遊び・衣服・家屋などあらゆることに諸外国の影響を直接的・接続的な接触によって生じてきたことは歴史的に知られている。その一方あるいは双方の民族の特有な文化にいかなる変化が生じたか、またいかなる現象にその痕跡をみることができるかを検証しながら現代日本を考えることにしたい。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	<p>各担当者ごとに指示される（レポート等）と出席を重んじる。</p> <p>実地見学を予定（実費経費かかる）</p>	
受講者に対する要望など	<p>各学期ごとに完了 前・後期の重複履修可</p>	

年 間 講 義 予 定

9 / 27	青 柳	講座ガイダンス	11 / 22	瀧 本	色と型と文化
10 / 4	瀬 尾	能 1	/ 29	古 川	ギリシャのフォークダンス 1
/ 11	瀬 尾	能 2	12 / 6	古 川	ギリシャのフォークダンス 2
/ 18	鹿 毛		/ 13	青 柳	文明と文化
/ 25	鳥谷部		/		
11 / 8	鳥谷部		/		
/ 15	鳥谷部		/		

科目名	共通演習	担当者名	青柳多恵子
-----	------	------	-------

講義の目標	生涯教育の一環としてのスポーツの在り方を検索し、時代・国（民族）に於いてどのような変革を今日までなしてきたか・また今後どのような目標と、政策のもとに「健康」について考えようとしているのか。今年度は、世界の国々の実情を整理し、我が国の生涯教育の意義と将来に向けての研究を目標とする。		
講義概要	アメリカ・ドイツ・中国・イギリス・ロシア等のスポーツ政策の実情 日本の各県の健康対策を検証 国体・インターハイ等の生涯教育との関連について 全国各地域で実施されている体育大会の変貌と将来 生涯教育の未来像		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・支那人の古典とその生活 吉川幸次郎 ・カルフォルニア、ダイエット エクササイズ ピーター・ウッド著 ・現代のスポーツその神話と現実 J・ユークリー 	
評価方法	レポートの評価と出席状況による。		
受講者に対する要望など	真面目で生涯教育のことを研究する意思のある者にかぎる。		

科目名	共通演習	担当者名	有吉広介
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現代の英国社会を学ぶ——現代の英国社会では、従来の社会構造に基礎を置く生活様式と、新しく起こってきた社会構造および文化に対応する生活様式とが混じりあって、ときには社会問題も生まれている。そこで、英国の社会構造や文化に関する社会学的分析を中心にして、英国人の行動様式や生活文化を深く理解することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>まず現代イギリスにおける家族と家庭生活を取りあげて、社会が変化するなかで、伝統的なタイプとは違うさまざまな家族とその生活が生まれていて、そして人びとが結婚や家庭生活に関して不安感をいだくようになっているのを見る。第二に、英国の都市生活を取りあげて、都市とその周辺部との間に生活機会の不平等問題が起こっていたり、あるいは都市の機能が、物質文明の中心地としてよりもサービス文化のメッカに変貌しつつある様子をさぐる。第三に、現代の英国の教育制度を取りあげて、社会や文化を再生産する場である学校が、職業教育の場あるいはエリート選別の場になっている点を見る。最後に、階級社会といわれる英国の社会構造を取りあげる。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	適時指示したり、または作成したものを配布する。
評価方法	前・後期2回のレポートの評価による。	
受講者に対する要望など		

科目名	共通演習	担当者名	飯島一彦
-----	------	------	------

講義の目標	<p>—身近な言語表象論—</p> <p>ゼミ形式の授業の基本的目標は、学生諸君が各々自分の目で見、自分の感覚と能力を発揮し、自分から動いて調査して、自分の頭で考える力を養うことにあると考える。この演習では、毎日の生活の中で出会う日本語の表現文化（言語表象）のあり方を扱って、そのような目標を達成したい。言語表現は、そこに表現された「記号」自体が問題なのではなく、記号で表現された世界・もしくは価値が重要なのである。それは一体何であるか、を考えて行くのである。</p>	
講義概要	<p>生活の中の言語表現文化と言っても、ひの範囲は広い。古今の文芸・日常会話は言うに及ばず、手紙、広告宣伝のキャッチコピー、漫画、落語・漫才などの話芸、映画・テレビ・舞台などの広い意味での演劇言語、演説、討論、ウタの歌詞、等々である。それら日本語を用いて表現されるものの中から、どれを考察の対象として扱うかという点から、参加する学生諸君の討論で決めてもらう。その上で、対象の性格によって、読解や分析、ケーススタディやロールプレイング、あるいはフィールドワークなど、様々な方法と手段を用いて考えて行く。</p>	
使用教材	テキスト	その都度教室で指示する。
	参考文献	その都度教室で指示する。
評価方法	<p>演習に参加する姿勢（平常点）と、夏期冬期休業中及び他の機会に指示するレポートの成果。</p>	
受講者に対する要望など	<p>ゼミの主体は学生である、という基本を徹底的につらぬくつもりであるので、積極的意志を持って参加・運営を行なおうとしない学生は参加してはいけない。</p>	

科目名	共通演習	担当者名	井口厚夫
-----	------	------	------

講義の目標	外国人にも使える日本語の辞書を作成する。	
講義概要	<p>現在、国語辞書は様々なものがあるが、これらは日本人が使うことを前提にしたものばかりで、日本語を勉強する外国人が使うことを想定した本格的な辞書ではない。諸君も英語等の辞書を使っていて感ずるところがあるだろうと思う。この授業では外国人が使うための辞書作りについて論じ、かつ実際に作ってみたい。ただし辞書を作る、といってもせいぜいそのプロトタイプを示す程度しかできないだろう。どのようなことについてどのように書くかというフォーマット作りから始めなければならない。前期は既存の辞書の研究にほぼ費やされる。その途上で日本語の品詞に関するかなりつまんだ知識に触れることになる。作成されたものは何らかの形で発表するつもりでいる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>国広哲弥他著『ことばの意味』平凡社 この他に国語辞書数冊。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>授業における発表の出来と前・後期レポートによる。なお、担当発表の当日に無断欠席した学生には単位は与えられない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>辞書作りはコツコツと地道なものであるので覚悟して受講されたい。前・後期とも学生の発表が中心。積極的に参加されたい。時間外の作業多し。データ整理の都合上パソコンの使い方を覚えてもらう。</p>	

科目名	共通演習	担当者名	加藤 億重
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>世界各地の自然環境を知ることは、その地に住む民族の文化的背景を理解する上で必要不可欠なことである。幸い日本は「生態学的大国」と呼ばれているほど様々な環境から成り立っており、日本には欧米諸国、東南アジアと共通あるいは類似の動植物が多数生育（生息）している。</p> <p>身近な自然の様子を知っておくことを目標とする。そのことが長い目で見て他国との交流に必要なと思う。</p>	
講義概要	<p>身近な生物を実際に観察するが、実例を増やすために毎月第三日曜日をネイチャー・ウォッチング・デイにするので、必ず年間6回以上参加することを必修とする（詳細は最初の講義で）。なお担当者の専門は植物である。</p> <p>また勉強していくのに必要な資料を国内や国外の種々の自然系の文献から探す方法を講義する（例 欧米各国に手紙を書き、資料を送ってもらう）。</p>	
使用教材	テキスト	<p>使用しない。予め必要に応じてコピーを配布する。フィールドワークの他は輪読形式で講義を進めるので、最低、単語は調べておくこと。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・観察に必要なルーペ等 ・図鑑類（日本語版、英語版5～6冊 講義中に紹介する）等 <p>必ず購入すること。</p>
評価方法	<p>出席回数、出席態度（予習の度合い）、通常のレポート、夏期休暇のレポート等の結果を総合して決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>上記の目標を達成するためにも、すでに動植物の種類を一通り知っているか、これから学ぶことを苦としない学生諸君、観察旅行費用、資料（本代）購入は当然と思うが学生諸君、野山を数時間歩く体力と根気力のある学生諸君の履修を期待する。</p>	

科目名	共通演習	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標および講義概要	<p>ーロドリゲス著「日本小文典」を読むー</p> <p>編者ロドリゲスは、十六、七世紀の大航海時代に、キリスト教宣教のために来日し、通訳として、豊臣秀吉、徳川家康と折衝に当たる一方、来日するイエズス会宣教師の日本語学習のために、日本語文法書を編纂した。当時の日本には、まだ体系としての文法書はなかったことを考えれば、ロドリゲスの学問的功績は大きい。</p> <p>さらに、大航海時代のヨーロッパにおける人文主義は、立派な言葉遣いの出来る人間こそ教養人だと考えていた。そのため、キリスト教を宣教する上で、宣教師は、正確で、典雅な、上流知識階層の用いる日本語、とりわけ敬語が正しく話せることが必須条件とされた。</p> <p>ただ、十七世紀になると、江戸幕府の禁教政策のために、日本語を十分に時間をかけて学習する余裕がなくなったため、速修的学習の必要に迫られた。マカオに追放されたロドリゲスが、日本小文典（簡約日本語文典）を編纂したのはこの故である。</p> <p>その中で彼が強調したことは、学習者側に「学習意欲のあること」を前提として、①よい教師につくこと。②適切な教科書を使うこと。③効率のよい指導法によること、をあげている。そして、この文典の約三分の一の紙幅を「敬語」の記述に費している。</p> <p>多くの日本人が、殉教したのは、こうした宣教師たちの日本語を通して、真にキリスト教を理解し、共感できたからである。換言すれば、異教徒に、死を納得させるほどの日本語を外国人宣教師が修得できたのは、外ならぬこの教科書によったのであった。効率のよい学習法を、この演習を通して学んでほしい。</p>		
使用教材	テキスト	池上岑夫訳注『J. ロドリゲス編著日本小文典』（岩波文庫）原著1621年刊	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・土井忠生訳注『ロドリゲス日本大文典』（三省堂） ・大塚高信訳注『コリャード日本文典』（風間書房） ・日埜博司編訳『ジョアン・ロドリゲス日本小文典』（新人物往来社） 	
評価方法	演習。前後期末にレポート各1本		
受講者に対する要望など	将来、とくに日本語教師を志す学生の受講が望ましい。		

科目名	共通演習	担当者名	佐藤 勘治
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>「何を勉強したらいいんだろう」、「どう勉強したらいいんだろう」と真剣に悩んでいる学生とともに、「研究とは何か」について知ることを目的にする。優れた研究者による研究の実例を学び、研究するよろこびと難しさを体験する演習にしたい。また、研究レポートの作成方法を実践を通して学ぶことも目的の一つにしたい。なるべく広い範囲にわたって、現代的な課題に答えている研究者の論考を取り上げるが、どうしても人文・社会科学分野に偏ることになる。特に「民族と国家」に関する諸論考を年間の中心テーマにする。</p>	
講義概要	<p>現代日本を中心に、斬新な視角を提示している研究者の比較的短い論文、あるいは新書・文庫本として発行されているものを短いものであれば毎週一・二編、長いものであれば二週から三週に一編ずつ読み進め、受講者全員での意見交換をおこなう。受講者の人数にもよるが、毎回一・二名の報告者を決めたいと思う。</p> <p>はじめは入門的なものから読むようにし、後期にはいわゆる研究論文も取り上げることにする。また、後期には、年間のテーマに沿って研究レポートの作成を指導し、何回かはレポート発表の場を設けたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>開講時に年間の読書計画を提示したい。初回は『国際交流』No.63「特集：日本人と多文化主義」（田中宏、山内昌之、網野善彦他）当方で用意する。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>演習への積極的参加とレポート</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回、指定図書・論文の読書（数十ページ、百ページまで）が求められる。新書・文庫については自分で用意してもらおう。</p>	

科目名	共通演習	担当者名	清水 透
-----	------	------	------

講義の目標	<p>独・英・仏の3学科の教育内容のみならず、私達の価値認識そのものを根底から支えているのは、おそらくは近代西欧的な価値基準であろう。「現代文明」を支えてきたのは、まさにこうした西欧近代であったといえるだろうが、その負の側面をも同時に構造的に把握しないかぎり、西欧近代を総体として理解することはできない。</p> <p>以上の問題意識を背景として、近代世界の支配的文化から疎外されてきた人間集団、場、価値に接近し、私達の価値認識を再検討すること、それがこの演習の目標となるであろう。</p>	
講義概要	<p>まずは、福沢諭吉と松前藩にかんする文献をてがかりに、近代日本のありかたを考える。ついで、博物学の歴史にかんする文献を中心に、西欧近代について考える。前期はこれらの課題の検討と同時に、文献の読み方、報告のまとめかたを習熟する。後期では、各自テーマと文献を設定し、順次報告と討論をおこなう。</p>	
使用教材	テキスト	学期のはじめに指示する。
	参考文献	
評価方法	毎回の報告と最終レポート	
受講者に対する要望など	特になし	

科目名	共通演習	担当者名	城田 俊
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本文法はいまだ未開拓である。小学生・中学生でも理解でき、外国人に対する日本語教育にも役立つ現代日本語の文法体系の把握の仕方を考察する。ひいては全国民的合意のもとにある文法の構築をめざす。</p>		
講義概要	<p>品詞、時制・アスペクト、話法（ムード）、ヴォイス、文の種類、主題・主語 連体修飾、接続、ハトガ等、日本語文法の重要テーマをとりあげ、重要文献を読みつつ、考察を深めていく。特に、形態論的水準の区別には注意を払っていくつもりである。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味』Ⅰ－Ⅲ、くろしお出版 ・鈴木重幸『日本語文法形態論』 むぎ書房 ・三上章『現代語法序説』 くろしお出版 ・井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』 バベル・プレス ・その他雑誌論文は演習の進行に従い指示する。 	
評価方法	<p>レポート、発表、学習・研究態度を見て総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>参加者の調査・研究・発表をもとに演習を進める。積極的参加が望まれる。</p>		

科目名	共通演習	担当者名	高橋正男
-----	------	------	------

講義の目標	<p>近年われわれはユーラシア大陸の広大な地域を占めている西欧、東欧・ロシア、中東で相次いで起こった政治情勢の劇的な変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。</p> <p>本年は昨年を引き続きイエフサレムの多様な歴史を現代を基点に考古学・歴史学の成果を踏まえて中世・古代を展望する。併せて学習作法を懇切に伝授する。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・立山良司著『エルサレム』（新潮選書）新潮社、1993年 ・D=バハト著 高橋正男訳『図説エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男『エルサレム』（世界の都市の物語）文藝春秋、1995年 <p>随時紹介する。</p>	
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>毎週休まずに演習に積極的に参加できるよう生活設計をたてることを希望する。</p>		

科目名	共通演習	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	------	------	---------

演習の目標	<p>本演習は、専門教育に先立つ基礎力養成と大学教育の果すべき「生涯学習」能力の育成を目的として、「自己指導力」や「自己教育力」と呼ばれる自主的能力の形成を図るため、主体的かつ相互的な「自己決定学習」(self-directed learning)を経験することを目標とする。</p>		
演習概要	<p>本演習は、ゼミ生が各自で研究テーマを設定して、主体的に自分の勉強を進める。そのため、研究テーマの設定や必要な参考文献、研究方法等を見出す指導が随時なされる。</p> <p>演習の進め方は、各自が研究の発表を行い、それについての質疑応答そして担当教員からのコメントがなされる。またゼミ生全員が共通に関心をもつテーマがある時は、そのテーマを共同で研究し、発表や討論を重ねながら学習を深める。</p> <p>「生涯学習」等の知識が必要であるならば、文献講読や担当教員の講義等が行われる。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『生涯学習の理論』 宮坂広作著 東海大学出版会 ・『自己学習能力を育てる』 波多野諠余夫 編 東京大学出版会 	
評価方法	<p>ゼミ活動への主体的な参画と各自の一年間の研究をまとめたゼミ論によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	共通演習	担当者名	中西 栄子
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>①日本語と英語の相違を見ながら、その後ろにある文化・発想の違いについて考える。</p> <p>②英文を自然な日本語に翻訳する能力を養成する。</p>	
講義概要	<p>前期では個々の文型や表現について英語と日本語を対照比較させながら英語から日本語に翻訳する場合、具体的にどのような点を考慮していったらいいかを考える。その上で、該当する構文・表現が含まれている短い文章を実際に訳す練習をする。後期からは、前期で学習した点に考慮しながら、英語の短編小説を自然な日本語に翻訳し、まとめていく。</p>	
使用教材	テキスト	<p>前期：プリント</p> <p>後期：短編小説（相談の上決定）</p>
	参考文献	<p>最初の授業で指示</p>
評価方法	<p>100%の出席と与えられた作業をきちんと果たすこと。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	共通演習	担当者名	古川 堅治
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>大学での「ゼミ」(演習)というものがどのようなものであるか、また、学科専門科目にとらわれず、幅広い知識、考え方を身につけてもらうという大前提のもとに、本ゼミは「ギリシア学入門」と題し、ギリシアの古代文化、政治・社会を全体としてありあげ、異質な社会、異文化理解に役立てることを目指すものである。話題は時には、現代ギリシアの諸状説に及ぶこともあるかも知れない。歴史を通時的にも共時的にも見ようということが含意されているから、このゼミを通して歴史的思考を学ぶことも知って欲しい。</p>	
講義概要	<p>本年度は具体的に「ギリシアの演劇(悲劇・喜劇)」をとりあげ、それらの社会的・政治的・文化的意味をさぐっていく。その過程で悲劇作品や喜劇作品を何篇か読んでいく。基本的にはこちらが話題のタネを提供し、それをもとにディスカッションする形式をとりたい。理解を深めるために、映像資料もできるだけたくさん使い、アットホームな雰囲気の中で進めていくつもりである。</p>	
使用教材	テキスト	原則として使わない。
	参考文献	その都度指摘していくのでとくにここではあげない。なお、参考文献は基本的に日本語のものを使う。
評価方法	<p>年に1回か2回、簡単な報告をしてもらい。平常点を加味して評価。従って、試験とかレポートは課さない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>「入門」なので、だれでも気軽に参加したい人々を募る。</p>	

科目名	共通演習	担当者名	松原 裕
-----	------	------	------

講義の目標	一人一人が正しい健康観をもち、運動の文化的意義を理解するとともに運動を具体的に実践することを目標とする。		
講義概要	<p>—基礎スキー—</p> <p>大学における保健体育の目的は、一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することです。</p> <p>この演習では、生涯スポーツの一つとしてスキーを取り上げ、受講生が社会人となっても明るく健やかに過ごすための手段として、身に付けて欲しい。</p> <p>学内授業ではスキーの運動特性、運動構造、技術の組み立てについて学び、次に技術の床トレニングを行なう。</p> <p>シーズンに入り雪上で実践トレーニングを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』 全日本スキー連盟編	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「日本スキー教程」 ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」 	
評価方法	毎時間の出席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。		
受講者に対する要望など	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通してスキーの一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続けて欲しい。		

科目名	共通演習	担当者名	三本 茂
-----	------	------	------

講義の目標	<p>多くのひとびとが、さまざまな地域で多様なひとびとと出会い、生活を見たり行事を体験している。</p> <p>こうした体験は、ひとりだけの「個人的思い出」であってもさしつあえはないが、文章に書いたり映像として他の人々に伝えることによって社会の共通財産となる。また、こうして他人に伝えられ理解されることによって自身の体験をより広い視野で見直すことを可能にする。</p> <p>ルポルタージュの方法を学ぶことによって、上記の方法を身に付けることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>ルポルタージュとは、体験の報告といった意味の言葉であるが、本多勝一氏の「ルポルタージュの方法」をテキストにして、基本的な知識を学ぶとともに、必要な技術として発想とその体系化、記録法、資料の整理法、書くための用具や撮影機材について体験的に学習する。</p> <p>さらに、いくつかの対象について実際に書いたり撮ったりすることによって、上に挙げた技術を各人が身に付ける機会にしたい。</p>		
使用教材	テキスト	本多勝一「ルポルタージュの方法」、「日本語の作文技術」いずれも朝日文庫 朝日新聞社	
	参考文献		
評価方法	演習中に提出するルポルタージュ、組み写真等によって評価する。		
受講者に対する要望など	知識として知りたいというだけでなく、自分で行動し、そこで得たものをひとに伝え共有し、共に考えていきたいという学生の参加を期待している。		

科目名	政治学(旧)	担当者名	柴田平三郎
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>現代の政治は国の内側においても外側においても複雑をきわめている。簡単に理解しうるなどと夢々思わないほうがよいと思う。マックス・ウェバーは政治を理解するには年をとらねばならないと言ったが、けだし至言である。この政治学入門は、文字通り政治を学ぶ入口の役目が課されていると思うが、その政治は結局人間によって営まれているので、政治と人間のかかわり合いの姿を注目していくことに力点が置かれると思っている。</p>	
講義概要	<p>単なる時事問題の解説とか制度の仕組みの解説とかではなく、政治の原理を学ぶ場所にしたいたいと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	<p>この原稿を書いている時点では未定。</p>
	参考文献	<p>政治学の基礎文献は無数にある。講義のなかでできるだけ多く紹介するつもりである。この講義が終ったあとにおいてもじっくり読み続けてほしいと思っている。</p>
評価方法	<p>前期・後期の2回のテキストを基本に評価を決定する。その間、レポートを課す場合もありうる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>言わずもがなのことであるが、学びたい意欲のある者だけが講義への真の参加者である。そのことをよく弁まえてほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔以下は、あくまでも当初の予定である。型通りに進まない可能性のあることを断っておく。〕 政治学入門を始めるにあたって。
2	政治とは何か。政治の定義の多様性。その語源的意味と歴史の変容。
3	政治の構造的な理解——力・倫理・技——について論じる。
4	同つづき。
5	政治と人間のかかわり合いについて論じる。
6	同つづき。
7	政治学の学問的性格——哲学と科学。
8	同つづき。
9	政治を動かすもの——力と思想の二契機。
10	(1)力〔権力〕の理解。
11	同つづき。
12	前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(2)〔思想〕の理解。
2	同つづき。
3	近代国家とは何か——歴史・思想・制度。
4	同つづき。
5	近代を動かした三つの政治的イデオロギー——保守主義・自由主義・社会主義。
6	同つづき。
7	同つづき。
8	民主主義とは何か——歴史・思想・制度。
9	同つづき。
10	現代日本の政治。
11	同つづき。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	政治学(旧)	担当者名	星野昭吉
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>今日、われわれは、その日常生活が政治によって大きく左右される「政治化の時代」に生存している。巨大で、複雑で、流動的で、不透明な政治の世界の全体像を再構成して、政治とは何か、われわれにとって政治の意義とは何か、政治はどのようにわれわれの日常生活に入り込を、影響を及ぼしているのか、どのような政治問題が存在しているのか、その問題を解決するのにわれわれはどう対応すべきか、などを解明したい。また、そのため必要な政治学の理論や基本的概念を検討し、政治に対する見方、考え方、政治のあり方を模索する。</p>		
講義概要	<p>政治の実像を統治・権力と参加・運動という二本の軸の弁証法的展開運動として捉え、その中でわれわれの日常生活・社会とのかかわりを見ていく。そのために、政治概念の歴史性を検討し、その上で、政治と統合、政治権力概念の本質・意味・構造・手段・変動を究明し、国家の存在とその意義、政治指導のあり方を問う。また、政治を動かしていく体制や政治の仕組みを解明し、政治がどのように具体的に変動していくのか、政治が政党、利益集団、大衆、世論によってどのように形成・展開されていくのかの政治過程の分析を通して、大衆が政治にどのように参加し、かかわりをもっているかを考察する。最後に、日本の政治文化を問いながら、現代日本の政治の実態と問題点を把握し、その対応を考える。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	講義開始後に参考文献リストを配布する。	
評価方法	前期にはレポートを提出してもらい、後期にはテストを受けてもらい、総合して評価する。		
受講者に対する要望など	テキストを使用しないので、必ずノートを作ってほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代政治の本質と問題、政治学の課題。
2	政治と人間。
3	政治概念と思想の歴史性－1：近代。
4	政治概念と思想の歴史性－2：現代。
5	政治と統合。
6	政治権力概念－1：権力の本質とその意味。
7	政治権力概念－2：権力の二重構造。
8	政治権力概念－3：権力的手段。
9	政治権力概念－4：権力の変動。
10	政治と国家。
11	政治と社会。
12	政治指導とエリート論。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治体制－1：民主主義。
2	政治体制－2：社会主義。
3	政治と大衆参加。
4	政治制度－1：議会主義。
5	政治制度－2：官僚制。
6	政治変動。
7	政治過程－1：政党と選挙。
8	政治過程－2：利益集団。
9	政治過程－3：大衆と世論。
10	国内政治と国際政治の連動性。
11	日本の政治文化。
12	現代日本の政治の現状と課題。
備考	

科目名	数学Ⅱ(旧)	担当者名	遠藤 信
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。</p>	
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。
評価方法	前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の定義 行列の演算
3	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
4	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列を求める方法
11	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
12	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数と関数の極限 関数の連続
2	関数と関数の極限 関数の連続
3	微分係数と導関数の定義
4	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
5	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
6	平均値の定理 関数の極大・極小
7	平均値の定理 関数の極大・極小
8	偏微分の定義 偏微分の応用
9	偏微分の定義 偏微分の応用
10	不定積分と定積分
11	不定積分と定積分
12	微積分の社会科学への応用
備考	

科目名	自然科学概論 (旧)	担当者名	遠藤 信
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、また、それがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙についてどこまで解明しているかということを、生々しく、定性的に、また感性的にでも分かってもらうことが講義の目標である。</p>
講義概要	<p>前半では、究極の物質は何かについて講義する。デモクリストス以来、自然科学が追求してきたこの問題を、歴史をたどりながら、現在ではどのように考えられているかを説明し、また、ミクロの世界の理論である量子論について講義する。</p> <p>後半では、相対論を中心に講義する。この理論がどのようにして生まれたか、また、相対論がもたらした結果について考察し、さらに宇宙の成り立ちや進化について現代の科学はどこまで解明しているかについて述べる。</p> <p>授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わないこと。また、講義の進行に合わせてビデオを観る。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>特に定めない。必要に応じてビデオを利用する。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広瀬立成著『現代物理への招待』培風館 ・アインシュタイン-インフェルト著 石原純訳『物理学はいかに創られたか』(上、下巻) 岩波新書 <p>その他、適当と思われるものを、授業中に示す。</p>
評価方法	<p>①年に1～2回、授業中にまとめのレポートを提出する。この際、自筆のノートのみ使用可とする。</p> <p>②後期に試験をおこなう。</p> <p>①と②の成績に出席状況を考慮して、成績評価をおこなう。</p>
受講者に対する要望など	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	根元物質をめぐる先人達の考え
2	原子とその構造
3	量子の世界
4	量子の世界
5	素粒子
6	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
7	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
8	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
9	自然界の力 力の統一
10	自然界の力 力の統一
11	自然界の力 力の統一
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とエーテル
2	光速度の測定
3	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
4	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
5	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
6	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
7	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
8	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
9	特殊相対性理論
10	宇宙のはじまり 相転移
11	宇宙のはじまり 相転移
12	まとめ
備考	

科目名	文献調査法（旧自）	担当者名	小田光宏
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>質の高い論文を執筆するには、関連文献の調査をまず行うことが必要である。この授業では、卒論（ゼミ論）執筆を予定している3年生に焦点を合わせ、文献調査に関わる以下の知識や技術を身につけることを目標とする。</p> <p>①論文執筆における文献の意義についての理解 ②文献を活用した論文作成に対する理解 ③文献に関する情報の効果的な探索 ④文献収集の実践的な技術 ⑤文献リストの作成技能</p>	
講義概要	<p>本講は、「論文執筆と文献」、「雑誌論文の探索」、「図書の探索」、「文献リストの作成」の四部から構成される。第一部では、論文執筆と文献との関係を理解する。第二部では、論文執筆の最重要課題である雑誌論文の探索技術を身につける。第三部では、一般的な知識を入手するために、図書の探索方法を学ぶ。第四部では、収集した文献をリストとして表記するための技能を習得する。第一部は講義と演習を組み合わせ、ビデオ教材を活用して文献調査の概要を理解する。第二部と第三部では、演習と実習を行い、文献探索の実際を体験する。第四部では演習と個別指導によって、一定のテーマの文献リストを完成させる。この作業のために、本年度は文献カードの作成を前提とした指導を行う。</p>	
使用教材	テキスト	長澤雅男『情報としてのレファレンス・ブックス 新訂版』日本図書館協会 1994
	参考文献	長澤雅男『情報と文献の探索 第3版』丸善 1994
評価方法	<p>理由を問わず授業への8割以上の出席と個別指導を受けることを最低条件とする。その上で、前期定期試験（40%）、提出課題4回（20%）、文献リスト（40%）を、かっこ内の割合に基き合計して評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業ではきわめて実践的な知識と技術を扱う。したがって、出席して作業に参加することが重要である。また、演習課題の整理や文献カードの準備などに関して、ひとつひとつの指示を守ることも大切である。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、提出課題、評価基準、テキストの使用法、参考文献について詳細に説明する。また、文献カードの購入についての指示を行う。[講義形式]
2	文献調査の基本知識：文献の種類について整理し、論文執筆に重要な文献とはなにかを理解する。また、文献の役割と活用のしかた（参考文献、参照文献、引用文献など）を理解する。[講義形式]
3	文献探索と論文執筆過程：ビデオ「レポート・論文のまとめ方」に基づいて、基本的な論文執筆のプロセスとスケジュールについて認識する。[講義・演習形式]
4	文献探索の情報源(1)：ビデオ「図書館の機能」に基づいて、文献調査を実施する図書館の基本的な使い方に関して確認を行う。[講義・演習形式]
5	文献探索の情報源(2)：情報源として用いるレファレンス・ブックスやCD-ROMについての概要を理解し、それぞれの特徴に応じた使い分けを学ぶ。[講義・演習形式→テキスト1章]
6	文献探索の情報源(3)：文献探索の前提となるさまざまな事実について確認するための道具と方法に関して理解する。[講義・演習形式→テキスト2～6章]
7	雑誌記事の探索(1)：雑誌と雑誌記事の関係について理解した上で、ビデオ「雑誌記事の探索」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
8	雑誌記事の探索(2)：「雑誌記事索引」、「総目録」、「総索引」の具体例とそれぞれの利用方法について学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
9	雑誌記事の探索(3)：CD-ROM形態の「雑誌記事索引」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、雑誌記事の入手方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
10	雑誌記事の探索(4)：テーマから雑誌記事を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
11	探索実習(1)(2)：雑誌記事を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
12	雑誌記事リストの作成：雑誌記事情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	図書の探索(1)：ビデオ「文献探索の基礎」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト7章]
2	図書の探索(2)：書誌の種類とそれぞれの利用方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
3	図書の探索(3)：CD-ROM形態の「書誌」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、図書の入手方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
4	図書の探索(4)：テーマから図書を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
5	探索実習(3)(4)：図書を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
6	図書リストの作成：図書情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
7	参照・引用文献の表示：論文中で使用した参考文献や引用文献の表示の一般的な方法について理解する。[演習形式]
8	文献リストの作成(1)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
9	文献リストの作成(2)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
10	文献リストの作成(3)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
11	文献リストの作成(4)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
12	まとめ：提出された文献リストを評価し、講評する。
備考	

科目名	国際関係論 1, 2 (旧自)	担当者名	有賀 貞
-----	-----------------	------	------

講義の目標	国際政治論 a (竹田いさみ担当) とともに、現代の国際関係を理解するための基本的知識と考え方の枠組みを提供する。		
講義概要	I 西洋的国際社会の形成と世界への拡大、II 国際関係の中の戦争と外交、III 経済発展・社会変動と国際政治、IV 現代国際関係の特色について、それぞれ何回かに分けて、講義する。		
使用教材	テキスト	資料集として細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』(有信堂)。	
	参考文献	学年のはじめに紹介する。	
評価方法	学年はじめまでに決める。おそらく試験 2 回とレポート 1 回、または試験 1 回とレポート 2 回。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	西洋における近代国際社会の形成（より詳しいシラバスは授業の際に配布する）
2	非西洋世界の国際関係
3	西洋国際システムの世界化
4	西洋的国際社会への日本の参入
5	近代国際関係の中の外交
6	近代国際関係の中の戦争
7	国際政治学と国際経済
8	社会変動と国際政治
9	国際機構の形成と発展
10	植民地帝国の解消と新興国の政治
11	社会主義世界の変化と解体
12	世界資本主義時代の国際関係
備考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わさるもう一方の教員（竹田いさみ）のシラバスも参照してください。

英語学科学学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。

科目名	国際関係論 1, 2 (旧自)	担当者名	竹田 いさみ
-----	-----------------	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これば料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p>		
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。</p> <p>講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>		
使用教材	テキスト	講義用資料集	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989） ・猪口孝『国際政治経済の構図』（有斐閣、1982） ・衛藤藩吉他『国際関係論』（東京大学出版会、1982） ・川田侃『国際関係の政治経済学』（日本放送出版協会、1980） ・高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966） ・P・ピオティ、M・カピ『国際関係論』（彩流社、1993） ・細谷・臼井編『国際政治の世界』（有信堂、1993） ・蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992） 	
評価方法	<p>評価はレポートするか試験にするかは、授業の進み方を検討して決めます。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	①国際関係を見る眼：木・林・森 ②国際関係の世界：戦争と平和（伝統問題） 繁栄と貧困（南北問題） 世界経済ネットワーク、開発・環境・生存
2	①国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー彗星・ケインズ・キッシン ジャー） ②政治とはなにか：有限の世界、無限の欲望（利害の調整）
3	政治過程：権力+正統性=権威 ②人間・政治・権力—グロティウス・ホッブス、カント
4	国際関係：研修作業
5	国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム—意味・単位・構造・過程
6	現実主義・パワー論① precursor：トゥキディデス～E.H.カー 2つの世界観：E.H.カー：ユートピアニズ ム VS リアリズム 勢力均衡論：古典的リアリスト VS ウォルツ流ネオリヤリスト
7	現実主義・パワー論② 勢力均衡論：ヨーロッパ古典外交の特色 ウィーン会議：「会議は踊る」「会議はなぜ 踊ったのか」 メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー
8	現実主義・パワー論③ ビデオ教材「会議は踊る」
9	多元主義・相互依存論—EU（欧州連合）の出現・パワー論の補完・トランスナショナルリズム
10	グローバリズム・従属論—反欧米思想・南の主張・世界システム
11	国際政治と利害調整メカニズム
12	まとめ
備考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わせるもう一方の教員（有
賀貞）のシラバスも参照してください。

英語学科学学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録する
と、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。

科目名	スペイン語Ⅱ（総）（旧自）	担当者名	各担当教員
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総の続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。具体的には、二つある過去形の使い分けを自由に行えるようにすることが中心となる。</p>		
講義概要	<p>主な文法項目は、単純過去、不完了過去、動詞の原型の使い方、現在進行形である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。テキストのUnit7からUnit13を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語ⅡLとの組み合わせで受講することを要望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ(L)(旧自)	担当者名	高松 朋子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語ⅠLの続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語Ⅱ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>原則としてスペイン語Ⅱ総との組み合わせで受講すること。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ（読）（旧自）	担当者名	佐藤 勘治
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総の既習者を対象とした、スペイン語読解の入門的授業である。スペイン語Ⅰでは、いわゆる読みの授業を用意していなかったが、文法の基礎を学んだ二年目の段階で、簡単なスペイン語文献を読み進むことで、より広範囲なスペイン語力を身につけてもらいたいとおもう。また、スペイン・ラテンアメリカの文化・社会・自然などについての簡単な読み物を読むことで、スペイン語圏の文化の一端に触れられる授業としない。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてレベルを設定し、簡単な読み物から読み進める。文法事項は、スペイン語Ⅱ総の進度を考慮しながら、適宜補いたい。初回は、スペイン語圏で最も人気のある漫画マファルダを教材にし、以後グアダルペの聖母伝説、新聞のニュース記事などを考えている。人数にもよるが、受講者は、ほぼ毎回自分の訳を発表することになる。場合によっては、グループ学習の方法を取り入れたい。</p>	
使用教材	テキスト	プリントを用意する。
	参考文献	
評価方法	出席および授業への積極的参加、および年2回の定期試験	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総の既習者は、是非受講を考えてもらいたい。また、スペイン語Ⅱ総の同時受講を希望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ（総）（旧自）	担当者名	北岸 団
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>第三外国語としてのスペイン語の三年目である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象として、より高度で総合的なスペイン語能力の習得を目的とする。主要な文法項目をすべて身につけ、口頭表現に加えて文章を作る能力を習得させたい。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総に引き続いて、復習をおこなった上で、同じテキストを順次進めていく。既習の文法項目のより高度な表現法をまなぶとともに、接続法の使い方、表現法も課題とする。テキストは、Unit13からである。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ総の既習者は、履修を是非考慮していただきたい。スペイン語ⅢL、およびスペイン語Ⅲ読との同時履修を希望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ(L)(旧自)	担当者名	霞 洋子
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅱ(L)の続きの授業である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅲ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力(聞き取りと話す能力)を養うことを目的とする。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を用い、スペイン語Ⅲ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ・スペインニュース等を通して生きたスペイン語の世界に触れ、聞き取りの練習に役立てる。進度については、スペイン語Ⅲ総のシラバスを参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅲ総の受講者の同時受講を希望する。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ（読）（旧自）	担当者名	高松 朋子
-----	---------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅲ（読）では、主に基本的な読解力を養うことを目的とし、自然な日本語で西文和訳出来るようにしたい。</p>	
講義概要	<p>スペイン、並びにラテンアメリカ諸国の簡単な読物、例えば、雑誌、新聞記事、その他イスパニヤ文化に関する書物から抜粋したものをテキストとして講読しながら、自然な日本語で西文和訳できるように。</p> <p>又必要に応じて随所にスペイン語文法（特に接続法等）を折り混ぜながら勉強していきます。</p>	
使用教材	テキスト	<p>随時テキストをプリントして用意します。</p>
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	<p>イスパニヤ文化に興味を持たれている方は、誰でも歓迎いたします。</p> <p>楽しくスペイン語とイスパニヤ文化を学びましょう！</p>	